

一般財団法人 ライフ・プランニング・センター

年報 2016

平成28年度
(2016.4~2017.3)
事業報告書

6

(通巻44)

目次 (2016年度年報)

はしがき	日野原 重明 ... 1
健康教育活動	2
1 ■ 財団設立43周年記念講演会・2	
2 ■ セミナー・講演・2	
3 ■ 出版広報活動・7	
4 ■ 「ホイトフィールド・万次郎友好記念館」協力の会活動について・7	
「新老人運動」と「新老人の会」の運営	9
1 ■ 「新老人の会」会則・規約・規定集・10	
2 ■ 地方支部の設立・10	
3 ■ 地方支部規約・10	
4 ■ 「世話人会」の開催・11	
5 ■ 「拡大世話人会」の開催・11	
6 ■ 「第18回拡大世話人会」・11	
7 ■ 地方支部の運営と活動・13	
8 ■ 海外支部の設立・16	
9 ■ 海外連絡団体・17	
10 ■ スマート・シニア・アソシエーション (SSA) の活動・17	
11 ■ 有志の会と多摩地区の活動・17	
12 ■ 本部活動のトピックス・18	
13 ■ 「第10回ジャンボリー」東京大会・18	
ヘルスボランティアの育成と活動	24
1 ■ 模擬患者ボランティアの育成と活動・24	
2 ■ 血圧測定ボランティアの育成と活動・28	
3 ■ LP ボランティア研修会・28	
4 ■ ライフ・プランニング・センターボランティア連絡会議・28	
カウンセリングー臨床心理・ファミリー相談室	29
1 ■ 個別カウンセリングについて・29	
2 ■ 企業におけるメンタルヘルス対策への取り組み・29	
3 ■ 教育活動・29	
4 ■ その他の活動・30	
教育的健康管理の実践 (日野原記念クリニック)	31
1 ■ クリニックの目指すもの・31	
2 ■ 診療体制の現状と将来方針・31	
3 ■ 診療の概要・32	
4 ■ 各種検査数の推移・33	
5 ■ 婦人科検診 (子宮頸部がん細胞診 [PAP 検査], 子宮体部がん細胞診)・33	
6 ■ 総合健診 (人間ドック)・33	
7 ■ 集団の健康管理・35	
8 ■ 健康管理担当者セミナー・36	
9 ■ クリニックにおける総合健診 (人間ドック) の特徴と看護師の役割・37	
10 ■ 情報管理・38	
11 ■ 食事栄養相談・39	
12 ■ 学会・研究会・セミナー参加・40	
日野原記念ピースハウス病院	41
1 ■ 診療活動・41	
2 ■ 看護部の活動・42	
3 ■ ボランティア活動・43	
ピースハウスホスピス教育研究所	46
1 ■ 活動の全体像・46	
2 ■ 活動の実際・48	
3 ■ 学会等参加活動・50	
4 ■ 「日本ホスピス緩和ケア協会」事務局として・50	

訪問看護ステーション中井	51
1 ■ 訪問看護について	51
2 ■ 居宅介護支援について	51
3 ■ 研修・地域貢献活動等の実績	52
4 ■ 次年度への展望	52
会 員	53
1 ■ 健康教育サービスセンター会員	53
2 ■ 健康教育サービスセンター団体会員	53
3 ■ 「新老人の会」会員	53
4 ■ 財団維持会員（個人維持会員，団体維持会員）	54
役員・評議員	55
財団報告	56
1 ■ 理事会・評議員会報告	56
2 ■ 寄 附	57
3 ■ ピースハウス友の会	57
4 ■ ボランティアグループの活動	57

はしがき

理事長 日野原 重 明

2016年度の当財団の活動を、本年報によってご報告いたします。

まず、これまでライフ・プランニング・クリニック、およびピースハウス病院という名称で活動してきた2つの部門が、このたびそれぞれ「日野原記念クリニック」、そして「日野原記念ピースハウス病院」という新しい名前になりました。1973年の設立以後43年を経て、設立者である私の名前が冠されたこととなります。活動の実態はこれまでと変わるところはありませんが、私のこれまでの人生において占めてきた当財団の存在を考えますと、新しい名称に合わせ、改めて事業の存続と発展を願わずにはいられません。

何よりうれしいことは、1年間休院を余儀なくされていた日野原記念ピースハウス病院の再開です。開院から23年にして休院に至らざるを得なかった事情や再開に向けての関係者のひたむきな努力など、言葉には表せない貴重な体験でしたが、これを糧にして、一層地域の方々に支持される「ピースハウス」としてのあり方を関係者とともに探っていきたいと思います。

健康教育サービスセンターの活動は、スペースの問題のある中で、これまでのように「国際ワークショップ」「フィジカルアセスメントセミナー」「一般セミナー」「模擬患者活動」などと取り組んできました。特に厚生労働省後援による「がんのリハビリテーション研修」「新リンパ浮腫研修」は、がん医療に関わる医療者にチームとして参加することを求めるなど、チーム医療を体得する研修の場として高い評価を得ています。

「新老人の会」の活動については、私の健康上の理由によりこれまでのように「新老人の会」会長として全国を訪れる機会が減る中で、全国46の地方支部の力がどのように発揮されていくか、期待するところでもあります。

今年度も当財団に関心をお寄せいただいた皆様に感謝し、引き続きのご支援をよろしく願いいたします。

2017年 5月

[2016年度の主な催し]

2016	4. 1	ピースハウス病院は日野原記念ピースハウス病院と名称を新たにして再開
	5. 28	2016年財団設立43周年記念講演会「想いを伝える ことばの心 ことばの力」を笹川記念会館国際会議場で開催
	8. 20-21	LPC 国際フォーラム2016「物語能力があなたの日々の臨床を変えるーリタ・シャロン教授の『ナラティブ・メディスン』ー」を聖路加国際大学で開催
	11. 7	「新老人の会」第10回ジャンボリー東京大会「平和への思いをひとつに」を品川プリンスホテルで開催
2017	2. 25-26	第24回ホスピス国際ワークショップ「喪失と悲嘆ー悲嘆ケアの専門家とともに考えるー」をホスピス教育研究所で開催

健康教育活動

健康教育サービスセンター 所在地：東京都千代田区一番町29-2 一番町進興ビル1階

一昨年の砂防会館旧館建替えに伴う一番町進興ビル（千代田区一番町）への事務所移転に伴い、これまで健康教育施設として利用してきた視聴覚教室、多目的フロアー、および図書室スペースを整理したため、健康教育サービスセンターは事務所機能のみとなった。そのためプログラムは他の施設と進興ビル内にある会議室を借用して実施することになった。また、本年度4月より日本財団の助成金による助成事業も終了したため、当センターの活動は採算的に成り立つものだけに絞られる形になった。

以下にその内容を記すが、患者と専門職が手を携えてよりよい医療を構築していくという財団設立当初の理念を再確認しつつ、現在の日本社会において求められる健康教育についてこれからも活動を続けていきたいと思う。

1 財団設立43周年記念講演会

日時 2016年5月28日(土) 13:40~16:30

会場 笹川記念会館国際会議場（港区三田）

参加者 699名

テーマ 「想いを伝える ことばの心 ことばの力」

プログラム

講演1 想いを伝える言葉

日野原重明理事長

講演2 ことばの心 ことばの力

加賀美幸子 アナウンサー・

千葉市男女共同参画センター名誉館長

朗読と音楽プログラム

聖路加フィルハーモニックオーケストラ有志

アナウンサーとして今も現役で活躍される加賀美幸子氏を迎え、こころを伝える言葉のプロとして、さまざま

な思いを語っていただいた。そしてプログラムの後半では、加賀美さんが、日野原理事長といわさきちひろさんの詩画集『しかえししないよ』（朝日新聞出版）から何編かの詩を聖路加フィルハーモニックオーケストラの演奏と共に朗読された。日野原理事長の詩にこめられた「しかえししないよ」の言葉とともに、いじめや争いのない平和な社会の実現に寄せる強い思いが伝わり、会場は深い感動に包まれた。

2 セミナー・講演

1) 医療従事者のためのフィジカルアセスメントセミナー

日野原重明理事長は当財団設立当初から、これからのナースに必要なのはフィジカルアセスメント能力であり、ナースがもっと積極的に診断に参加すべきであると提唱してきた。しかしながらナースの教育にフィジカルアセスメントが取り上げられるようになったのは1980年代に入り、ナースとしての専門的な判断が在宅医療や臨床現場で問われるようになってからである。

当センターでは1996年にナースのフィジカルアセスメント能力の向上を目標に、「在宅ケアに必要なフィジカルアセスメントとケアの実際」として訪問看護に携わるナースや臨床ナース向けにセミナーを開講した。2013年度からは徳田安春筑波大学教授（当時）にセミナー全体のプロデュースをしていただいた。特徴は今までの「疾患」中心の学習から「バイタルサイン」の診かた・解釈を中心に「全身の外観と重症度評価」を中心とした講義と、「フィジカル実技（視診・打診・触診・聴診の診察）」の実習を多く取り入れた。2015年度からは対象をナースだけではなく理学療法士などのコメディカルにも広げ実施している。

2016年度は以下のように開催した。

講師には徳田安春先生（現 JCHO 本部顧問）の推薦による臨床の第一線で活躍中の若手医師をお願いした。どの講師も独自の資料を用意されるなど、講座の趣旨に沿った講義をしていただいた。

受講者内訳は、ナースの他に大学看護教員、理学療法士、作業療法士をはじめ、医師の参加もあった。

受講者からの感想は、「実際の音が聴け、難しさも含め勉強になった。聴診や触診、打診のスキルアップを目指



講演する日野原理事長と加賀美さん



「フィジカルアセスメントセミナー」は、臨床実習を重視した講義が好評
(左：徳田講師、右：和足講師)



して、実際に生かしていきたいと思います」「何となく観察していたことが、根拠をもって観察していける自信ができました。S_pO₂だけでなく、実際に聴いてみることの大切さを痛感しました」など、実際の臨床に役に立つという感想が寄せられた。

●第1回 呼吸器系のアセスメント

日時 7月2日(土) 13:00~16:30

講師 皿谷 健 杏林大学病院呼吸器内科講師

受講者 73名

内容 肺の診察(視診, 触診, 打診, 聴診)方法の実際と、慢性呼吸不全や喘息, 肺炎, 急性・慢性呼吸不全へのアプローチについて

●第2回 循環器系のアセスメント

日時 9月10日(土) 13:00~16:30

講師 水野 篤 聖路加国際病院心血管センター

受講者 56名

内容 心臓の診察(視診, 触診, 聴診: 心音, 心雑音)と末梢動静脈診察と心不全や急性冠症候群へのアプローチについて

●第3回 バイタルサインでここまでわかる

日時 10月22日(土) 13:00~16:30

講師 徳田 安春 JCHO 本部顧問, 筑波大学客員教授
総合診療医学教育研究所代表取締役

受講者 36名

内容 血圧, 脈拍(心拍数), 呼吸, 体温, S_pO₂, 意識レベルの評価と実践的解釈について

●第4回 腹部のアセスメント

日時 12月17日(土) 13:00~16:30

講師 和足 孝之 鳥根大学附属病院卒後臨床研修教育
専任医師

受講者 34名

内容 腹部の診察(視診, 聴診, 触診, 打診)について

●第5回 関節・筋・骨格の診方

日時 2月18日(土) 9:30~12:30

講師 岸本 暢将 聖路加国際病院リウマチ膠原病センター
医長

受講者 35名

内容 関節・筋・骨格の診察法と関節痛, 関節炎, 腰痛, 筋痛へのアプローチについて

●第6回 全身の外観と重症度評価

日時 2月18日(土) 13:30~16:30

講師 徳田 安春 JCHO 本部顧問, 筑波大学客員教授
総合診療医学教育研究所代表取締役

受講者 37名

内容 重症度や緊急度の判断のための全身外観の評価法について

2) LPC 国際フォーラム

テーマ 物語能力があなたの日々の臨床を変えるーリタ・シャロン教授の「ナラティブ・メディシン」

日時 8月20日(土) 9:30~18:00

8月21日(日) 9:00~12:45

会場 聖路加国際大学講堂

講師 リタ・シャロン コロンビア大学医学部臨床医学教授

プランナー 齋藤 清二 立命館大学総合心理学部特別招聘教授

栗原 幸江 がん・感染症センター都立駒込病院
緩和ケア科

講演とワークのテーマ:

講演・1 わが国の医療現場とナラティブ・アプローチ
齋藤 清二

講演・2 ナラティブ・メディシン: 教育と臨床の現場



ナラティブ・メディスンは
さまざまな媒体を教材にして
アプローチ



日野原理事長を真中に
左から齋藤, シャロン,
栗原の各講師



で活かすメソッドとゴール
リタ・シャロン
講演・3 医療におけるナラティブ能力：『神様のカル
テ』を題材に
齋藤 清二
まとめ 日野原重明
ナラティブ・メディスン実践ワークⅠ
「精密読解のワーク」リタ・シャロン
ナラティブ・メディスン実践ワークⅡ

「聴く・鑑賞するワーク」リタ・シャロン
ディスカッション・Ⅰ
わが国におけるナラティブ・メディスンの臨床実践
と教育への展開
司会：栗原 幸江
ディスカッション・Ⅱ
こころ温かな医療の基盤を創るナラティブ・メディ
スンの実践
司会：栗原 幸江

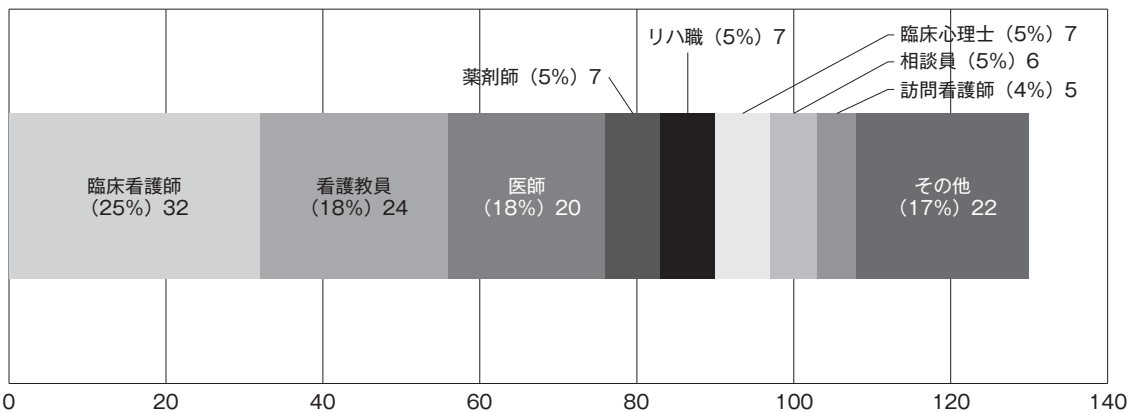


図1 国際フォーラム参加職種構成 (単位% n=130人)

コロンビア大学医学部においては2000年よりリタ・シャロン教授を中心にナラティブ・メディスン（以下NM）プログラムが開始され、それより15年を経た今では、欧米やアジア各国でもこの先駆的なプログラムは広く浸透している。わが国では2016年6月に日本緩和医療学会の招聘で、シャロン教授が初来日。名古屋、横浜、東京でプログラムが開催され、「物語能力を磨く」ことを実感した参加者から大きな反響を呼んだ。

次いで8月には当財団主催の国際フォーラムにおいてもガウダ准教授によるNMワークショップが開催された経緯がある。

今年シャロン教授の再来日が実現し、8月20・21日の2日間にわたって多職種の医療者からなる参加者130名のフォーラムが実現した（図1）。

当日のフォーラムではシャロン教授がコロンビア大学で展開しておられる「病を巡る物語り」「対話における物語能力」に焦点を当てたプログラムの再現として、2つの「実践ワーク」が展開された。1つ（1日目）は小説を精読することとして、夏目漱石の『こころ』を題材として取り上げ、2つ目（2日目）はマインドフルに注意深く聴くこと、そしてゆったりと絵画を鑑賞する演習を行った。文学・芸術・映像・音楽といった多彩な媒体を通じて「対話の相手（患者・家族・他の医療者など）の中に物語を読み解く」感性を育むために、長谷川等伯の『松林図』やブリュッゲルの『婚礼の踊り』など、一枚一枚の絵をじっくりと眺め、そこからさまざまな物語を読み解くエクササイズを行った。これらのエクササイズにより参加者相互の語りから「複数の視点」が共有され、「各々の意見が豊かな発想の刺激となり、理解を深める上で資源となる」経験をした。

このようなワークを積み重ねることは、本来の患者と医療者の関係構築への働きかけとなる。また、医療者同士がプロセスを共有することにより、互いの視点や意見を尊重し、信頼関係を育み、相互に支援し合いながら「患者・家族の苦悩を和らげる」ために協働するチームの形成にも影響するといわれる。

このようなNMの働きは医療に限らず社会全体に対して、これが起点となって化学変化のような変革を引き起こすムーブメントであると感じた2日間の学びであった。

3) 厚生労働省後援「がんのリハビリテーション研修」

(1) 「がんのリハビリテーション研修 CAREER (Cancer Rehabilitation Educational Program for Rehabilitation Teams)」

本研修は2007年度から厚生労働省委託事業として、全国のがん診療連携拠点病院に対して“がんのリハビリテーション”に精通した人材を育成し、がん患者に対するリハビリテーションを普及することを目的にして実施してきた。

また、平成2014年度からは厚生労働省後援研修として全国のがん医療に携わる病院を対象を拡大して研修を推進しており、この研修は「がん患者リハビリテーション料」算定の施設基準のための条件の一つとしての役割も担ってきた。

本年度実績は8回（修了生1,662名）であった（表1）。

(2) 厚生労働省後援「がんのリハビリテーション企画者研修」

企画者研修は2013年度より「がんのリハビリテーション研修 CAREER」と同等の研修を各都道府県や地域で実施するためのノウハウを企画実施者に身につけていただき、広く研修が行われることを目指して実施されてきた（図2）。

2016年度実績として受講による全国の研修会は30回（修了者数3,275名）となっている。

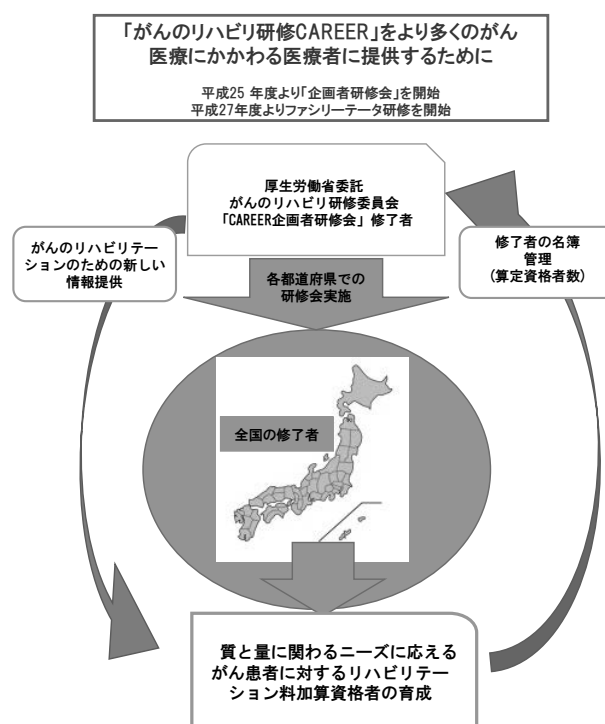


図2 「がんのリハビリテーション企画者研修」の役割

表1 がんのリハビリテーション研修

回	研修名称	日程	会場
1	第1回がんのリハビリテーション研修	4月16日(土)～17日(日)	国立看護大学校(東京都 清瀬市)
2	第2回がんのリハビリテーション研修	5月14日(土)～15日(日)	国立看護大学校(東京都 清瀬市)
3	第3回がんのリハビリテーション研修	6月18日(土)～19日(日)	国立看護大学校(東京都 清瀬市)
4	第4回がんのリハビリテーション研修	7月30日(土)～31日(日)	国立看護大学校(東京都 清瀬市)
5	第5回がんのリハビリテーション研修	10月22日(土)～23日(日)	国立看護大学校(東京都 清瀬市)
6	第6回がんのリハビリテーション研修	12月17日(土)～18日(日)	国立看護大学校(東京都 清瀬市)
7	第7回がんのリハビリテーション研修	1月21日(土)～22日(日)	国立看護大学校(東京都 清瀬市)
8	第8回がんのリハビリテーション研修	2月25日(土)～26日(日)	国立看護大学校(東京都 清瀬市)

表2 新リンパ浮腫研修

年度	回	研修名	開催日程	会場	医師	看護師	理学療法士	作業療法士	あ・指・マ師	合計
2014年度	第1回	Step 1	平成26年8月2日(土)～3日(日)	新橋ラーニングスクエア	18	126	59	32		235
		Step 2	平成26年10月25日(土)～26日(日)							
2015年度	第1回	Step 1	平成27年8月29日(土)～30日(日)	新橋ラーニングスクエア	12	153	42	14		221
		Step 2	平成27年10月17日(土)～18日(日)							
	第2回	Step 1	平成28年2月6日(土)～7日(日)	明治大学 中野キャンパス	13	153	94	59		319
		Step 2	平成28年3月12日(土)～13日(日)							
2016年度	第1回	Step 1	平成28年6月4日(土)～5日(日)	新橋ラーニングスクエア	99	52	30	25	5	211
		Step 2	平成28年8月6日(土)～7日(日)							
	第2回	Step 1	平成28年9月17日(土)～18日(日)	国立看護大学校	38	116	55	36	4	249
		Step 2	平成28年11月19日(土)～20日(日)							
	第3回	Step 1	平成29年2月25日(土)～26日(日)	明治大学 中野キャンパス	97	152	59	49	6	363
		Step 2	平成28年3月25日(土)～26日(日)							
合計					277	752	339	215	15	1,598

(3) がんのリハビリテーションファシリテーター研修

ファシリテーター研修は2015年度より開始された。がんのリハビリテーション研修において、同研修の柱の一つをなすさまざまなグループワークに関わるファシリテーターのスキル向上のために行われている。

本年度は、東京、宮城、福岡の3カ所(受講生74名)で行われた。

4) 厚生労働省後援「新リンパ浮腫研修」

本研修は、2009年度から厚生労働省委託事業として、全国のがん診療連携拠点病院に勤務する医師、看護師、理学療法士、作業療法士の医療スタッフがチームとしてリンパ浮腫の予防や治療に関する取り組みを実施する上で必要な基礎知識を習得することを目的として実施されてきた。2014年度からは、厚生労働省後援研修として全国のがん医療に携わる医療職に研修対象を拡大し推進している。2016年度からは保険収載された「リンパ浮腫複合的治療料」算定の施設基準のための条件の一つとしての役割をもち、3年間で1,598名の修了者がこの研修を経てがん治療後のリンパ浮腫の予防と治療の分野で活動し

ている(表2)。

5) 一般セミナー

(1) LPC 健康講座

- 第1回 よりよく生きるための健康管理
病気を人生の主人公にしない生き方
講師 林田 憲明 聖路加国際病院顧問
日時 6月16日(木) 13:30～15:30
会場 一番町進興ビル会議室
参加者 71名

- 第2回 加齢と循環器疾患—共に取り組む治療のために
講師 久代登志男 日野原記念クリニック所長
日時 11月22日(火) 13:30～15:30
会場 一番町進興ビル会議室
参加者 50名

(2) 一般セミナー

- 第1回 認知症のかたへの本質的関わり
—パーソン・センタード・ケア—
講師 村田 康子 NPO法人その人を中心とした認知症ケ

アを考える会代表理事

日 時 9月8日(木) 14:00~16:00

参加者 41名

会 場 一番町進興ビル会議室

●第2回 中野市保健補導員研修

日 時 5月27日(金) 14:00~16:00

講 師 石清水由紀子

内 容 長野県中野市の保健補導員への血圧測定指導
①ライフ・プランニング・センターの活動, ②市民主体の健康づくり, ③超高齢社会における健康問題, ④聴診法による血圧の測り方

参加者 中野市保健補導員・中野市保健師46名, LPC 血圧ボランティア6名

会 場 笹川記念会館4階会議室

3 | 出版広報活動

1) 「一般財団法人ライフ・プランニング・センター機関紙」通巻4~15号(7,000部/8頁カラー)

当財団の各部署の活動をまとめて紹介している。2017年新年号からは、巻頭言で当財団の各施設の紹介をかねて各部門長が活動内容を紹介している。

前半4頁で財団全般の活動を、後半4頁で全国46支部の「新老人の会」の多岐にわたる活動を紹介している。「新老人の会」会報から引き継いだ俳句の会と川柳を隔月で掲載し、多くの投稿をいただいている。

2) 『新老人0130』3,000部/カラー/1冊1,000円(税込み)

「新老人の会」記念誌として発行。「新老人の会」の16年の活動をまとめた「これまで」と、上手に年齢を重ね



ていくための「これから」、更に知恵を集めた新老人塾の構成となっている。これまで蓄積した活動を私たちはどのように発展させていくか。自分たちのこれからも含めて、次世代に引き継いでいくための一助となることを願っている。

4 | 「ホイトフィールド・万次郎友好記念館」協力の会活動について

2008年より日野原理事長が牽引してこられた「ホイトフィールド・万次郎友好記念館」協力の会は日本の多くの協力者の寄付で船長の家を修復し、万次郎の第2の故郷フェアヘブンの町に寄贈した後も、地元のNPOの活動の支援を行ってきた。この度、所期の目的が果たされたとして2017年5月末に活動に区切りをつけた。健康教育サービスセンターは当初より事務局業務を担ってきたが、その間8回にわたり前事務所があった砂防会館で万次郎講演会を開催し、6回を数えた米国への万次郎ツアーにも多くのLPC会員および「新老人の会」会員の方々にご参加頂いた。活動を閉めるにあたり9年間の記録を「日本の友好の架け橋となった万次郎少年の勇気と船長の友愛をたたえて」と題した冊子にまとめた。

●2016年度健康教育サービスセンター実施プログラム一覧

	日	内 容	講師(敬称略)	会 場	参加者数
1	4月16日(土)~17日(日)	厚生労働省後援 第1回がんのリハビリテーション研修会	辻 哲也 阿部 恭子他	国立看護大学校	1日目 164 2日目 164
2	5月14日(土)~15日(日)	厚生労働省後援 第2回がんのリハビリテーション研修会	田沼 明 高倉 保幸他	国立看護大学校	1日目 144 2日目 144
3	5月27日(金)	長野県中野市保健指導員への血圧測定講習会	石清水由紀子他	笹川記念会館国際ホール	46
4	5月28日(土)	財団設立43周年記念講演会 「想いを伝える ことばの心 ことばの力」	加賀美幸子 日野原重明	笹川記念会館	699
5	6月4日(土)~5日(日)	厚生労働省後援 第1回新リンパ浮腫研修 Step 1 1-2	松尾 汎 小川 佳宏他	ラーニングスクエア新橋	1日目 211 2日目 212
6	6月18日(土)~19日(日)	厚生労働省後援 第3回がんのリハビリテーション研修会	藤本 幹雄 大森まいこ他	国立看護大学校	1日目 240 2日目 240
7	6月16日(木)	LPC健康講座 第1回 病気を人生の主人公にしない生き方	林田 憲明	一番町進興ビル会議室	71

8	7月2日(土)	フィジカルアセスメント講座 第1回 呼吸器のアセスメント	血谷 健	剛堂会館会議室	73
9	7月30日(土)~31日(日)	厚生労働省後援 第4回がんのリハビリテーション研修会 がんリハファシリテータ研修(東京)	宮越 浩一 石井 健 高倉 保幸他	国立看護大学校	1日目 240 2日目 240 FA 33
10	8月6日(土)~7日(日)	厚生労働省後援 第1回新リンパ浮腫研修 Step 2 1-2	宇津木久仁子 前川 二郎他	ラーニングスク エア新橋	1日目 209 2日目 212
11	8月20日(土)~21日(日)	LPC 国際フォーラム2016 「ナラティブ・メディスン」	リタ・シャロン 齋藤 清二他	聖路加国際大学	1日目 140 2日目 124
12	9月8日(木)	一般セミナー 認知症のかたへの本質的関わり	村田 康子	剛堂会館会議室	41
13	9月10日(土)	フィジカルアセスメント講座 第2回 心臓血管系のアセスメント	水野 篤	剛堂会館会議室	56
14	9月17日(土)~18日(金)	厚生労働省後援 第2回新リンパ浮腫研修 Step 1 1-2	大谷 修 秋田 新介他	国立看護大学校	1日目 257 2日目 257
15	9月17日(土)	新リンパ浮腫研修養成校技術交流会	辻 哲也他	国立看護大学校	23
16	10月22日(土)	フィジカルアセスメント講座 第3回 バイタルサインでここまでわかる	徳田 安春	剛堂会館会議室	36
17	10月22日(土)~23日(日)	厚生労働省後援 第5回がんのリハビリテーション研修会	田沼 明 石井 健他	国立看護大学校	1日目 239 2日目 239
18	11月5日(土)	がんのリハビリテーション ファシリテータ研修会(宮城)	高倉 保幸 阿部 恭子他	東北大学病院	8
19	11月19日(土)~20日(金)	厚生労働省後援 第2回新リンパ浮腫研修 Step 2 1-2	山下 修二 辻 哲也他	国立看護大学校	1日目 249 2日目 252
20	11月22日(火)	LPC 健康講座 第2回 加齢と循環器疾患	久代登志男	一番町進興ビル 会議室	50
21	11月27日(日)	がんのリハビリテーション ファシリテータ研修(九州)	高倉 保幸 阿部 恭子他	久留米大学病院	33
22	12月17日(土)	フィジカルアセスメント講座 第3回 腹部のアセスメント	和足 孝之	剛堂会館会議室	34
23	12月17日(土)~18日(日)	厚生労働省後援 第6回がんのリハビリテーション研修会	宮越 浩一 上野 順也他	国立看護大学校	1日目 239 2日目 239
24	1月21日(土)~22日(日)	厚生労働省後援 第7回がんのリハビリテーション研修会 企画者研修会	藤本 幹雄 大森まいこ 高倉 保幸 平野 真澄他	国立看護大学校	1日目 216 2日目 216 企画者 14
25	2月18日(土)午前	フィジカルアセスメント講座 第4回 関節・筋・骨格の診方	岸本 暢将	剛堂会館会議室	35
26	2月18日(土)午後	フィジカルアセスメント講座 第5回 全身の概観と重症度評価	徳田 安春	剛堂会館会議室	37
27	2月25日(土)~26日(日)	厚生労働省後援 第8回がんのリハビリテーション研修会	宮越 浩一 田沼 明他	国立看護大学校	1日目 180 2日目 180
28	2月25日(土)~26日(日)	厚生労働省後援 第3回新リンパ浮腫研修 Step 1 1-2	大谷 修 関 征央他	明治大学中野校	1日目 360 2日目 361
29	3月6日(月)	LPC ボランティア研修会講演会 「地域包括ケアシステムの理解のために」	高橋 勇太 志村 靖雄 平野 真澄他	一番町進興ビル 会議室	59
30	3月6日(月)・13日(月)	模擬患者ボランティア養成講座 ー入門編ー	福井みどり 阿部 幸恵他	一番町進興ビル 会議室	1日目 59 2日目 40
31	3月25日(土)~26日(日)	厚生労働省後援 第3回新リンパ浮腫研修 Step 2 1-2	津川浩一郎 光嶋 勲他	明治大学中野校 ホール	1日目 363 2日目 365

報告/平野 真澄(健康教育サービスセンター所長)

「新老人運動」と「新老人の会」の運営

「新老人の会」事務局 所在地：東京都千代田区一番町29-2 一番町進興ビル1階

ライフ・プランニング・センターの日野原重明理事長が提唱された「新老人運動」に賛同する方々の集まりとして2000年9月に「新老人の会」を発足させ、会長には日野原理事長が就任した。

「新老人運動」とは、長寿国・日本の高齢者が健やかで生きがいを感じられる生き方をしていくための具体的な提案である。2017年の新年早々、日本老年学会、日本老年医学会から、高齢者の定義を65歳から75歳とすべきという提言が発表された。日野原会長は、すでに16年前に、高齢になっても自立して、これまでの人生で培った知恵や経験を社会に還元できる老人を「新老人」と名付けることによって、これまでとは違った新しい老人のイメージをアピールしようとしたのである。当時、これらのことが新聞、雑誌、テレビなどに数多く紹介されたことによって全国的な反響を呼び、全国から大勢の賛同者を得ることとなり、「新老人の会」の結成に至った。

「新老人の会」の16年の歩みは、ニューヨークの同時多発テロによって幕を明けた21世紀とともにある。社会の価値観が大きく揺らぐ中、超高齢社会に身をおく私たち会員が、どこに軸足を置いて生きていくかが問われている。そのような時、当会が掲げた理念は人々の心を捉えるものであった。

会の目標に沿った活動を展開する中で、日野原会長の発案、会員の提案などを受け、「戦争体験記」の出版や、子どもたちにいのちの大切さを伝える「いのちの授業」など、当会ならではの社会貢献活動が注目を集めてきた。また、会の趣旨を共有する会員は、共に学び合い支え合う生き方を追求するよい同志ともなっている。これらは、超高齢社会となった日本の高齢者の生き方の一つのモデルを示したとも評価されている。

2017年3月31日現在、全国の会員数は8,258名、地方支部は46カ所となっている。会員の高齢化が進み、会員数は2011年をピークに減少している中、今、改めて当会への力強い訴求力が求められている。しかし、熱心な会員が核となり当会ならではの活動は力強く広がりを見せているのは心強い。

「新老人の会」の目標を実現するためのさまざまな活動を推進する中で、設立当初75歳以上を正会員、それより若い方々を準会員とした会員の分類を、2005年度から75歳以上を「シニア会員」、75歳より若い方々を「ジュニア

会員」とし、合わせて会員とした。

しかし、会の目指すべき方向が明確になるにつれ、「新老人運動」はもっと広い視野をもって活動すべきとの合意に立って、2006年度より20歳以上60歳未満の若い人たちを「サポート会員」として呼び込み、当会の趣旨に賛同する方々の入会を勧め、活動の下支えを担っていただくことにした。ジュニア会員やサポート会員には、シニア会員と活動を共にすることで、10年先、20年先の自分のモデルを見つけていただくことができる。年齢を重ねなければわからないことを先輩会員を通して体得できることは、世代間の理解を深めるためにもよい機会となっている。

2008年度から「夫婦会員」の年会費を減額して1名分とした。現在、シニア会員53%、ジュニア会員33%、サポート13%という割合で、平均年齢は73.75歳である。

●「新老人運動」の趣旨

超高齢社会の道をまっしぐらに突き進んでいる日本において、高齢者はどのような生き方をすればよいかを、1999年作成の当財団のリーフレット「新老人一実りある第三の人生のために一」を作成し世に問いかけ、翌2000年9月に「新老人の会」の設立に至った。

「新老人運動」とは、日野原会長が長年にわたり日本の医学医療界を革新するリーダーとして培ってきたものをベースに、日本の高齢者が健やかで幸せな生涯を送ることができるよう願ってのものである。

高齢者が自立して、この年代でなければできない社会貢献をし、生きがいを感じられる生活を送っていただくために、次のような「生き甲斐の3原則」と、一つの使命、5項目の行動目標を掲げている。

●生き甲斐の3原則（ヴィクトール・フランクルの哲学より） と一つの使命

- ①愛すること (to love)
- ②創めること (be creative)
- ③耐えること (to endure)

2006年度から、一つの使命として、「子どもに平和と愛の大切さを伝えること一 (To give children messages to appreciate Peace and Life of All on Earth)」をつけ加えた。

●5つの行動目標（2006年3月一部訂正）

- ①自立：自立とよき生活習慣や我が国のよき文化の継承

本会は、75歳以上をシニア会員、75歳未満をジュニア会員、60歳未満をサポート会員とし、老後の生き方を自ら勇気をもって選択し、自立とよき生活習慣をそれぞれの家庭や社会に伝達するとともに、次の世代をより健やかにする役割を担う。

- ②世界平和：戦争体験を生かし、世界平和の実現を20世紀の負の遺産である戦争を通じて貧しさの中から学んだ体験と、人類愛を忘れた生き方の反省から得られた教訓を、次の子どもや孫の世代に伝え、世界平和の実現に寄与する。
- ③健康の発信：自らの健康は自らで守るために、必要な医学医療の知識や技術を身につけ、家族や社会の人々に伝達するとともに、医学・医療の研究に寄与する（2014年にヘルス・リサーチ・ボランティア研究が終了したため2016年度に内容を変更した。）
- ④会員の交流：会員がお互いの中に新しい友を求め、会員の全国的な交流を図る。
健やかな第三の人生を感謝して生きる人々が、さらに新しい自己実現を期して交流し、心豊かな老年期を過ごす。
- ⑤自然に感謝：過度に成長した不健全な文明に歯止めをかけ、与えられた自然を愛し、その恩恵に感謝し、よき生き方の普及を図る。

*

「新老人の会」とは、これらの趣旨に賛同する方々を会員として、広く社会に啓発活動を展開していこうとするものであり、会則、地方支部規約に基づいて運営されている。

2016年度は地方支部の躍進がめざましく、46カ所ある支部において当会ならではの地域に根ざした活動に取り組み、「新老人運動」を広く啓発・普及する役割を担っている。

また、2012年度には支部の垣根を超えてソーシャル・ネットワーク・サービスを活用したワーキンググループとしてスマート・シニア・アソシエーション（SSA）が発足し、全国交流を推進している。これらの詳細を以下に報告する。

1 | 「新老人の会」会則・規約・規定集

「新老人の会」では、必要に応じて規約、規定を制定して運用してきたが、これらを一括して各支部に送付し、支部運営の指針としていただくことにしている。

- I 会則
- II 地方支部規約
- III 海外支部規約
- IV 海外連絡団体に関する規定
- V 「新老人の会」地方支部運営について
 - ・フォーラム開催について
 - ・支部活動助成金交付規定
 - ・支部会計報告（ひな形）
 - ・地方支部における経理処理について
 - ・支部世話人名簿
- VI 個人情報に関する取り扱い規定
 - ①個人情報の取り扱いに関する覚書
 - ②個人情報管理者報告書

2 | 地方支部の設立

設立当初から全国に10ブロック程度の支部を設立することとし、その後は県単位の規模に支部を小さく分割する方針をとってきた。さらに、会員が地域に根ざした活動を展開するという観点からこれを改め、2011年度から地域の歴史や文化の違いや交通の便などから1県に複数支部の設立を認めることとした。これによって、兵庫県には兵庫支部とはりま支部が、静岡県には静岡支部と富士山支部が、長野県には信州支部と長野支部が設立され、全国46支部が地域の特色を生かした活動を展開している。

地方支部は「会則」「地方支部規約」に則して運営されるが、支部の財政は本部より支部の会員数に応じて年会費の50%を「地方活動助成金」として交付し、これをもとに活動を展開している。支部を設立することによって地域に根ざした活動が展開でき、「新老人運動」の趣旨を全国的に広めている。今後、いかにして当会の理念を各地域に啓発しつつ会の目標に沿った活動を展開していくかが課題である。

3 | 地方支部規約

全文8カ条からなる規約は、地方世話人会の設立、地方支部設立後の地方世話人会の権限、義務、財政などについて定めている。条項の主なものは下記の通りである。

第3条

- ①地方世話人代表1名を会長が任命する。
- ②地方世話人は地方世話人代表が10～20名の範囲で選出し、会長の承認を得る。

第6条

- ①重要な業務執行に関して、会長の承認を得る。
- ②1年に1回、会長に活動報告と会計の報告を行うこと。
- ③1年に1回、地方支部世話人代表が本部における拡大世話人会に参加すること。

第7条

- ①本部からの地方活動助成金を4月、7月、10月、1月の4回に分けて交付する。
支部によって、規約に不足があれば細則を付記して運用していただくことにしている

4 「世話人会」の開催

本部では事業の遂行に関する重要な事項を検討し決定する機関として、「世話人会」を年間6回と、全国の支部世話人代表を招いて開催する「拡大世話人会」を年1回開催している。メンバーは日野原重明会長、道場信孝財団顧問、朝子芳松財団常務理事、18名の本部世話人、事務局から3～4名が出席している。

本年度は、2016年5月25日、7月27日、9月28日、12月19日、2017年1月25日、3月29日の6回開催した。本部世話人は次の18名である。(五十音順)

伊藤 朱美	太田垣宏子	黒田 薫
榊原 節子	関谷 真一	玉木 恕乎
高木 妙子	永水 昌子	丹羽 茂久
沼田 邦夫	沼田 祥子	日吉 慶子
牧 壮	藤田 貞	松原 博義
水口 緑	水野 茂宏	宮川ユリ子

5 「拡大世話人会」の開催

「拡大世話人会」は1年に1回、会則に則って本部の世話人とあわせ地方支部の世話人代表に参加していただき研修、交流するものである。その目的は、①会の目標、活動方針を確認しあい共有する、②支部の活動、運営について情報を交換し合う、③今後の展望を明確にして共有する、④全国の支部の代表者が交流を図る、ということである。

本年度は、第18回「拡大世話人会」として2017年3月11日(土)に開催したが、全国45支部(1支部欠席)の代表と、本部世話人、事務局を合わせて総勢95名の参加であった。

6 「第18回拡大世話人会」

日時 2017年3月11日(土) 13:00～19:30
会場 ホテル・ルポール麹町
参加者 45支部の世話人代表(または代理)、本部世話人、事務局

プログラム……………司会進行 平野真澄
第1日 13:00～17:00

I部 本部報告

- ・会員の動向、本部運営方針について…石清水由紀子
- ・「新老人の会」16年の活動を振り返る
- ・財団の近況、会計報告、予算……………朝子芳松

II部 意見交換

- ・「新老人の会」のあり方—現状を踏まえ、今後のあり方を模索する—…コーディネーター 福井みどり
- ・グループワークとグループの報告
- ・全体討議・質疑応答・まとめ

III部 夕食交流会 (17:30～19:30)

……………司会進行 岩下美恵子

I部の概要

今回は、日野原重明会長の体調がすぐれず出席を見合わせる事となり、挨拶文が代読された。

1) 会員の動向、本部運営方針

- ① 会員数は8,431名、平均年齢73.75歳、昨年同時期から1,000人減少している。支部活動報告から、その要因として会員の高齢化、活動への参加が固定化、サポート会員など若い会員の減少、フォーラム開催が減少し、入会者を募る機会が減っている等があげられた。
- ② 対策として、ジュニア、サポート会員への働きかけが必要。健康・医療・福祉の講演会などを開催し、広く一般の参加を募る。地域行政、他団体・グループと連携して社会貢献・ボランティア活動をする。会員の地域グループをつくり、情報提供や支え合う仲間をつくるなどが提案された。
- ③ 本部の方針として、日野原会長は地方を巡って講演をすることが難しくなったが、つづけて「新老人の会」会長を務められる。今後は、会の理念に沿った活動を展開しつつも広く地域社会に発信していく必要がある。地方支部で行われるフォーラムは、メインの講師を家森幸男先生などに依頼し、「新老人の

会」のフォーラムの形式を踏襲して開催する。

- ④ 会員の減少は活力の低下に繋がるため、当会の全国組織を生かし、近隣支部、地域の行政や市民団体などと連携して広く大きく活動する。現行の運営システムを維持するには、工夫と努力が必要となる。
- ⑤ 現状を直視して率直に話し合い、今後の活動展開を具体的に提示し、支部に持ち帰って行動することを目標とする。

2) 「新老人の会」16年の活動(映像)を振り返って

行動目標に沿った素晴らしい活動を展開してきたことを再認識し、分かち合いをした。

3) 財団の近況、会計報告

朝子芳松財団常務理事から、財団の事業部門であるピースハウス病院を1年間の休止を経て「日野原記念ピースハウス病院」と名称を改め再開したこと。「新老人の会」収支実績の一覧表をもとに会計報告がなされた。本年度は、会員数の減少による年会費収入の減少に加えて、「第10回ジャンボリー東京大会」収支と、記念誌『新老人0130』の在庫が大きくマイナスとなっているが、これらは財団の全体会計の中で補填し吸収される。

Ⅱ部 意見交換

昨年度に引き続き、当会の理念を核に行動することが大切であり、「現状を踏まえ、今何ができるか」を、地域が近い支部同士の9グループに分かれて話し合いをした。

●グループワーク

はじめにそれぞれの支部の報告を聞き合い、続いて活動について、具体的な行動や連携の方法を話し合い、それらを各グループのファシリテーターに報告してもらった。最後に全体討議でそれらの分かち合いを行った。

1) 理念について

「新老人の会」の理念を100年、200年と継続していくために、自分たちが日野原会長から学んだ理念は木にたとえれば幹、これをたく大きくすることで長く継承することができる、などと、どのグループからも日野原イズムの継承についての熱い思いが伝わってきた。

若い世代に興味をもってもらい共に活動するために、「新老人の会」の名称が支障となる。サブタイトルに日野原会とか日野原塾とつけるとか、日野原重明「人生塾」と変えたほうがよいという意見があった。また、会員数を増すためには現状の構造改革を行う必要があるというグループもあった。これらについては慎重に検討する必要があり、今後の課題とすることにした。



拡大世話人会

2) 具体的な行動・連携について

(1) フォーラムについて

日野原会長が不在のフォーラムをどのように開催するかについて、本部から日野原会長に代わる講師を紹介してもらい、会員の中にどのような講師の候補がいるのかなどのリストを作ってもらいたい。講師リストに替わるものとして、講演をしていただける方にプロフィールと「伝えたいこと」を書いてもらい小冊子をつくるなどの提案もあった。

(2) 会員減少を防ぐために

具体的な案がいくつも出されたが、①支部の事務局がしっかりしていること、②1カ所でのみ活動するのではなく周辺部に出かけて行って交流する、③サークル活動を活発にする、④毎月1回は茶話会などの定例会をもつ、⑤会員の親睦・交流の機会を多くし、家族的な暖かい会にしていく、⑥一人の会員が一人の新会員を勧誘する、⑦いかにして若い人たちを取り込みバトンタッチしていくか、などであった。これらを支部に持ち帰って検討し、実践することが期待される。

3) まとめ

「新老人の会」の理念のもとで活動する者同士が、話し合い、親しく交流するところに新たなヒントが湧き、アイデアが生まれる。今回は、日野原会長の不在により、参加者の真剣さがひしひしと伝わる充実した会となった。

これまでは、日野原会長に大きく依存してきたが、これからは自分たちが当会の理念を継承していくのだという気持ちが一段と高まったように思われる。会員数が減少している中であっても熱心な会員は核となって残っている。この方々を大切に、今こそ当会でなければできない活動を展開し、超高齢社会の生き方のモデルを示していきたい。

7 地方支部の運営と活動

地方支部は、地方世話人会で協議しながら、会の趣旨に沿った活動を展開していくことであるが、活動内容については、会員数、交通の利便性、地域の特性が異なり、一概に論じることはできない。支部が設立されて年数を重ねるにしたがって、会員の高齢化による活動の沈滞化がみられるようになってきているが、当会でなければできない活動を、地域に根差した形で展開することで新しい会員を獲得し、活力を得ることができる。

2016年度は、地方支部フォーラムを15カ所で開催したが、多くは日野原会長の講演に加え、もう一人の講演者をその地域の医療者などに依頼して好評を得た。

「新老人の会」でなければできない活動の筆頭として「戦争体験を語り伝える」活動があげられるが、子どもたちに「戦争体験を語り伝える授業」を行っている支部が増えている。いち早く2004年から取り組んできた兵庫支部は、これまでの13年間に5,000名を越える子どもたちにじかに語り伝えることができた。最近では、青森支部、山形支部、山梨支部などが取り組みを始め、地方紙に小学校での授業風景が写真入りで掲載された。

一方、戦争体験記の出版は、本部・支部を併せて14冊を数えている。これらは、当会でなければできない社会に貢献する活動として注目されているが、戦争体験者が年々少なくなっていく中で、今後どのように継続していくかについて対策が急がれる。今こそ、先の戦争の過酷な体験を風化させないことが新老人に与えられた使命であると確信する。

また、「子どもたちに平和と愛の大切さを伝えること」を一つの使命として掲げているところから、日野原会長の「いのちの授業」にならって、自分たちで工夫した内容の「いのちの授業」を行っている支部が増えてきた。11年の実績をもつ信州支部から、宮崎支部、栃木支部、大分支部へと広がりを見せている。

植樹運動では、まず福岡支部が始めた「樹人千年の会」、これに触発された信州支部、長野支部の「いのちと平和の森」の活動、熊本支部の「飯田山に桜を植える会」、鹿児島支部の「指宿の山への植樹」へと広がりを見せている。

2016年度の新たな展開として、公益財団法人「難病の子どもとその家族に夢を」が製作した映画『Given ーいま、ここに、あるしあわせー』の自主上映会を全国の支部に呼びかけた。いくつかの支部が会員対象に上映会を

開催したが、福島支部は広く一般にも呼びかけて2会場で300名を越える観客を得て成功をおさめた。

会の趣旨に添ったテーマで講演会を開催し、広く一般の方々に呼びかけ、参加者の中から入会者を募った支部もあった（沖縄支部、はりま支部、北海道支部）。これは支部フォーラム（日野原会長講演と音楽の会）を開催することで培った力を、地域で活用することができる機会であるとも考える。会員が交流するためのさまざまなサークル活動、講演や音楽を取り入れた会員集会、お花見や紅葉狩りなど野外での会員の交流会、史跡探訪、バス旅行、観劇など、地域性のあるユニークな活動も年ごとに豊富になっており、特に高齢の会員には喜ばれている。

これらの活動を活発にするために『支部ニュース』を発行する支部が多いが、最近では充実した内容のニュースが見られる。また、12支部がホームページを開設している。インターネットを通じて支部活動の様子が読み取れ、支部同士の情報交換にも役立っている。

2016年度は、地方支部世話人代表は下記の通りである。

1) 地方支部世話人代表（設立順）

1. 福岡 支部：原 寛
2. 兵庫 支部：富永 純男
3. 京都 支部：津田佐兵衛
4. 広島 支部：岩森 茂
5. 東海 支部：林 博史
6. 北海道支部：民 亮一
7. 阪奈 支部：荻原 俊男
8. 信州 支部：横内祐一郎
9. 宮城 支部：佐藤 牧人
10. 山梨 支部：深澤 勇（11月に逝去）
11. 鳥根 支部：森山 勝利
12. 高知 支部：内田 康史
13. 鳥取 支部：小田 蓉子
14. 新潟 支部：笹川 力
15. 福島 支部：佐藤 勝三
16. 熊本 支部：小山 和作
17. 静岡 支部：大久保忠訓
18. 宮崎 支部：青木 賢児
19. 鹿児島支部：鹿島 友義
20. 富山 支部：林 和夫
21. 岡山 支部：武用 愛彦
22. 三重 支部：熊沢誠一郎
23. 青森 支部：吉田 豊



地方支部主催のフォーラムは、地元会員の企画による趣向をこらしたプログラムと会場運営で、いつもなごやかな雰囲気が会場をつつむ
(左から、岡山、信州、兵庫支部のフォーラム)

24. 山口 支部：西 祐司
25. 群馬 支部：白井 龍
26. 石川 支部：鈴木 雅夫
27. 沖縄 支部：鈴木 信
28. 長崎 支部：押渕 礼子
29. 和歌山支部：有田 幹雄
30. 神奈川支部：山田 栄
31. 千葉 支部：岡堂 哲雄
32. 山形 支部：遠藤栄次郎
33. 大分 支部：高田三千尋
34. 愛媛 支部：貞本 和彦
35. 徳島 支部：坂東 浩
36. 佐賀 支部：溝上 康弘
37. 香川 支部：大原 昌樹
38. はりま支部：田口 利昭
39. 富士山支部：遠山 和成
40. 秋田 支部：丹波 望
41. 滋賀 支部：山崎テルミ
42. 長野 支部：中澤 弘行
43. 岩手 支部：斎藤 好和
44. 栃木 支部：小菅 充
45. 福井 支部：栗田 幸雄
46. 奈良 支部：吉田 修

2) 地方支部フォーラムの開催(表1)

フォーラムとして日野原会長の講演と音楽を組み合わせたプログラムを支部主催で開催しているが、どの地域においても会場が満席になるほどの好評を得ている。

本年度は、日野原会長の年齢を考慮して、もう一人の講演者をお願いすることとし、その地域の医学医療者の中から適任者を選んで依頼した。また、地域や会場の規模により本部から会員の湯川れい子、三木哲郎、吉田修

氏を紹介した。

本年度の開催数はジャンボリー東京大会を含めて16回、延べ参加者数は1万6,353名であった。

3) 子どもたちに「いのちの大切さ」を伝える活動

先にも述べたように、2016年度は日野原会長の体への負担を考慮して、地方における「いのちの授業」は中止とした。しかし、日野原会長の「いのちの授業」をモデルに、支部活動として独自の発想で「いのちの授業」を展開している支部が多くなった。会員の戦争体験を通して、あるいは会員が自身の特異な経験をもとに、数人でチームをつくり「いのちの大切さを伝える授業」を展開している。2005年から実施している信州支部に続いて、宮崎支部、最近では栃木支部、大分支部が取り組みを始めた。次世代に「いのち」の大切さを伝える活動で、「新老人の会」だからこそできる社会貢献活動として全国的な展開が期待されている。

4) 戦争体験を伝える活動

兵庫支部が13年前からサークル活動の一つとして展開している「戦争体験を語り伝える」活動は、小学校の平和学習の一環として取り入れられ、6年生の広島への修学旅行の前に行われる。会員が戦争体験を通して「平和といのちの大切さ」を伝え、その後、生徒が修学旅行の見聞と合わせてグループワークで話し合い発表するという学習である。会員が語り伝えた内容と生徒の感想を併せて収録した冊子をもとに、阪神地区の小学校に働きかけて受け入れ校を11校にまで増やしてきた。これまでの13年間で延べ60校5,010名の子どもたちにこの活動を行った。

また、3年前からこの活動に取り組んでいる山梨支部では、戦地での体験をもつ90歳代の会員2名が語り部と



小学生を対象にした「いのちの授業」や「戦争体験を語る」などは新老人ならではのユニークな活動である（左：山梨支部、右：大分支部）

なって毎年5校で授業を行っている。2年前からは青森支部、山形支部が同様の活動に取り組み始めた。

熊本支部では、10年前から毎月のように一般市民を対象に「戦争体験を語り継ぐ会」を開催して93回を数えるまでになっている。

沖縄支部では、「沖縄戦を語る会」を毎月1回開催し、「戦跡を巡るツアー」も開催している。戦争体験を語り伝えられる人が少なくなっている今だからこそ、この活動の全国的な展開が期待される。

5) 講演会、映画上映会、音楽の会の開催

会の趣旨に沿ったテーマで、映画を上映したり、講師を招いて講演会を開催するなど、会員のみではなく広く一般の人々にも呼びかけて「新老人の会」をアピールする機会をつくっている。例えば、北海道支部はチェロ演奏と講演「高齢者の生き方」でフォーラムを開催した。日本音楽療法学会や音楽療法研究会などと連携したため434名（うち一般382名）の参加者があった。はりま支部は「超高齢社会を迎えて」と題して、姫路循環器病センター

向原伸彦院長の講演会を開催し、124名（うち一般60名）の参加を得た。

本年度は、映画『Given—いま、ここに、あるしあわせ—』の上映会を開催した支部が数カ所あった。中でも福島支部は2カ所で320名の参加があり、会場で寄付を募ったところ、7万8,600円集まった。これを本映画の製作に当たった公益財団法人「難病のこどもとその家族に夢を」に寄付した。このような取り組みは、今後「新老人の会」から発信する方法として期待される。

6) 各種サークル活動

当会の発足当初から「新しいことを創める」契機として、日野原会長の発案や会員からの提案を受けて、さまざまなサークル活動を展開してきた。地方支部においても、熊本支部の「童謡唱歌を歌う会」「グランドゴルフ」「古文書を読む会」「カラオケ同好会」などの16種目を筆頭に、和歌山支部は「マジック」「腹話術」「ヨガ」「iPad スマホ教室」など9種目、支部設立3年の福井支部でも「歴史探訪」「そば打ち」「合唱」など8種目のサー



サークル活動も盛ん（左：今昔あるき、中：大人のアート、右：奈良支部は「台湾新老人の会」と現地と交流を）

クル活動が活発に行われている。これらは会員の中に指導やリーダーを務めることができる人がいて成り立つ活動である。サークル活動を通して仲間が楽しんでいる人は退会しないともいわれており、支部活動の中でも取り組みやすく効果的でもある。

7) 会員交流会、バスツアー、小旅行

例会と称して毎月1回、会員が集まる機会をもっている支部が多い。宮城支部では月例サロンと称して、「万葉集のお話」「歌舞伎のお話」「落語」などを組み合わせて参加者を増やしている。また、季節ごとに「山菜を楽しむ会」「リンゴ狩り」「観劇会」「水族館」などと楽しい企画を立てて好評を博している支部も多くなっている。

青森支部は研修旅行と称して毎年、1泊2日の小旅行を行っている。設立2年目の奈良支部は、台湾ツアーを企画し、「台湾新老人の会」メンバーとの交流を行った。和歌山支部は春秋のバスツアーが好評で、毎回、定員を超える参加申し込みを受けている。

これらは企画担当者がよく下調べをしてメンバーの年齢に配慮した行程となっているため、楽しく充実した内容であり、かつまた低価格であることが好評を得ている要因とも思われる。

8) 「樹人千年の会」「いのちと平和の森」の活動

2004年に九州支部が自然環境保護を目的に「お墓の代わりに自分が生きた証としての樹を植えよう」と始めた活動が「樹人千年の会」である。福岡市郊外の地に約200本の樹が植えられ、会員たちの手で管理されている。

これに触発された信州支部の会員が中心になって2005年に「いのちと平和の森」構想に取り組んだ。松本市郊外のアルプス公園近くの市有地を借り上げ、ここを中心に自分たちが生きた証として「いのちの樹」を植えて森をつくり、次の世代に継承していこうとするものである。特定非営利活動法人(NPO)として長野県に申請し、2007年5月1日認証登記された。日野原会長は「いのちと平和の森」の名誉会長として「新老人の会」と協力し合うことを協定している。2011年度にはこの活動を発展させたNPO法人「いのちと平和の森・飯綱高原」を立ち上げ、この活動をもとに2012年10月1日に長野市を中心に長野支部が設立された。

熊本支部では「飯田山に山桜を植える会」を活動の一つに組み入れ、2007年から取り組んでいる。これまでに200本を超える山桜を植え、今では花見ができるまでに成

長している。鹿児島支部でも2009年から「指宿の山に椿の樹を植える」活動に取り組んでいる。

9) 支部ニュースの発行・ホームページの開設

支部ニュースの発行は隔月から年1~2回発行までさまざまであるが、支部活動が活発に行われるとニュースが発行され、ニュースによって活動が活発になるという相乗効果がうかがえる。

ホームページの開設は12支部に留まっているが、会員の年齢構成からインターネットの利用者が一部に限られるためと思われる。

各支部活動の詳細は、地方支部の活動状況(表1)に示した。

8 | 海外支部の設立

日野原会長が海外から講演の招聘を受けた際には、全国の会員に呼びかけて同行参加していただき、現地の日系の方々との交流の機会をもってきた。そのような中から「新老人の会」の趣旨に賛同する方々が入会され、支部を設立して活動していきたいということになった。

2007年8月19日、日野原会長のメキシコ講演会を機に海外支部第1号として、メキシコ在住日系の方々の同好会としてメキシコ支部を設立した。

2009年4月1日には、日野原会長ハワイ講演会を機に、非営利団体ハワイシニア協会の傘下団体として州政府の承認を得て、ハワイ支部(The New Elderly Hawaii Chapter)を設立した。

2013年4月1日には、オーストラリア新老人の会(Association of New Elderly)のメンバーの中から日系の方々から「新老人の会」オーストラリア支部を設立した。

これらは海外支部規約にのっとり運営し、本部から毎月、財団の機関誌『ライフ・プランニング・センター』を支部事務局に一括送付し、これらの実費相当の年会費(1人2,500円)を納入していただいている。海外支部では定期的に例会をもち、日本における日野原会長講演会のDVDを視聴したり、食事会を催すなど、交流の機会をもっている。

海外支部世話人代表と会員数(2017年3月31日現在)

- メキシコ支部 檜山 仁彦 会員数 27名
- ハワイ支部 町 淳二 会員数 10名
- オーストラリア支部 吉住 京子 会員数 5名



SSA はフェイスブックを通じて活動を展開。富岡製糸所の見学や平常さんの人形遣いを楽しんだ

9 | 海外連絡団体

2009年度から海外支部に準じて、「新老人の会」の理念を啓発する目的で設立され、諸外国政府機関の承認を得た団体に対して連絡関係をとるために、「『新老人の会』とその海外連絡団体に関する規定」を制定した。

これまでに、「台湾新老人会」と「オーストラリア新老人の会 (Association of New Elderly)」がこれに該当し、これらは会員の多くが日系人ではないため、日本語の会報を送付しても読める人が少ない。そのため年会費は不要とするが、本部から財団の機関誌『ライフ・プランニング・センター』を毎月1部提供している。

10 | スマート・シニア・アソシエーション (SSA) の活動

全国の「新老人の会」会員のフェイスブックによる新しい絆作りを推進するために「スマート・シニア・アソシエーション」(SSA)が発足した。

「スマート」とは「賢い」とか「機敏な」という意味で、IT技術を習得し、知的で生き生きとしたシニア生活を楽しもうというもので、今や90歳代のシニアから20歳代の若手会員まで、世代を超えてフェイスブックで繋がっている。会員の皆さんと共にSSAの活動を通じて活力あふれるシニア社会を創造していくものである。

活動内容

● SSA 講座 (毎月1回、講座を通して親睦を深める)

- 4月15日(金) 映画上映『Given』
- 5月31日(火)～6月1日(水) SSA初めての親睦バスツアーを実施
「親睦バス旅～富岡製糸場&真田丸
NHK大河ドラマスポットを巡る」
- 6月14日(火) 「今さら大人の理科事件(じっけん)教室」松延康さん
- 7月13日(月) 「ヨガ」

- 9月13日(火) 「目からウロコ!! 美声の解体新書」
輪嶋東太郎さん
- 10月6日(木) 「遺伝子解析の最前線」三木哲郎さん
- 12月7日(水) 「じょうくと遊ぼう!! 人形劇ワークショップ」平常さん
- 1月13日(金) 「今さらオトナの算数教室!! 遊びながら分数が大好きになる♪」畠山優子さん
- 2月9日(木) 「素敵笑顔な Happy Smile レッスン!! 今日から始めよう♪」飯野浩世さん
- 3月9日(木) 「輪嶋東太郎氏が語る日野原先生の音楽への想い」

11 | 有志の会と多摩地区の活動

1) 有志の会

本部の活動を支えるグループとして誕生した「有志の会」は、毎月の例会を経て、9月には「多摩地区」の発足につながった。例会では親睦を深めながら、核となる地域づくりと本部活動の活発化に向けての話し合いが行われている。

2) 多摩地区の活動

9月に正式に発足しその助成金をもとに、iPad 交流会のためのiPad、プロジェクターを購入し活用することでミニ交流会や他地域での実施が可能となった。



スタートした東京・多摩地区での活動

高齢者が「iPadを安心安全に学びそして使って、この新しい情報社会の世界を愉しんでもらいたい」という熱意のもと、iPad交流会は3月で19回目を迎えた。また参加者全員にアンケート調査を実施して、皆がどんな分野に興味を持っているか、何を学びたいかの統計を発表した。このような結果、参加者は徐々に増えてきている。

講習会内容は、「防災マップの使い方」「新しいISOのアップデート方法や使い方」「アプリの安心安全な使い方」「siriの使い方」「グーグルストリートビューのダウンロード方法と使い方」「iPadをカスタマイズする方法」「グーグルフォトの使い方」など。参加者は50代から90代に及ぶ。参加者へは、メーリングリストを使って毎回メールで講習会の内容を案内している。メーリングリスト登録者を使って、iPadだけではなく、うどんの会、ミニ交流会、映画上映会、打ち合わせ会等と有効利用している。

12 | 本部活動のトピックス

1) 各種大会の開催、共催、その他のトピックス

- 4月11日・12日・13日：第8回国際シニア合唱祭ゴールデンウェーブに参加
- 5月25日：山梨支部主催で、甲斐ヒルズカントリー倶楽部で第16回日野原杯全国親睦ゴルフ大会を開催
- 9月3日～4日：「リレーフォーライフ2016 in 駒沢公園」に参加
- 9月10日～11日：「日野原重明カップスローピッチソフトボール」を大田球場にて開催
- 9月25日：小泉靖子さん主催・「新老人の会」後援で戦争を伝える朗読会「語りつごう あの日あの頃」を開催
- 11月24日：ヴィサン・ジョイントコーラスフェスティバルに参加
- 3月18日・19日：第3回福祉住環境サミット&ウェルビーイングフェスティバルを「新老人の会」が後援

2) 本部サークル活動のトピックス

新しいサークル

- 7月より吉島洋子さん主宰で「大人のアートクラフト」を月1回開催
- 3月より本多正之さん主宰で「吟行」を年2回実施

3) 各種出版物

『新老人0130』3,000部／オールカラー／1冊1,000円(税込み)

「新老人の会」記念誌として発行。「新老人の会」の15年の活動をまとめた「これまで」と、これから上手に年齢を重ねていくための知恵を集めた「新老人塾」の構成となっている。15年間の蓄積を私たちはどのように発展させていくか。自分たちのこれからも含めて、次世代に引き継いでいくための一助となることを願っている。

13 | 「第10回ジャンボリー」東京大会

大会テーマ 「平和への思いをひとつに—国境を越えて、民族を越えて、輝けいのち—」

日時 11月7日(月)～8日(火)

会場 品川プリンスホテル・プリンスホール

参加者 1,428名(全国の会員と首都圏の参加者)

●プログラム

- 第1日 司会 岡本和子
オープニング

「新老人の会」マハロ・フラ・サークル
「新老人の会」の活動紹介

「新老人の会」事務局長 石清水由紀子
講演・1 105歳の私からのメッセージ

「新老人の会」会長 日野原重明
講演・2 愛を耕すものたちよ 歌手 加藤登紀子
(スペシャルプログラム)

全国の「新老人の会」会員が集まって

○コールバンダナ(東京)&コールアマカ(神奈川)

指揮 桑原妙子 ピアノ 鴫田恵

- Ave Verum Corpus (アヴェ・ヴェルム・コルプス)
W. A. モーツァルト

- コンサートのリハーサル

中山知子作詞 W.A. モーツァルト

○フレディの会(広島)

指揮 原田典枝 ピアノ 丸山千鶴

- 「童神」(わらびがみ)

古謝美佐子作詞 佐原一哉作曲 橋本祥路編曲

- 花ひらく

原田典枝作詞 あど Run 太作曲 丸山千鶴編曲

- フレディコーラス応援歌

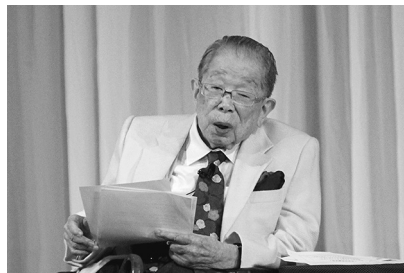
原田典枝作詞 あど Run 太作曲 丸山千鶴編曲

○全国の支部合同

参加支部 熊本、広島、岡山、はりま、東海、
神奈川、千葉、東京



●「平和」と「いのち」を歌にこめて第10回ジャンボリーが
開催された



第10回のジャンボリーは、東京・品川のホテルで開催。1日目は、日野原会長の講演と、ゲストスピーカーは歌手の加藤登紀子さん。楽しいお話とあわせて得意の歌も聴かせてくださった。マハロ・フラ・サークルのフラダンスで幕を開けたプログラムは、韓国からご夫婦で構成される「Seoul Singing Couples」のコーラスも迎え、フィナーレは舞台上がった130名もの大合唱に、会場の参加者も加わり、感動的な幕となった。そして2日目は会員研修会と交流会が行われた



案内や誘導に会員が大活躍

フィナーレの大合唱



韓国からも



- ・アリラン 朝鮮半島の民謡 桑原妙子編曲
- ・花は咲く 岩井俊二作詞 菅野よう子作曲

韓国からのお客様 Seoul Singing Couples の皆さん
指揮 Cho Ikhyun ピアノ Choi Enmyi

- ・ Gloria in excelsis from Gloria A. ヴィヴァルディ
- ・ ドアを開け
- ・ Aya Ngena (アフリカズルー族の民謡)
- ・ Bridge of Troubled Water- Let me be there
- ・ The Phantom of Opera
- ・ I want to be a Christian

みんなで歌いましょう

- ・ ふるさと 高野辰之作詞 岡野貞一作曲

会員交流会 18：00～20：30

- ・ 歌のプレゼント 姫由美子
 - 「一晩中踊り明かそう」「ラストダンスは私に」
- 参加者 383名

● 第2日 会員研修会

品川プリンスホテル 参加者 255名

第1部 最近の話題から

- 1) 韓国「新老人の会」設立について

李 鍾擘 (イジョンヨプ)

- 2) オリピックで民間外交

榊原節子 黒田かほる 日吉慶子 他

第2部

- 講演・1 運動の効用

三木哲郎 愛媛大学名誉教授

- 講演・2 もしもディズニーが日野原先生と出会ったら
一家族を支える原点を見つめる

公益財団法人「難病の子供とその家族に夢を」

代表 大住 力

2016年度は、日野原会長が105歳、「新老人の会」ジャンボリー第10回という節目に当たるため、本部が中心となって「平和への思いをひとつに一国境を越えて、民族を超えて、輝けいのちー」をテーマに、全国から大勢の会員に参集していただけるよう交通の便がよい品川プリンスホテルを会場にして開催した。

日野原会長の講演は「105歳の私からのメッセージ」と題して、「日本人の安全神話を覆した阪神・淡路大震災、そして東日本大震災、今年になってからも熊本地震と、このような災害を目の当たりにすると人の“いのち”のはかなさを痛感します。いつ、人知を超えた災害によって失われるかもしれない“いのち”だからこそ大切にしなければなりません。そして、平和な社会を築くことです。人間のかかわる戦争や紛争で“いのち”が失われるなど、あってはならないことです。私たちに与えられた“いのち”をどのように平和のために役立てていくかを皆で考えていきましょう」と呼びかけられた。

続いて、加藤登紀子さんが真っ赤なドレスで「百万本のバラ」を歌いながら登場。パリでのコンサートから帰国したばかりの加藤さんのお話と歌は、齢を重ねた人間としての魅力にあふれ、聴衆の心を捉えた。最後は「愛を耕す人たちよ」の歌とともにこの歌にまつわる南アフリカのマンデラ大統領の言葉を紹介された。「社会というのはいつの間にか憎しみを育ててしまう。生まれながらに人の心に憎しみがあるのではない。いつのまにか心の中に憎しみを育てられた人ほど不幸なことはない。憎しみを育てる社会があるのなら、愛を育てる社会があってもいいじゃないか」と。そして「愛を育てる力によって、憎しみを育てる力と闘っていかなければならない。心にも土があって、毎日水をあげて育てていくものではないかと思っている。次に続く“いのち”のためにどうぞ人生を謳歌してください」と結ばれた。

〈スペシャルプログラム〉

全国の「新老人の会」会員のコーラスと韓国のアマチュア合唱団「Seoul Singing Couples」をお招きして、歌声で平和への思いをひとつにしようというプログラムであった。「新老人の会」コーラスは、東京と神奈川の「コールバンドナ&アミカ」50名、広島支部の「フレディの会」24名がそれぞれ演奏。最後は、熊本、岡山、はりま、東海、千葉の各支部が加わって、サプライズの「アリラン」を韓国語で、そして東日本大震災復興ソング「花は咲く」は総勢130名の大合唱となった。

韓国の「Seoul Singing Couples」は、夫婦で構成される40年の歴史をもつ合唱団。毎年、定期演奏会を開催し、世界合唱祭、大韓民国国際合唱祭にも参加した実績をもち、聖歌と歌曲を得意とするが、現代音楽、創作曲にも取り組んでいるというハイレベルな合唱団。この会のために33名で来日して6曲を披露し、アンコールでは「ホー

ム・スイート・ホーム」を日本語で歌い、フィナーレには「ふるさと」を「新老人の会」合唱団と会場の皆様も加わって大合唱。合唱を通して「平和への思いをひとつに」する日韓交流となった。

会員交流会

午後6時からは、夕食を共にしながら全国の会員が交流する「会員交流会」が、全国各地から383名の参加で催された。歌のプレゼントは、姫由美子さんが華やかに2曲を歌って下さり、サプライズで日野原先生105歳の「ハッピーバースデー」を全員で高らかに歌い祝福した。

2日目の会員研修会

第I部は、「最近の話題から」として、韓国「新老人の会」設立について、李鍾曄氏から準備が進められていることをお話いただき、次いで、本部のサークル活動として「オリンピックで民間外交」が好評であるため、数名のメンバーにその実際を紹介していただいた。海外からの観光客、留学生、研修生がますます増える日本において、ボランティアで観光ガイド、簡単な通訳、おもてなしで役立ちたいと、英語の学習、日本についての知識の習得、異文化コミュニケーションについて学んでいる。

第II部は、全国から参加の会員が共に学ぶ機会と題してお二人に講演をお願いした。はじめに「運動の効用」と題して、愛媛大学名誉教授で大阪支部副世話人代表の三木哲郎先生に老年医学の観点からメタボ、ロコモ、サルコペニア、フレイル、認知症、寝たきりなどを予防する手段としての運動の効用について、ノルディック・ウォークなどを例に概説いただいた。

続いて、公益財団法人「難病の子どもとその家族へ夢を」代表・大住力氏に、「もしもディズニーが日野原先生に出会ったら一家族を支える原点を見つめる」の演題でお話しいただいた。「What is your mission?」というディズニーの言葉を引用し、人それぞれに個性があると同時に役割があり、自分自身への内省で向き合うことこそ幸せへの一歩であると。2009年にこの活動を始める際に日野原先生に相談し、名づけていただいたという経緯がある。全国に20万人以上いる難病と闘う子どもとその家族に、さまざまな対話や交流を通じて「夢」をもつことができる社会の実現に取り組んでいる大住氏への支援の輪はますます広がっている。

表1 2016年度地方支部の活動状況（全46支部，1ブランチ）

	支部名 (設立年月日)	人数(男/女/賛)	主な活動	サークル
1	福岡支部 2001. 9. 8	262 (109/153)	世話人会、会報発行、樹人千年の会、定例会、健康元気の会、SPの会	韓国語、博多おじゃまの会、ダンスの会、iPad/iPhone
2	広島支部 2002. 9. 11	235 (88/147)	世話人会、新緑・山菜を楽しむ、紅葉とリンゴ狩りを楽しむ会	折り紙、コーラス
3	兵庫支部 2002. 2. 5	226 (93/133)	世話人会、フォーラム開催、会報発行 会員懇親会、地区交流会、イキイキ講座	コーラス、写真、戦争体験、エッセイ、パソコン、気功、散策、養生塾
4	京都支部 2002. 5. 26	152 (63/89)	世話人会、フォーラム開催、会報発行 年6回の定例会	健康と医療、ヨーガ 美術鑑賞、俳句、カラオケ、人生悩み相談
5	大阪支部 2003. 1. 13	217 (80/137)	世話人会、会報発行、総会、収穫祭 健康と医療・福祉を考える会、街あるき	裏千家茶道、ノルディックウォーク、 コミュニティ菜園、コーラス
6	東海支部 2002. 11. 26	197 (73/124)	世話人会、会報発行、例会、フォーラム開催 講演会	俳句、コーラス、朗読、自彊術、川柳
7	信州支部 2003. 4. 17	169 (70/99)	会報発行、フォーラム開催、いのちの出前授業、 NPO法人「いのちと平和の森」ジョン万次郎20 年の会	中信、東信、南信、諏訪デランチに分かれて活動 年の会
8	北海道支部 2002. 12. 6	146 (55/91)	フォーラム開催、会報発行 バスツアー、文化講演など定例会（年8回）	歴史を学ぶ会、お話交流会、パークゴルフ お笑いヨガ
9	宮城支部 2004. 10. 11	124 (51/73)	世話人会、会報発行 月例サロン	カラオケ同好会、パソコン、日野原文庫
10	山梨支部 2005. 6. 12	118 (59/59)	世話人会、会報発行 日野原杯全国コンペ主催、「小学生のための平和 授業」	自然・歴史探訪、パソコン、読み語り、コーラス、 フラダンス、自分史、囲碁、カラオケ、ゴルフ
11	島根支部 2005. 7. 26	27 (13/14)	世話人会、会報発行 初夏のつどい、秋のつどい	
12	高知支部 2005. 8. 14	193 (82/111)	世話人会、月例講演会	社交ダンス、卓球
13	鳥取支部 2005. 8. 29	123 (62/61)	世話人会、会報発行 市民フォーラム	隔月でさまざまな企画のもとに開催
14	新潟支部 2005. 10. 12	247 (100/147)	世話人会、会報発行 定例フォーラム、ミニツアー	
15	福島支部 2006. 1. 28	281 (113/168)	世話人会、会報発行、フォーラム ギブンの上映会	サロンの会
16	熊本支部 2006. 4. 1	254 (104/150)	世話人会、会報発行、総会、季節会、グランドゴ ルフ、舞台劇	戦争を語り継ぐ、童謡唱歌を歌う会、南京玉すだ れ、肥後狂句添削教室 他全16
17	静岡支部 2006. 7. 4	154 (56/98)	世話人会、フォーラム開催、会報発行 毎月のサロン	俳句、コーラス、輝きサロン
18	宮崎支部 2006. 9. 23	50 (18/32)	フォーラム開催、会報発行 いのちの授業	朗読入門
19	鹿児島支部 2006. 4. 1	137 (59/78)	世話人会、会報発行 研修会、地方例会、知覧富屋保存活動	コーラス、語ろう会
20	富山支部 2007. 3. 21	41 (18/23)	世話人会、読書会、講演会	
21	岡山支部 2007. 7. 6	163 (66/97)	世話人会、会報発行、フォーラム 月例会、旅行、戦争を語る会	くれない句会、絵手紙の会、グループひととき、 グリーン放談会、コーラス、ゴルフ、笑みの会、 吹矢
22	三重支部 2007. 8. 28	214 (85/129)	世話人会、会報発行 交流会	北勢、中勢、伊賀、南勢地区に分かれて活動
23	山口支部 2008. 4. 28	182 (79/103)	世話人会、会報発行 交流会、地区活動	パソコン、川柳
24	青森支部 2008. 5. 28	102 (49/53)	世話人会、支部会報、講演会、研修旅行	
25	群馬支部 2008. 7. 19	54 (21/33)	フォーラム開催 模擬患者、セミナー開催	メディカルカフェ、東南アジア料理サークル、英 会話
26	石川支部 2008. 9. 1	143 (56/87)	世話人会、会報発行 会員の集い、健康講演会	おしゃべり会、俳句、コーラス、季節のしつらい、 朗読、カメラと旅 他全11種
27	沖縄支部 2008. 9. 1	131 (60/71)	フォーラム開催、会報発行、支部間交流 例会、戦跡をたどる、いのちの授業	カラオケ、フラサークル、方言、健康体操、琉舞、 健康食、方言、ハワイアンフラ、パソコン他16種

28	長崎支部 2009. 4. 1	102 (50/52)	世話人会, 会報発行 定例会	源氏物語学習会, 太極拳, 叙情歌 おしゃべり会, おしゃれなプラチナ世代
29	神奈川支部 2009. 4. 1	368 (137/231)	世話人会, 会報発行, 年12回の会員交流会, FB 勉強会	五行歌, 丹田呼吸, コーラス, 手作りパン, 観歩の会, 詩吟, 丹田呼吸ボイス
30	千葉支部 2009. 4. 1	293 (112/181)	世話人会, 会報発行, さわやかセミナー 郷土歴史探訪, ヨガ体操	楽しい歌声, 丹田呼吸法, 楽しく体操, スポーツ 矢吹, 詩吟, カラオケ同好会
31	和歌山支部 2009. 4. 1	212 (74/138)	世話人会, 会報発行, フォーラム開催 月1~2回の定例会	お手玉, マジック, コーラス, 社交ダンス, 腹話 術, 大人の算数, 短歌, 絵画, ヨーガ,
32	徳島支部 2010. 4. 1	140 (55/85)	世話人会, 会報発行 定例会, 芸術文化講座	合唱サークル 文化・芸術・手工芸に関すること
33	大分支部 2010. 4. 1	182 (70/112)	世話人会, 会報発行 例会, リレー・フォー・ライフ	パソコン, 表現塾, 俳句の会
34	山形支部 2010. 4. 1	111 (57/54)	世話人会, フォーラム開催, 会報発行	ゴルフを楽しむ, ウォーキング, ダンス ワインを楽しむ, 真向体操, カラオケ
35	愛媛支部 2010. 4. 1	102 (42/60)	世話人会, 会報発行 ノルディックウォーク大会	
36	佐賀支部 2011. 4. 1	107 (38/69)	世話人会, 会報発行 健康セミナー, 歴史・文化を学ぶ,	FB, 絵手紙
37	香川支部 2011. 4. 1	49 (22/27)	フォーラム開催, 会報発行 ミュージカル鑑賞会	山街あるき会
38	はりま支部 2011. 10. 1	171 (58/113)	世話人会, 会報発行 総会, 懇親会, 講演会	コーラス, 読書, 散策, おしゃべりとグルメ, オ ペラ鑑賞, 健康体操, ゴルフ
39	富士山支部 2011. 10. 1	202 (88/114)	会報発行, 「奇跡のくすのき」 富士山植樹, 親睦旅行, 模擬患者	囲碁クラブ
40	秋田支部 2012. 6. 1	84 (37/47)	世話人会, 会報発行 ギブン上映, リトミック(音楽療法)開催	ハンドベル, 俳句, 川柳, 短歌
41	滋賀支部 2012. 10. 1	208 (93/115)	世話人会, フォーラム開催, 会報発行 懇親会, いのちの授業, 健康と医療講演	俳句の会, 水墨の会, 健康体操, 史跡探訪 FB 勉強会
42	長野支部 2012. 10. 1	136 (61/75)	世話人会, 会報発行, 隔月のドクターとおしゃべ り, サキベシ食育運動	
43	栃木支部 2013. 4. 1	175 (78/97)	世話人会, フォーラム開催, 会報発行 総会, 懇親会, 講演会, 忘年会, 研修会	健康講話, 座禅, 史跡散策, ボウリング, ゴルフ, カラオケ, フラダンス, いのちの授業
44	岩手支部 2013. 4. 1	82 (39/43)	世話人会, 会報発行, コンサート	
45	福井支部 2014. 4. 1	154 (81/73)	世話人会, 会報発行 講演会	そばうち, 合唱, 山歩き, パソコン マジック, ゴルフ, カラオケ, 歴史探訪
46	奈良支部 2015. 4. 1	103 (44/59)	世話人会, 会報発行, 台湾ツアー 健康・文化講演会, 平和講演会	ノルディックウォーク
47	多摩ランチ 2016. 9. 1	224 (77/147)	うどんの会, iPad 交流会, ミニ交流会	

表2 「新老人の会」支部・本部主催フォーラム 開催回数 15回 集客数合計 16,353名

	開催日	支部名	テーマ	会場	動員数
1	4月2日	岡山支部	10周年記念フォーラム 「いのちの使い方」 日野原重明／「認知症の予防について」三木哲	岡山コンベンションセンター「ままかり フォーラム」	700
2	4月17日	佐賀支部	5周年記念フォーラム 「いのちの使い方」 日野原重明／「病気に負けない生き方」鎌田實	「日本特殊陶業」市民会館ビレッジホール	2,000
3	4月28日	信州支部	「いのちの使い方」日野原重明／ 「体も元気！心も元気！」相澤孝夫	ホテルブエナビスタ	600
4	5月15日	福岡支部	「いのちの使い方」日野原重明	アクロス福岡	650
5	5月29日	新潟支部	「いのちの使い方」日野原重明／ 「がんになるリスクを減らすために」佐藤信昭	新潟東映ホテル	600
6	6月3日	大分支部	「いのちの使い方」日野原重明	lichiko 総合文化センター	1,625
7	6月27日	兵庫支部	「いのちの使い方」日野原重明／ 「人生の第四楽章について」吉田修	神戸文化センター	1,200
8	7月2日	静岡支部	「いのちの使い方」日野原重明／ 「音楽で元気にしあわせに」湯川れい子	グランドホテル浜松	1,300
9	9月3日	高知支部	「いのちの使い方」日野原重明／ 「気がつけば幸せがいっぱい」木村まさ子	高知県立県民文化ホール	1,200
10	9月16日	東海支部	「いのちの使い方」日野原重明／ 「60兆のすばらしいバランス」祖父江逸郎	ウインクあいち	800
11	9月25日	滋賀支部	「いのちの使い方」日野原重明／ 「認知症の予防について」三木哲郎	北ピワコホテルグライツイエ	700
12	10月2日	長野支部	「いのちの使い方」日野原重明／ 「生き方上手に学ぶ」夏川周介	ホテル国際21	850
13	10月24日	栃木支部	「いのちの使い方」日野原重明／ 「音楽で元気にしあわせに」湯川れい子	栃木県総合文化センター	1,300
14	11月17日	本部	ジャンボリー東京大会「平和への思いを一つに」 日野原重明／加藤登紀子	品川プリンスホテル	1,428
15	11月23日	和歌山支部	「いのちの使い方」日野原重明／ 「健康長寿は高血圧予防から」有田幹雄	和歌山市民会館大ホール	1,400
参加者合計					16,353

報告／石清水由紀子（「新老人の会」事務局長）

ヘルスボランティアの育成と活動

健康教育サービスセンター 所在地：東京都千代田区一番町29-2 一番町進興ビル1階

1 模擬患者ボランティアの育成と活動

1995年度から養成が始まったLPC 模擬患者ボランティア（SP）は、当初はなかなかSPそのものの要請が少なく、当財団が行うセミナーなどへの参加のみに限られ、年に2～3回ほどであった。しかし、2004年度から全国108の医学部、歯学部のある大学において4年生を対象に本格的に共通試験（OSCE）が行われることになり、にわかには模擬患者の派遣依頼が増加した。2005年当時は22件であったのが、現在ではその3倍を超える依頼数が各教育機関から寄せられている。

活動回数は毎年増加傾向にあり、特に看護学部からの依頼が増えてきている。今年度は年間72回延べ474名を派遣し、そのうち看護学部からは25回の依頼があり、延べ158名を派遣した。基礎的な看護技術援助と血圧測定等、バイタルサインのとり方からシーツ交換まで、看護技術のOSCEとしてSPを活用する学校も増えた。また老年看護学の一環として「患者体験を聞く」という授業にも参加し、学生にとっては患者や高齢者と触れ合うよい機会を提供しているといえる。

東京医科大学医学部5年生の臨床実習に「SPとの医療面接実習」が組み込まれ、医学部の授業への参加が2006年度より10年間継続して実施されている。医学部におけるSPの役割もOSCEのツールとしてだけでなく、日々の医学教育へ参画することで、一般市民としての声をより医学教育に反映でき、SP活動の意義を深められたと感じている。今年度は30回延べ178名を派遣した。

また、昨年度に続き、一般病院の医師や看護師への研修にも参画する機会があり、今年度も東京都病院経営本部からの依頼や都内の病院医師の患者サービス向上への研修にも参加した。それらの活動はSPボランティア自身のやりがいにもつながるよい体験となっている。

模擬患者ボランティアの内訳、活動状況を図1～3に示した。

なお、表2に要請先での活動の詳細をまとめた。

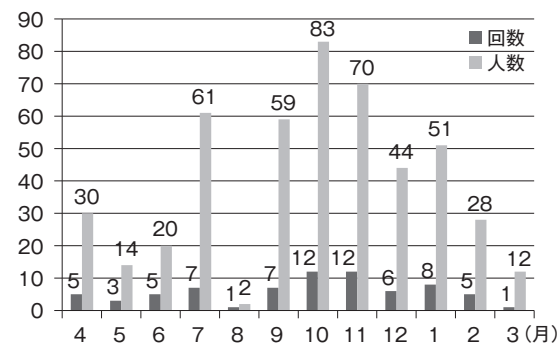


図1 月別活動実績

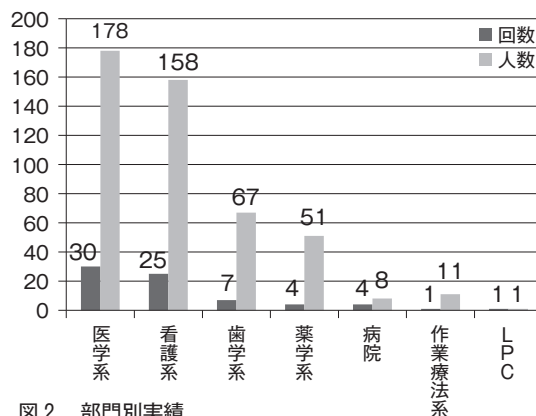


図2 部門別実績

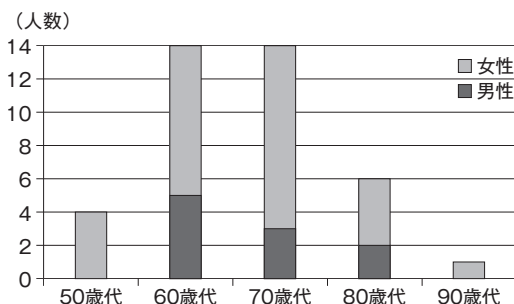


図3 模擬患者年齢別

表1 養成講座プログラム

開催日	時間	テーマ	講師
3月13日(金)	13:00 ～13:45	LPCと模擬患者について基本的な理解	福井 みどり LPC 模擬患者ボランティアコーディネーター
	13:45 ～14:30	医療従事者教育における模擬患者の役割	阿部 幸恵 東京医科大学シミュレーションセンター教授
	14:45 ～16:00	「模擬患者ボランティアのQ&A」 LPC 模擬患者ボランティア活動の紹介他	LPC 模擬患者ボランティア

表2 SP活動要請機関別一覧

NO	要請機関(大学)	活動実施日	活動内容
1	東京医科大学	4月12日 火	医療面接実習(臨床実習)
2	明海大学歯学部	4月21日 木	コミュニケーション授業(昨年同)
3	東京医科大学	4月26日 火	医療面接実習(臨床実習)
4	相模原看護専門学校	4月27日 水	ALS患者, 家族への援助
5	武蔵野大学看護学部	4月28日 木	女性SP インスリン療法必要患者
6	東京慈恵会医科大学看護学科	5月7日 土	医学・看護共修 胃ろう患者家族役
7	東京家政大学看護学部	5月12日 木	患者経験の講話
8	東京医科大学	5月24日 火	医療面接実習(臨床実習)
9	東京医科大学	6月2日 木	医学1年臨床体験実習 目の不自由及び片麻痺の患者
10	東京医科大学	6月7日 火	医療面接実習(臨床実習)
11	東京医科大学	6月9日 木	医学1年臨床体験実習 目の不自由及び片麻痺の患者
12	東京医科大学	6月21日 火	医療面接実習(臨床実習)
13	相模原看護専門学校	6月28日 火	65歳女性 脳梗塞 左半身麻痺 軽度構音障害
14	東京慈恵会医科大学看護学科	7月2日 土	3年生 OSCE 方式 慢性呼吸不全患者
15	東京医科大学	7月5日 火	医療面接実習(臨床実習)
16	北里大学看護学部	7月7日 木	熱中症75歳患者。入院2日目, 上下肢動かない。寝衣交換, 足浴
17	帝京大学薬学部	7月8日 金	5年次のアドバンス OSCE 服薬指導
18	東京医科大学	7月19日 火	医療面接実習(臨床実習)
19	帝京平成大学看護学科	7月23日 土	4年生 OSCE 認知症患者等の介助等
20	東京医科大学 OSCE	7月27日 水	6年次 OSCE
21	東京医科大学	8月23日 火	医療面接実習(臨床実習)
22	東京医科大学	9月7日 水	医学1年臨床体験実習 発熱の患者
23	東京医科大学	9月13日 火	医療面接実習(臨床実習)
24	東京医科大学	9月14日 水	医学1年臨床体験実習 発熱の患者
25	東京医科大学	9月21日 水	医学1年臨床体験実習 発熱の患者
26	武蔵野大学看護学部	9月27日 火	胃癌術後患者で援助受ける
27	東京医科大学	9月28日 水	医学1年臨床体験実習 脱水褥瘡患者
28	帝京大学薬学部	9月30日 金	5年次のアドバンス OSCE 服薬指導
29	相模原看護専門学校	10月3日 月	50歳代 心筋梗塞患者リハビリ援助
30	東京医科大学	10月4日 火	医療面接実習(臨床実習)
31	東京医科大学	10月5日 水	医学1年臨床体験実習 脱水褥瘡患者
32	東京医科大学	10月12日 水	医学1年臨床体験実習 脱水褥瘡患者
33	東京都病院経営本部	10月14日 金	10月25日の事前打ち合わせ
34	東京医科大学	10月18日 火	医療面接実習(臨床実習)
35	東京医科大学	10月19日 水	医学1年臨床体験実習 脱水褥瘡患者
36	共立女子大学看護学部	10月21日 金	看護学部4年生の OSCE
37	LPC	10月22日 土	フィジカルアセスメント
38	東京都病院経営本部	10月25日 火	医療従事者医療コミュニケーション
39	首都大東京作業療法学科	10月26日 水	うつ病患者 情報入手の面接
40	平塚看護専門学校	10月28日 金	11/8活動の見学・打ち合わせ他
41	東京医科大学	11月1日 火	医療面接実習(臨床実習)
42	東京女子医科大学看護学部	11月2日 水	看護4年生 総まとめ演習
43	平塚看護専門学校	11月8日 火	肺炎患者へのインタビュー
44	相模原看護専門学校	11月10日 木	3年生卒業到達評価 OSCE
45	東京工科大学看護学科	11月11日 金	1年生 足浴援助実習
46	東京医科大学	11月15日 火	医療面接実習(臨床実習)
47	イムス横浜国際看護専門学校	11月15日 火	心不全・肺炎患者 卒業 OSCE
48	よこはま看護専門学校	11月15日 火	高齢者とのコミュニケーション

49	北里大学看護学部	11月16日	水	1年生 援助演習(便器介助)
50	東京純心大学看護学部	11月22日	火	高齢者とのコミュニケーション
51	東京医科大学	11月29日	火	医療面接実習(臨床実習)
52	東京医科大学	11月30日	水	医学1年症候学入門・医療面接中心授業 血痰 多飲・多尿患者
53	明海大学歯学部	12月8日	木	学内OSCE 事前打ち合わせ
54	明海大学歯学部	12月10日	土	学内OSCE 前日泊
55	東京医科大学	12月13日	火	医療面接実習(臨床実習)
56	相模原看護専門学校	12月15日	木	肺炎患者援助(清拭・バイタルサイン他)
57	北里大学看護学部	12月15日	木	2年生 援助演習
58	明海大学歯学部	12月22日	木	4年生 医療面接
59	東京医科大学	1月10日	火	医療面接実習(臨床実習)
60	神奈川工科大学看護学部	1月10日	火	認知症の患者役(三澤先生:元人間総合科学大)
61	東京医科大学	1月11日	水	医学1年症候学入門・医療面接中心授業 血痰 多飲・多尿患者
62	東京医科大学	1月12日	木	医学1年症候学入門・OSCE(入門) 血痰 多飲・多尿患者
63	自治医科大学大学院看護学研究科	1月23日	月	末期がん患者とのコミュニケーション
64	都立松沢病院	1月25日	水	打ち合わせ
65	相模原看護専門学校	1月27日	金	脳梗塞で左下半身軽度麻痺 今回転倒し人工骨頭置換術を受けた 呂律が回りにくい
66	東京医科大学	1月31日	火	医療面接実習(臨床実習)
67	都立松沢病院	2月13日	月	インフォームド・コンセント等医療コミュニケーション向上の研修 男女各1
68	東京医科大学	2月14日	火	医療面接実習(臨床実習)
69	明海大学歯学部	2月16日	木	歯学部本OSCEの課題のすり合わせ
70	明海大学歯学部	2月22日	水	歯学部本OSCEの事前の打ち合わせ
71	明海大学歯学部	2月23日	木	歯学部本OSCEの実施
72	帝京大学薬学部	3月9日	木	5年次のアドバンスOSCE 服薬指導

1) SP(模擬患者ボランティア)研修

SPには学生の教育に参画していることを強く意識し、人を育てる視点と姿勢が必要である。そのために研修は必須となっている。LPCSP(ライフ・プランニング・センター 模擬患者ボランティア)グループとしてメンバー間の連絡徹底や一定のSPとしての質を保持できるように研修を重ねている。毎月の定例ミーティングでロールプレイやグループワークを多く取り入れた研修を行っている。

2) 定例ミーティングにおける研修

定例ミーティングは毎月1回SPグループ全体で集まる唯一のミーティングである。今年度は研修会場の確保が難しく、午後1時から3時まで集中して定例ミーティングを行った。定例ミーティングは、1) ロールプレイ研修、2) 活動報告、3) グループワーク、4) 活動先大学講師によるレクチャー、5) 事前打ち合わせなどを中心に行った。

(1) ロールプレイ研修

主にT医科大学で行われている臨床実習へ参加するSPのためにロールプレイ、フィードバックの練習を行っている。SPは「より患者らしく演じる」ことよりも、「学

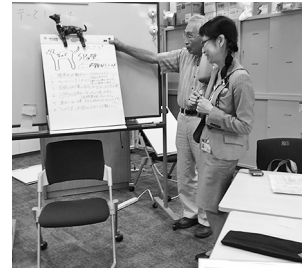
生がどのような質問をすれば的確に患者から多くの情報収集ができるか」という学習の機会を作ることが大切である。学生の質問に対してたくさんの情報を出しすぎず、一問一答で対応することの練習を繰り返し行っている。

次にSPに求められていることは、学生へのフィードバックである。フィードバックとは「学習者の態度や言動がSPに及ぼした影響について学習者に伝えるコミュニケーション」である。教育側からSPに期待されていることは、特に学生の服装や態度など教師が注意してもなかなか素直に受け止められない学生に対してSPから指摘してほしいということである。例えば「服装がだらしないようにもっときちんとしてほしい」というような教師の視点ではなく、「服装があまりラフだとちゃんと診察してもらえるか心配になりました」と患者の視点でフィードバックすることが大切である。SPがフィードバックしたひと言がよくも悪くも学生に大きな影響を与える。SPの練習ではまず学生のよいところをほめ、悪いところを指摘し、最後によいところをほめる練習をしている。

SPは学生とのロールプレイの中でのやり取りで、実際に起きた自分の中に湧き上がる気持ちを大切に学生に戻



看護学部での実習の様子



左：定例会の様子
右：東京医大阿部先生とグループワーク



医学部での実習 シミュレーターの赤ちゃんを抱いて

すことが望まれている。「もっと聞いてほしかった」という言い方ではなく、「悪い病気ではないかと不安だったのでその気持ちを話したいと思っていました」という自分の気持ちを明確にしていくことである。このように具体的な点をお互いに出し合いながら研修を行っている。SPによっては学生とのやり取りの間に何が起きていたかをまったく記憶にとどめていられなかったりすることが多くあるので、繰り返し SP 同士で練習する必要がある。

3つ目は評価の練習である。医学部や看護学部の行う OSCE ではフィードバックのほかに SP の評価を求められることがある。学生の態度を評価することはとても難しく、評価者の主観によってかなり差が出る。目に見える髪形や服装などでは大きな差は出ないが、「この学生によく話を聞いてもらえたか」とか、「この学生に話を理解してもらったか」などの項目については、SP の主観によって「とてもよい 5」の評価と「とても悪い 1」の評価を同じロールプレイから出すことがあり、大きなばらつきが出るのがわかった。SP の評価は参考程度で直接には学生の評価にならないのは幸いであるが、どの SP に当たっても同じように評価できるように常に練習を怠らないような努力が求められる。

(2) 活動報告

毎月の活動をまとめて大学担当者から報告をしている。報告は活動内容と参加 SP の感想、大学担当者からの客観的な感想、最後に教育側のコメントで SP が全体で共有しておいたほうがよい内容、特に SP の演技やフィードバックについて学びとなる内容を報告している。また、活動に初めて参加した初心者には 1 分間で自分の感想を述べることをノルマとしており、1 分間で話すことの練

習を行っている。

(3) グループワーク

月に 1 回のミーティングであるのでグループで意見交換を活発に行っている。4 月、5 月は新しいボランティアを迎えて「自己紹介ワーク」「LPC ボランティアの約束事」「活動に当たっての注意事項」などを実施し、「シナリオについて」「学生からの曖昧な質問にどのように答えるか」などグループでの話し合いを大切にしている。また特にテーマがないときには初心者のロールプレイをグループで行い、お互いのレベルアップを図れるように工夫している。

(4) 派遣先大学講師からのレクチャー

初めて SP を要請してこられる大学からは、できるだけ定例ミーティングで大学の概要、授業の概要、SP の役割、大学として期待していることなどについて 30 分から 1 時間のレクチャーをお願いしている。医学部のコミュニケーションのみではなく、看護技術の OSCE や認知症患者への関わりなど新しいテーマでの SP の関わりがある時には SP へのレクチャーをお願いしている。

(5) 事前打ち合わせ

活動派遣先が決定したら一度は必ず参加するメンバーで集まり、派遣内容の確認とシナリオの打ち合わせ、役作りの練習を行うように義務づけている。しかし 1 カ月に 2 件、3 件と派遣先が重なると、学習や練習をせずに大学に赴くこともしばしばあった。看護系の大学では身体の提供だけだからと打ち合わせもなしに行くこともあった。しかし、どんな活動にも模擬患者には与えられた役割があり、SP としてのフィードバックはどんな活動でも必ず求められることであるため、事前の各派遣先のシナ

リオのチェックや、参加者への練習の強化を図っている。

3) 模擬患者学ボランティア養成講座入門編

各大学からの要請が毎年増加していく中で、模擬患者ボランティアの養成は急務である。今年度も東京医科大学の阿部幸恵教授のご協力をいただき、一般対象の講座を開催した。40名の参加者のうち14名が新しいメンバーの参加があった。講座終了後9名の方が模擬患者として登録された。

日時 2017年3月13日 13:00~16:00

講師 阿部幸恵 東京医科大学シミュレーションセンター教授

受講生 40名

報告/福井みどり (健康教育サービスセンター副所長)

2 | 血圧測定ボランティアの育成と活動

1) 血圧グラウンドシニア

血圧測定ボランティアとして登録している人たちが対象に継続教育の一環として年間4~5回開催している。本年度は、道場信孝先生の著書『臨床老年医学入門』の中から「認知機能障害と認知症」をテキストとした。はじめに「認知症」の基本的な理解を道場先生に解説していただき、続いてテキストをもとに自己学習してプレゼンテーションする。難解なところは道場先生に補講やコメントをいただきながら学び合うという方法で行った。

本年度は5回の開催で、延べ48名が参加した。

2) 血圧測定ボランティアの活動

2016年5月27日(金, 14:00~16:00)に実施した中野市保健補導員研修に14名の登録者のうち6名が協力した。

3 | LP ボランティア研修会

日時 2017年3月6日(月) 13:00~16:30

参加者 47名

会場 一番町進興ビル2階会議室

プログラム

- LPC ボランティアオリエンテーション
- LPC の活動の歴史・LPC ボランティアの歴史
平野真澄 健康教育サービスセンター所長
- ボランティア活動の心得
志村靖雄 ライフ・プランニング・センターボランティア
コーディネーター
- 今年度の各分野の活動報告
- 地域包括ケアシステムの理解のために一都市部の事例を中心に
高橋勇太 横浜市高齢在宅支援課保健師
- 次年度ボランティア登録

4 | ライフ・プランニング・センターボランティア連絡会議

- 第1回 ボランティア連絡会議

日時 5月2日(月) 13:30~15:00

会場 一番町進興ビル2階会議室

- 第2回 ボランティア連絡会議

日時 9月28日(水) 10:00~11:30

会場 一番町進興ビル2階会議室

- 第3回 ボランティア連絡会議

日時 3月6日(月) 13:30~16:00

会場 一番町進興ビル2階会議室

報告/平野 真澄 (健康教育サービスセンター所長)

カウンセリング—臨床心理・ファミリー相談室

健康教育サービスセンター 所在地：東京都千代田区一番町29-2 一番町進興ビル1階

臨床心理ファミリー相談室は1996年に開設され、現在の活動内容は、1) 個別カウンセリング、2) 企業のメンタルヘルス、3) 教育活動、4) その他の活動として石巻の仮設住宅での活動を継続している。

1 個別カウンセリングについて

1) 新しい場所での個別カウンセリング

カウンセリングの目標は自己の世界の確認と柔軟性の養成にあり、人の成長と発達への援助活動である。カウンセリングをどのような場所で行うかは、カウンセリング活動にとって重要な要素である。2017年度は新しい事務所においてカウンセリングの固定的な場所の確保が難しくなった関係上、新しいクライアントは受け付けず、継続者のみとした。継続クライアントは1カ月に1回、遮られることなく話を聞いてくれるだけでほっとすると言われる。傾聴とクライアントの問題の整理とクライアント自身が問題解決できるように援助をしている。

TEG(東大式エゴグラム)による性格分析、SDS(うつ性自己評価尺度)をベースに認知行動療法としての「自己の世界の確認と柔軟性の養成」を心がけている。

2) 新老人のためのコンサルテーション

2004年度より新老人を対象にしたコンサルテーションを行っている。身体的な問題についての相談と、今後の生き方、介護を受けながら生活していくためにどのようにしたらよいかという相談がある。

3) 聖路加レジデンス入居者を対象としたカウンセリング

週1回3時間を聖路加レジデンス入居者のための個別カウンセリングを行っている。高齢者の成長発達課題としての生き甲斐やプロダクティブエイジングへの取り組みへの支援が目標である。カウンセリングの手法としては回想法を積極的に取り入れて、希望するクライアントにはライフレビューを行っている。病気に伴う不安、伴侶の死別後のグリーフケア等としてカウンセリングが活用されている。

2 企業におけるメンタルヘルス対策への取り組み

2006年度よりケア・アカデミー葉っぱのフレディ、モレコーポレーションと提携し、1カ月に1回、10時から17時の枠内で職員へのメンタルヘルス対策に参加している。自発的にカウンセリングを受けたい職員や、上司の勧めでカウンセリングを受けたほうがよいといわれた職員、新入職員などが対象である。継続10年目となった。

新入職員の希望者には性格検査(TEG)を行い、自分の性格傾向について理解を深め、実際の仕事に役立ててもらっている。また全職員には年一回総合的なメンタルヘルスチェックを行い、疲労度、ストレス度、うつ度を自己評価してもらっている。心療内科、精神科医受診を希望する職員にはコンサルテーションを実施している。うつ傾向の強い職員にはSDS(うつ性自己評価尺度)を指標に継続的なフォローとコンサルテーションを行っている。その他、仕事場での人間関係の持ち方や職員の家族のメンタルな病気に対する相談やコミュニケーションの持ち方などの相談も持ち込まれている。

2016年度相談件数

1 個別カウンセリング	41
2 葉っぱのフレディ	37
3 聖路加レジデンス	43
延べ人数	121件
心理テスト	40件

3 教育活動

カウンセラーとして以下の教育に携わった。

①テーマ 人間援助論—自己理解・他者理解

日時 11月1日 14:35~17:35

受講者数 46名

場所 東京女子医科大学看護学部

②テーマ 援助過程の理論と技術

日時 11月2日 13:00~17:35

受講者数 46名

場所 東京女子医科大学看護学部

③テーマ 援助者の関係性

日時 11月18日 13:00~17:35

受講者数 46名

場所 東京女子医科大学看護学部

④テーマ 東日本大震災支援について

日時 7月24日 13:00~16:00

受講者数 40名

場所 筑波大学東京キャンパス文京校舎

4 | その他の活動

東日本大震災被災者支援活動はLPC 臨床心理・ファミリー相談室の社会的貢献活動として重要なものであるの

で報告する。

支援活動は被災直後の急性期から6年継続し、日本カウンセリング学会より東日本大震災支援活動貢献者として表彰された。

現在は、1)被災地のリーダーの養成と、2)被災者のエンパワーメントを高める活動、3)小物作りの販売支援活動を聖路加国際病院ベンジャミンホールにて年7回開催し、年間約170万円を現地の作り手に送ることができた。

詳細は日本カウンセリング学会認定カウンセラー会ニューズレター『カウンセリングワールド』No.4に報告した。

報告/福井みどり(臨床心理・ファミリー相談室長)

日野原記念クリニック 教育的健康管理の実践

日野原記念クリニック 所在地：東京都港区三田3-12-12 笹川記念会館11階

1 | クリニックの目指すもの

クリニックは、2017年4月1日より「聖路加国際病院連携施設 日野原記念クリニック」に改称することになった。財団設立時に日野原重明理事長が提唱した理念「国民の一人ひとりが“健康”についての理解を深め、“自分の健康は自分で守る”ことができるように動機づけ、健康行動が実践できる方略を提言し、全生涯にわたり、生活の質（QOL）が豊かに保たれるように援助する」をクリニックで働く全員が共有し、これからも日々の診療を通じて実践したい。

健診は予防医学を実践する場である。日野原記念クリニックでは、受診者に対する健康教育とその実践を医療者がチームで支援するとの日野原理事長の考えに沿って個々の受診者について生活習慣、職場と家庭の環境、人生観や性格に合わせて実現可能なプランを受診者と共に考え、実践を継続するための支援を行っている。そのためにナースは中心的な役割を果たしているが、健診は予約の受付から始まるといわれるように事務職も重要な一員であり、さらに受診者の案内などを担当していただいているボランティアの方々を含め、全職員が受診者に寄り添ったチーム医療を心がけている。当クリニックの個人受診者の反復受診率が高いのは、そのことが評価されていると考えている。

また、最近数年間は港区民健診、およびネットを介して健診を予約する個人受診者数が増加しているが、それらの受診者は数多い健診施設の中から当クリニックを自ら選択しておられるので、その方々の反復受診率を高く維持できることが重要であると考えます。

2 | 診療体制の現状と将来方針

1) 将来構想

2015年度の年報で笹川記念会館の改装予定について述べたが、諸般の事情でクリニックが所在している11階のみについて、2017年度から18年度にかけて全面改装するための支援を日本財団にお願いすることになった。診療しながらの改装なので制約はあるが、実現すれば医療機器と内装の大幅なリニューアルになり、より高精度で快適な健診の実践が可能になる。

1973年にクリニックが開設した際は、当時の日本船舶振興会 笹川良一会長の支援により、最新の機器を整え、日野原理事長が理想とする良心的で高度な医療を実践するための実験的な施設としてスタートした。新しくなるクリニックは、公益財団法人である日本財団の支援を受けての全面改装であり、最新の設備を導入し、多くの人々が良心的で最高の健診と診療を受けることができるとともに、どのような健診が健康増進に役立つのかを検証し社会と予防医学に貢献できる施設を目指すことになる。

2) 聖路加国際病院、聖路加メディロカスとの連携

クリニックは午前中の健診としての問診、診察、検査を主に行い、午後は結果説明と一般診療とする体制に変化はない。健診後にCT、MRI、大腸内視鏡などの精査が必要な場合は、聖路加メディロカスを主な紹介先とし、治療が必要な場合は聖路加国際病院の専門医に紹介するようにしている。さらに、聖路加国際病院救急部にお願ひし、緊急時の際には対応をいただいている。今後も、聖路加国際病院連携施設として信頼される医療を提供していきたい。

3) 婦人科診療体制

2016年3月1日より日本大学医学部から有能な女性医師を常勤として迎えることができ、質の高い婦人科診療を行っている。婦人科健診を含め女性受診者の要望に応えることは、クリニックの将来にとり重要であり、その基盤が整ったことになる。

4) 胃内視鏡検査

ヘリコバクター・ピロリ菌の除菌適応判定と除菌後の経過観察に胃内視鏡検査が必要なこともあり、胃内視鏡を希望する受診者が増えている。現在内視鏡検査は1室で実施しており、3カ月以上前でない予約がとりにくくなっている。2017年度から港区民健診でも胃内視鏡検査を選択できるようになり、十分な対応は困難になる。そのため日本財団に最新の設備を整えた胃内視鏡室を3室に増設することを申請中であり、認められれば快適で精度の高い検査を実施できる。

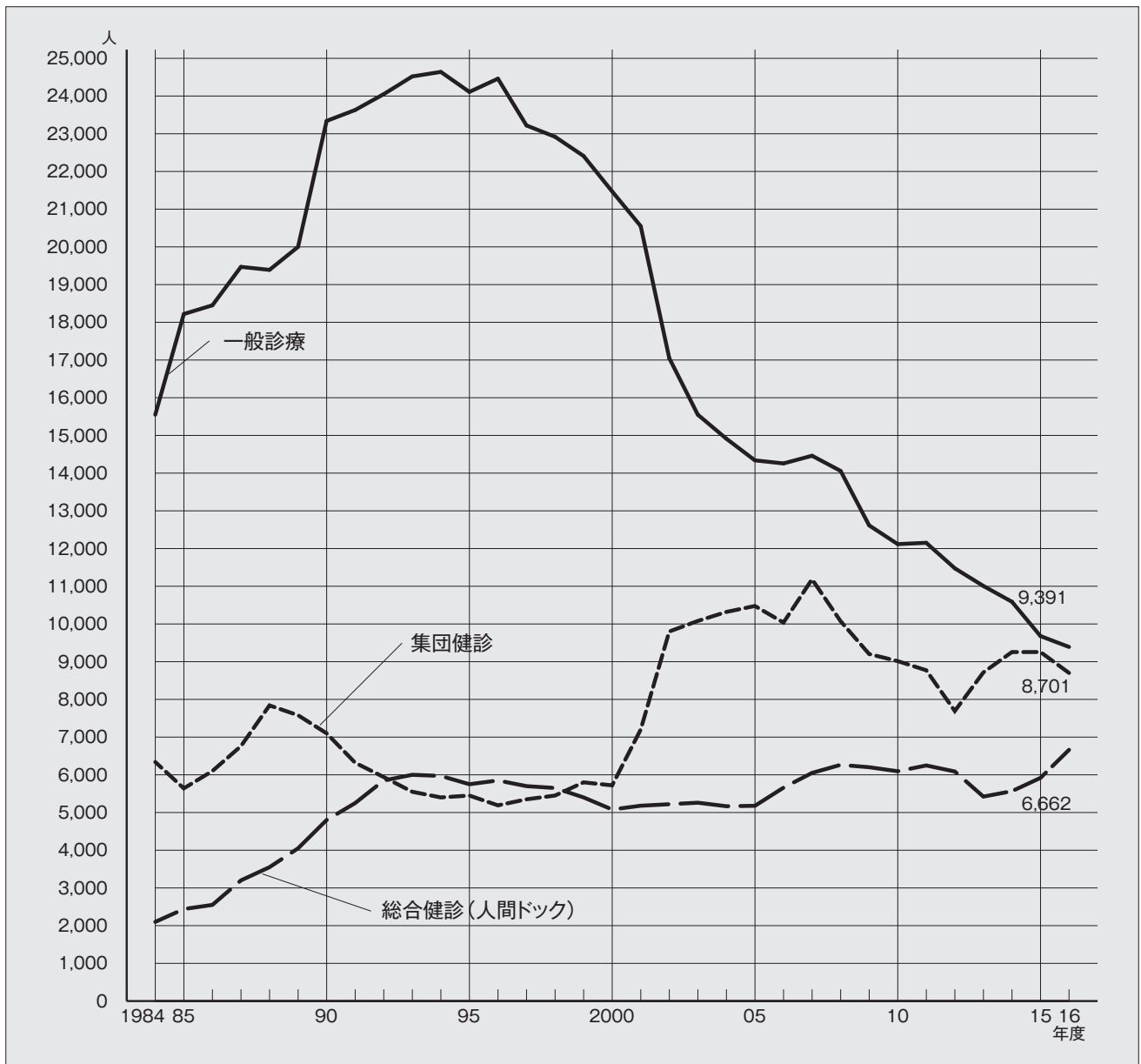


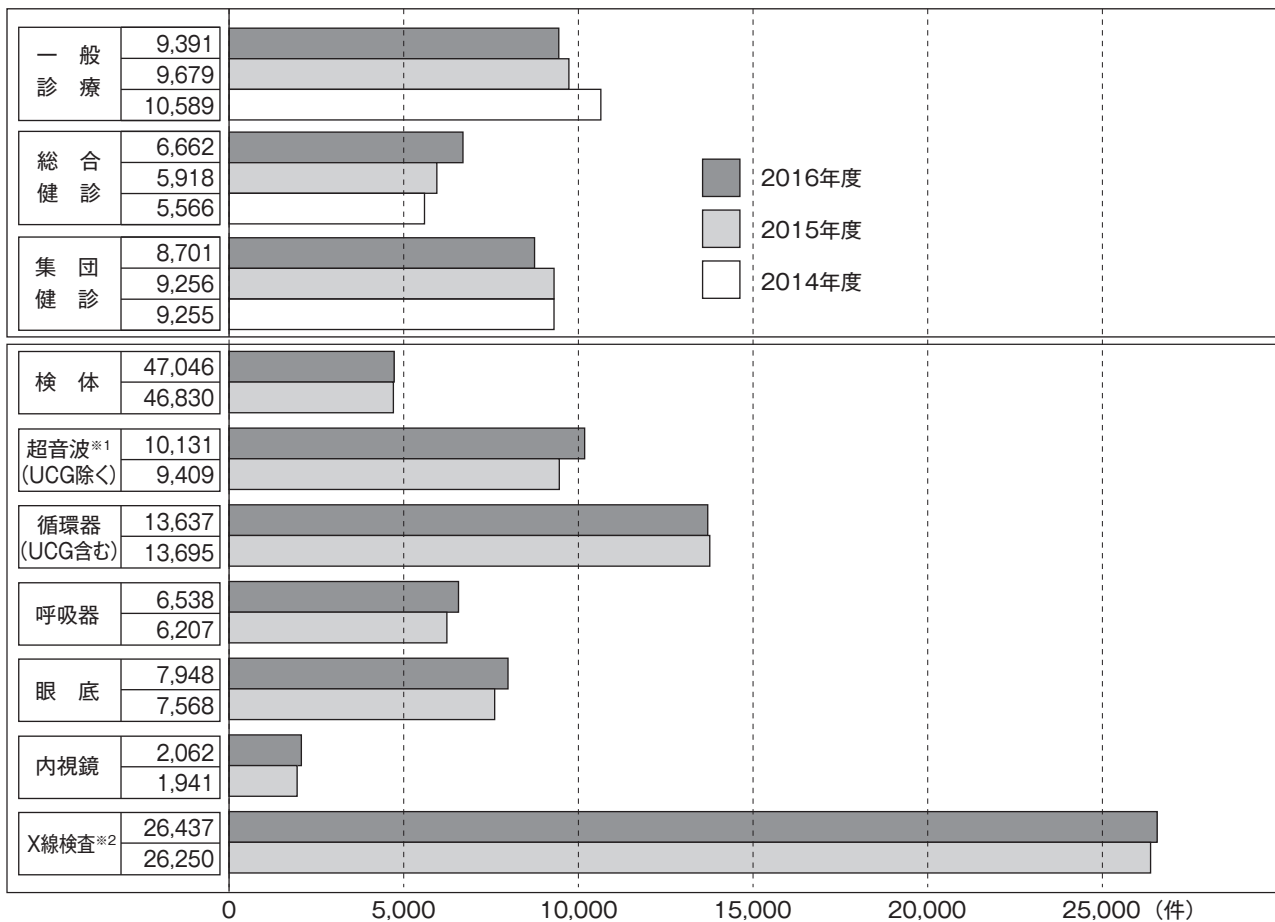
図1 受診者数の推移

5) 画像診断

画像診断機器の進歩は目覚ましく、3次元画像構築と画像精度の向上などによる診断能力の向上とともに、X線被曝量の半減化も可能になっている。最新の画像診断機器を備えることは質の高い医療を実践するために不可欠になっている。そのため、超音波、マンモグラフィ、胸部X線、胃透視検査機器の更新と、新しい眼底撮影装置である光干渉断層眼底撮影装置の導入を日本財団にお願いしている。実現すれば、最新の装置による先駆的な健診の実証ができる施設になる。

3 | 診療の概要

受診者数の推移を図1に示した。一般受診者数は9,391名で前年度より288名減少した。近隣企業数が減少していること、および処方日数の増加による受診間隔の延長が続いていることが影響していると考えられる。当クリニックは一般開業医のように地域密着型の医療施設ではないので、受診者の便宜を考えて処方日数が長くなるのはやむを得ない面がある。しかし、人間ドックを含めて健診受診者数は増えている。これからも、個人受診者、港区民健診、ネットで予約される受診者の反復受診率を高く



※ 1 (超音波検査前年比内訳：上腹部+437, 乳房+288, 婦人科-12, 甲状腺+9)
 ※ 2 (X線検査前年比内訳：胸部+183, 胃部+92, 骨量-38, マンモ-58)

図2 2016年度来所者数(前々年および前年との比較)・検査件数(前年との比較)

維持する努力を続ける必要がある。近隣企業からの受診者については、山の手線新駅が開業するまで増加は期待できない状況であるが、事務営業担当の努力により遠方の企業健診受診者が増加している。

4 各種検査数の推移

検体検査、腹部超音波、心臓超音波、呼吸器、眼底、内視鏡、X線検査の推移を表1～7に示した。いずれも健診者数の増加に伴い前年度より増えた。

5 婦人科検診(子宮頸部がん細胞診 [PAP検査], 子宮体部がん細胞診)

2016年度に子宮頸部がん細胞診を希望して行った件数は、総合健診(人間ドック)で1,596件(前年比+87)、健診2,076件(+73)、一般診療17件であった。健診者のうち港

区健診が565件であった。

子宮頸部細胞診判定の内訳は表6の通りである。ASC-US以上の細胞異常がみられた場合は基本的には精密検査のため専門病院へ紹介とした。

子宮体部がん検査(ホルモン補充療法時のチェックを含む)は全体で33件、細胞診判定の内訳は表7の通りである。

今年度は、昨年度よりも受診者数は増加しているが、ここ数年ほどの伸びはなかった。

2016年3月より常勤医が着任し、これにより週4日婦人科外来を開始することとなる。

6 総合健診(人間ドック)

1) 総合健診の年代別受診者数(表8)

表8は2016年度の総合健診(人間ドック)の年代別受診者の一覧である。

表1 検体検査

年度	項目	血液検査	尿	便	細胞診	細菌・その他	合計 (件)
2016		16,660	15,705	10,664	4,017	0	47,046
2015		16,822	15,559	10,215	4,234	0	46,830

表2 循環器機能検査

年度	項目	ECG		その他 (UCG含まず)	合計 (件)
		安静時	24時間モニター		
2016		13,550	39	5	13,594
2015		13,580	55	8	13,643

表3 超音波検査

年度	項目	上腹部	乳房	婦人科	甲状腺	心エコー (UCG)	合計 (件)
2016		7,342	2,422	260	107	43	10,174
2015		6,905	2,134	272	98	52	9,461

表4 レントゲン検査

年度	項目	胸部	胃部	乳房	骨量測定	その他	合計 (件)
2016		15,296	7,267	3,042	828	0	26,250
2015		15,113	7,175	3,100	866	0	26,437

表5 呼吸器機能検査

年度	項目	ルーティン 予測肺活量 一秒率	+ FV 曲線
2016		6,538	
2015		6,207	

表6 子宮頸部がん細胞診 (ベセスダ分類)

年度	異形度	NILM	ASC-US	ASC-H	LSIL	HSIL	SCC	AGC	AIS	adenocarcinoma	合計 (件)
2016		3,583	59	9	26	9	0	1	0	2	3,689
2015		3,392	78	16	29	11	1	2	0	1	3,530

表7 子宮体部がん細胞診 (クラス分類)

年度	異形度	I	II	III	III a	III b	IV	V	合計 (件)
2016		27	5	1	0	0	0	0	33
2015		52	8	0	0	0	0	0	60

2) 総合健診・結果伝達状況

ドックの結果伝達については、受診者の希望により3
通りから選択することが可能である。

第1は、受診当日に、一部(甲状腺ホルモン検査、ヘリコ
バクター・ピロリ菌抗体検査、喀痰細胞診検査、乳房レントゲン検

査、乳房エコー検査、子宮頸部細胞診検査、子宮体部細胞診検査な
ど)を除く項目の結果説明を12時30分から行っている。
胸部や消化器系画像デジタル画像を受診者に見せながら
問診情報等を参考にして医師から結果説明がなされ、問
題のある場合は専門医へ紹介し、治療や更なる精密検査

表8 総合健診の年代別受診者数

年齢区分	男性	女性	合計
29歳以下	50名 (1.2%)	33名 (1.3%)	83名 (1.2%)
30～39歳	580 (14.1)	377 (14.9)	957 (14.4)
40～49歳	1,418 (34.0)	877 (34.6)	2,295 (34.4)
50～59歳	1,139 (27.1)	654 (25.8)	1,793 (27.0)
60～69歳	685 (16.6)	397 (15.7)	1,082 (16.2)
70～79歳	206 (5.0)	153 (6.0)	395 (5.4)
80歳以上	49 (1.2)	44 (1.7)	93 (1.4)
合計	4,127名	2,535名	6,662名

表9 総合健診の異常発見率（上位10項目）

性・数	順位	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
男性	病名	肥満	肝機能検査異常	脂質異常	高尿酸血症	血液学的検査(貧血等)	顕微鏡的血尿	聴力異常	糖代謝異常	高血圧	肺機能検査異常
3,713名	発見率(%)	46.8	40.7	33.8	22.9	15.3	13.6	12.6	11.9	10.2	8.8
女性	病名	顕微鏡的血尿	尿中白血球増	肝機能検査異常	血液学的疾患(貧血等)	肥満	脂質異常	聴力異常	高血圧	糖代謝異常	便潜血陽性
2,302名	発見率(%)	27.0	22.8	16.7	14.7	14.4	10.3	6.7	5.4	4.9	3.5

の実施など早急な対応が可能となる。

第2は、結果表は診察医が判定し、郵送した後に受診して結果の説明を受け、当センターに主治医を持つ場合、処方なども含め結果の説明を行う。対面式での結果説明は受診者がその場で質問や不明瞭な内容の確認をすることができ、また問題への対応が早急にできる利点がある。

第3は、判定医が最終確認を行った後に結果表を郵送する方法である。この場合は書面のみでの説明となる。後日電話での問い合わせや、改めて問題に対して受診されるケースもある。

いずれの方法でも、オプションを含め検査結果がすべてそろった段階で医師が最終チェックを行い、結果表が郵送または手渡しされる。総合健診（健保組合、事業所との契約によるもの）、および人間ドック（個人で受けるもの）受診者総数6,662名のうち、3,170名（47.6%）の方が当日に結果説明を受けた。

3) 総合健診の異常発見率

表9に総合健診の判定結果から異常発見率の高い病態を順に列挙する。

また、総合健診のレントゲン検査で発見された消化器疾患は表10の通りである。

表10 総合健診（レントゲン検査）で発見された消化器疾患

（ドック：男性752名、女性474名）

	食道		胃		十二指腸	
	男	女	男	女	男	女
潰瘍	1	0	5	3	3	1
潰瘍の疑い	0	0	1	0	0	1
ポリープ	11	5	350	330	21	11
ポリープの疑い	0	0	5	4	1	0
粘膜下腫瘍	1	1	17	15	2	1
粘膜下腫瘍の疑い	0	1	3	7	1	0
胃炎、びらん	3	0	314	106	7	1
潰瘍癒痕	1	0	2	1	3	1
合計	17	7	697	466	38	16

7 | 集団の健康管理

1) 上部消化管内視鏡検査

上部消化管内視鏡検査は、一般診療での経過観察や、総合健診・一般健診からの精密検査、健診のオプションとして行われている。2015年度には1,951例だった検査数は、今年度は2,062例を数え、年々検査数を増やしている。現在1日の検査数を7例としているが、それでも検

表11 上部消化管内視鏡検査所見内訳（被検者2,062名）

所見	例数
食道炎	572
食道裂孔ヘルニア	581
バレット食道	63
ポリープ	579
胃がん	10
胃・十二指腸潰瘍	13
胃・十二指腸潰瘍癒痕	244
萎縮性胃炎	1,024
表在性胃炎	560
びらん性胃炎	300
十二指腸炎	91
びらん	94
異常なし	106

表12 上部消化管検査組織診断結果（被検者136名）

異型度	I	II	III	IV	V
例数	124	1	1	2	8

表13 腹部超音波検査結果

疾患名	男	女
胆のうポリープ	860	289
胆のうポリープ（疑）	5	5
胆石	398	159
胆石（疑）	5	3
肝のう胞	1,149	558
脂肪肝	1,477	305
腎のう胞	1,196	391
合計	5,090	1,710

表14 集団の健康管理（下記について継続的な健康管理を行っている）

	団体名	実施人数（名）	内容	担当医師名
1	モーターボート選手、実務者関係	693	登録更新検査 実務者健診	久代 赤嶺 長田 他

査待ちが1～2カ月の予約待ちになるため、1日1～3名オーバーで検査を実施している。

上部消化管内視鏡検査が増えている理由として、高齢受診者の上部消化管造影検査による誤嚥や事故防止、上部消化管造影に比べてより精密な検査を希望、ヘリコバクター・ピロリ菌除菌治療前後の経過観察、またヘリコバクター・ピロリ菌除菌治療希望者が年々増加していることがあげられる。

胃内視鏡検査所見内訳は表11、組織診断結果は表12の通りである。検査所見や病理診断結果により、内視鏡担当医または主治医によりフォローアップが実施されている。組織診断 Group IV、Vの所見者は10名で、初診または当クリニックでの上部消化管内視鏡検査が初めての受診者が4名、他6名は経年的に上部消化管検査を受けていた。10名は胃がんの診断で他院への紹介となった。

2) 総合健診（ドック）および健診で発見された悪性腫瘍

胃がん10例、食道がん1例、乳がん14例、肺がん2例、大腸がん4例、子宮がん1例、前立腺がん2名、悪性リンパ腫1名、腎臓がん1名であった。これらは紹介先医療機関からの返答書で確認されたケースである。

3) 腹部超音波検査結果

表13の通りである。

4) 総合健診（人間ドック）以外の集団健診

継続的に健康管理を行っている団体は表14の通りである。

8 | 健康管理担当者セミナー

日時 2016年11月30日（水）

会場 笹川記念会館 4階会議室

参加者 40団体50名

内容 人間ドックや健康診断の受診先団体の担当者を中心に、最近の医療トピックスなどを中心とした医療セミナーを毎年開催し、本年度で第37回目を数えた。日野原理事長の挨拶のあと2題の講演を行った。

講演・1 健診でわかる黄斑疾患

湯澤美都子（日本大学名誉教授）

目の病気である黄斑疾患について、たくさんの図や写真を紹介しながらわかりやすく説明された。

黄斑疾患は50歳以上に多い疾患で、初期には片眼の罹患で気がつかないこともあるため、検診の重要性が説かれた。身体障害者の視覚障害における原因として4位に入っていることにもあるように近年増加している疾患である。

黄斑疾患の種類と症状、治療について説明された。まず滲出型加齢黄斑変性については、症状は中心暗転や変視（中心部の暗転やゆがみのある状態）により読み書きや人の顔が判別できないなどの症状がある。早期発見ができれば治療効果が高く初期病変の発見が重要であること。

次に中年男性に好発する中心性漿液性脈絡網膜症については、症状は加齢黄斑変性と同様でストレスや過労が誘因となって発病するが自然寛解し、予後良好の場合が多いが、再発の注意も必要であることを話された。

黄斑上膜は視力に歪みや視力低下を起こすため、手術により黄斑上膜を剥離することで改善する。黄斑円孔については手術で視力の改善など多くの場合症状が改善されるので早めの手術が望まれる。

両疾患とも早期発見の重要性を説かれた。

講演・2 インフルエンザと肺炎から守るために ストレスから起こる病気を防ぐために

古川 恵一（聖路加国際病院内科感染症科部長）

今の時期（冬季）に関心の高いインフルエンザについて、インフルエンザの語源、定義、そしてインフルエンザウイルスについて解説された。過去の世界的大流行は十数年に1回起こる遺伝子の突然変異、抗原構造の大変化によるなど過去の事例を紹介しながら、現在話題になっている新型インフルエンザについて特徴や現状を紹介、鳥インフルエンザの感染例についても説明され、さまざまなインフルエンザ治療薬の効果を紹介された。また、感染予防は、サージカルマスクの着用や手洗いの励行、手の消毒が有効であると話された。インフルエンザの重症化についても触れ、高齢者には肺炎予防のためにもインフルエンザワクチンとともに肺炎球菌ワクチンの接種をすることが重要であると指摘された。

つづいてストレスの話に移り、ストレスの意味やストレスの内容、ストレスに対する感受性について説明された。次にストレスが原因とされる症状や病気について、身体の反応としてストレスが強く続くことでナチュラルキラー細胞が機能低下し、免疫力が低下し、その結果、さまざまな疾病へのリスクが高まり、がんの発生や進行にも影響する可能性があると話された。

ストレスとナチュラルキラー細胞の関係では、よりナチュラルキラー細胞活性を促すものは、運動、入浴、そして効果が高いのは笑いであると紹介された。

ストレスへの対処には3R（Rest, Relax, Refresh）がよいとし、家族、友人、仕事仲間などによりよい関係、よ

りよいコミュニケーションを持ち、ストレスを乗り越え前向きに意欲的に取り組むことができれば素晴らしいということ話を終えられた。

9

クリニックにおける総合健診（人間ドック） の特徴と看護師の役割

当クリニックでは、これまで予防的・教育的医療の見地から、総合健診（人間ドック）、生活習慣病健診、一般外来診療において疾病予防のための教育や成人の慢性疾患の継続管理を推進してきた。当クリニックの総合健診はリピーターが多く、開設以来30年以上にわたって受診されている方も少なくない。当クリニックの総合健診の特徴は、検査のみに留まらず、身体的、心理的、社会的など、包括的に問題点が抽出され、その問題点に対して個別性を重視した方針が立てられる点である。その問題点を把握するために、検査を進めていく中で看護師が個別に問診を行う。限られた時間で受診者の記載した問診票をもとにインタビューを行うが、その目的は、がんや生活習慣病などの早期発見およびその予防に必要な指導を行うための情報や、検査データに現れにくい症状などの健康問題を把握することにある。また、受診者の持つ問題が看護師との問診過程で整理され、受診者は自分の問題に気づき理解することができる。初診で受診される方に対しては過去のデータなどの確認をして、解決されていない問題点などに結びつく生活習慣などの情報収集を行う。

生活習慣問診時に家族歴や年齢を加味した検査のオプションも勧めている。オプション検査項目の枠も年々拡大し、適切なオプション検査が看護師の問診や診察時などに追加され、個別性のあるオプションメニューを受診者に提供できるようになっている。オプション検査として睡眠時無呼吸症候群（OSA）について日本睡眠協会との連携を得て睡眠障害の在宅スクリーニング検査を行いOSAの重症度の診断が可能となり、その結果により治療の必要性が生じれば専門病院へ紹介している。

医師の診察時には、すでに収集されている問診情報をもとに更に詳細なアプローチを行い、限られた診察時間を有効に使用することが可能となっている。診察上、更に検査の必要があれば追加する場合もある。

症状などで専門医に紹介も行う。結果の説明は受診当日に聞くことができる。結果の判定は単なる健康診査ではなく、得られたすべての情報（問診情報や検査データ）を

もとに個別性を重視した問題解決型の総合評価であり、その中には、生活習慣の変容や治療、将来の見通しについての見解も加えられる。

医師の結果説明の後に、原則として問診した看護師が再度面接を行い、重要な問題点を整理して、受診者の問題の理解、また解決方法などについて確認を行う。具体的には、再検査や精密検査の説明と実施のプラン、緊急な問題への迅速な対応（問題点に応じた専門医への受診や他の医療機関への紹介）について看護師がコーディネートする。

その他、禁煙外来への動機づけ、食習慣改善のための栄養相談（管理栄養士による専門的な指導）、運動の実施、心理的・社会的カウンセリングなどについても必要に応じてアドバイスする。

総合健診受診後の再検査や生活習慣変容後のフォローアップ検査も実施し、継続的に管理している。

総合健診の結果で専門医受診が必要となったケースに関しては、クリニックで各問題に応じて専門医を受診することができ、病態の評価、生活習慣の変容も含めて、継続的に受診者として治療を受けることが可能である。その場合も問診した看護師がプライマリーに関わることで治療効果をあげている。

受診者の診療録にはすべての健康情報、問診情報、検査データ、治療経過、受診者自身で測定した情報（血圧、体重など）、紹介した医療機関の返答書などがファイルされている。そのため長期にわたる受診者の経過を把握することができる。それがプライマリー・ケアを可能とし、リピーターが多い理由の一つにもなっていると思われる。これは、他の健診センターにはない当クリニックの総合健診の特徴である。

2013年4月からドック、健診で新システムが導入された。新システム導入後、原則としてドックの診察時に過去のすべての記録や情報が収録された診療録は使用しない方針として稼働した。問診は看護師が従来行ってきた検査のみにとどまらず、包括的に問題点を抽出するために必要不可欠である。正確な情報、個別性を重視した方針が立てられるために、医師の診察の前に、診療録（カルテ）を参考にOCR（受診者が記載した問診票）の治療中、および経過観察中の疾患、また服用している薬などについても確認し不足部分の補足を行い、医師の診察時の情報としている。また、システムに問診情報の入力を行ったことにより、次回の受診時に入力した情報を閲覧することが可能となっている。前年に入力した情報を閲覧できて、問診に要する時間を短縮することができている。

2014年4月から胃内視鏡検査実施日が週5日に増え、オプション検査として選択できる範囲が更に拡大された。1日の実施件数も定数を増やし、2016年度は2,062名を実施した。昨年比6.2%増加しているが、これ以上の増加は見込めない状況である。経鼻内視鏡検査の選択が可能となり、また、ヘリコバクター・ピロリ菌の除菌治療後の経過観察なども含めて内視鏡検査の需要が年々増えているにもかかわらず、1日の実施件数に限界があるため、今後増設も含めて検討されている。

10 | 情報管理

1) 健診システムの安定運用

2013年度より稼働を開始した健診システム（TOHMAS-i Eterno）の安定運用に努めた。

クリニック内の運用業務においては、各部署と連携し、日次・月次・年次および随時業務作業（各種帳票出力、データ抽出など）を行った。この業務作業内にも不具合や改善点が発生したが、事象の確認、調査を行い、ベンダーとの連携を密にとって、都度のデータ修正、ロジックやプログラム改修などにより対処した。また、新健診システムに連携した各種システム（眼底、臨床検査、画像）について、システム不具合や機器トラブルに対してもベンダーと連携し、障害対処を含めて安定運用に努めた。特に、画像システムに関しては2016年春にサーバーのリプレースを行い、その切り換え・確認作業、および安定運用を行った。

これらシステムに対する各部署からの要請に柔軟に対応し、実作業者の利便性を図った。

2) 特定保健指導プログラムの安定運用

特定保健指導プログラム（ヘルスコンシェルジュ）の安定運用に努めた。

新健診システムとデータ連携し、管理栄養士の運用により適時、健康保険組合への結果／請求出力を効率的に行った。

3) 日野原記念クリニックのホームページの更新

クリニックのホームページ内容に関する各部署からの変更要請に随時対応した。

4) インフラ整備

パソコンや周辺機器の経年変化による老朽化に伴う動

作不良、起動不具合や、パソコン OS のサポート終了に伴い、代替機の準備、パソコンの初期化、リプレースを行った。インターネットや健診システムのネットワーク機器のセキュリティ対策、および各導入機材のウイルスチェックなどにより外部・内部からの攻撃に備えた。

受診者内視鏡室へのモニター設置、また、各部署からの IT 関連のヘルプデスク対応を行った。

11 | 食事栄養相談

1) 相談人数と相談内容

2016年度食事栄養相談人数は延べ418名であった。

総合健診（人間ドック）の当日結果説明において、医師より栄養相談の指示があった受診者にはその場で受けられる体制にしており、当日都合がつかない場合は予約をとり、後日相談を受けていただくようにしている。

一般健診においても、生活習慣に問題点があれば栄養相談の案内がされる。基本的には医師の指示のもとで最初の面接で改善目標をたて、1～3カ月後に再検査を実施する。2回目以降の面接で検査結果の改善を確認している。

一般診療でも慢性疾患の相談を継続して行っている。

2) 病態別栄養相談の割合

相談件数は前年度とほぼ同じである。特定健診を含め、相談内容の割合は、減量44%、脂質代謝異常17%、高血圧15%、糖代謝異常11%、肝機能異常5%、高尿酸血症6%、その他2%であった。

3) 年代別栄養相談

20歳代0%、30歳代4%、40歳代31%、50歳代36%、60歳代20%、70歳代以上が9%であった。

4) 特定健診・特定保健指導

健康保険組合19団体と契約し、実施している。

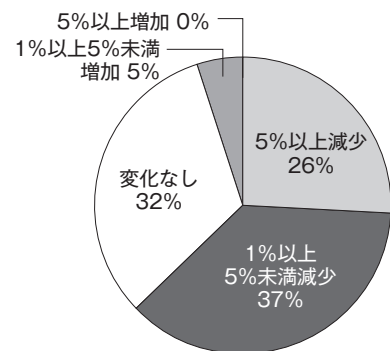
2015年度（実施は2015年～2016年）の実績について下記のような結果であった。

実施延べ人数は33名（積極的支援19名、動機づけ支援14名）で、積極的支援のほうが動機づけ支援より多かった。33名の改善率は図3の通りである。

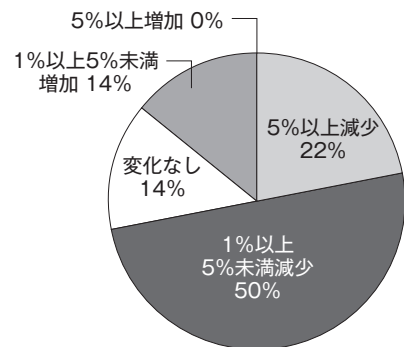
5) はらすまダイエット

2013年度からの取り組みとして、某企業のシステム（は

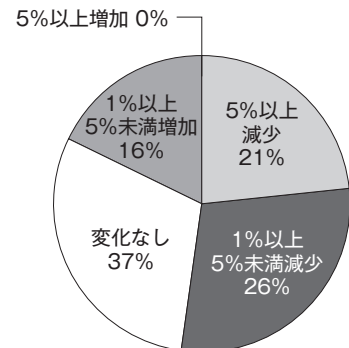
【体重】積極的支援



動機づけ支援



【腹囲】積極的支援



動機づけ支援

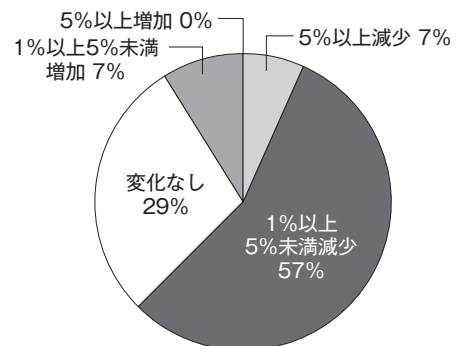


図3 2015年度特定保健指導改善率

らすまダイエット)を導入した。初回の面談後は10日ごとの支援者からメールを送信、対象者は体重や行動の記録

を毎日パソコンや携帯などからWEBを通してサーバーに記録を行い、データは支援者と対象者が共有できるというプログラムである。

今年度の実施者は1名であった。今後も周知方法を検討して実施者を増やしていきたい。

12 | 学会・研究会・セミナー参加

- ・吉田洋子・秋山真由美
国際医用画像総合展
2016.4.16
- ・塩沢美香
日本臨床衛生技師会
検体採取等に関する講習会
2016.4.30～5.1
- ・塩沢美香
(株)US-ism
腹部エコー ハンズオンセミナー
2016.5.7
- ・那須美智子・小池幸子・立花三和・塩沢美香・倉辻明子
東京超音波研究会
肝臓の超音波検査免許皆伝～検査の手技から診断までのその理論～
2016.6.3
- ・鶴間久美子
エムティ・アンド・エムティビー(株)
超沈査①
2016.6.19
- ・木島ちえ
エムティ・アンド・エムティビー(株)
呼吸機能検査
2016.6.30
- ・吉田洋子・秋山真由美
東京 GE マンモグラフィ ミーティング
2016.7.19
- ・那須美智子・小池幸子・立花三和・倉辻明子
東京超音波研究会
正しい所見の取り方考え方：胆道と膵臓～ここがポイント。勘所。あなたの検査を再チェック～
2016.7.22
- ・三井英巳
長野県松本市
- 第57回日本人間ドック学会学術大会
2016.7.28～29
- ・小池幸子
東京超音波研究会
乳腺病理の基礎知識～あなたの疑問を解消します！～
2016.9.7
- ・那須美智子・小池幸子・立花三和
東京超音波研究会
超音波検査の未来を見据えて
～今、超音波検査に求められているものは？肝疾患において何が変わったのか？～
2016.10.12
- ・小池幸子・立花三和
東京超音波研究会
腎腫瘤性病変～疾患の特徴。所見のポイント。ピットフォールまで～
2016.11.29
- ・小池幸子
超音波スクリーニングネットワーク
超音波スクリーニング研修講演会
2016.12.17
- ・那須美智子・小池幸子
東京都がん検診センター
総合判定の実際～症例を中心に～
2017.1.21
- ・三井英巳・関口将司・岡庭栄理・竹中聖子
東京ベイ舞浜ホテル クラブリゾート
日本総合健診医学会第45回大会
2017.1.27～28
- ・秋山真由美
胃X線検査を楽しく学ぶ会
2017.2.18
- ・那須美智子・小池幸子
アスリード(株)
乳房超音波検査を学ぼう！2016アドバンス編
2017.2.19
- ・赤嶺靖裕・那須美智子・小池幸子
キヤノンライフケアソリューションズ(株)
眼科健診セミナー
2017.3.4

報告／久代登志男（日野原記念クリニック所長）

日野原記念ピースハウス病院

所在地：神奈川県足柄上郡中井町井ノ口1000-1

日野原記念ピースハウス病院は、神奈川県足柄上郡中井町にある日本最初の独立型ホスピス、緩和ケア単科の病院である。1993年9月に開院して以来、4,000名近くの方々にケアを提供してきたが、経営上の諸事情により2015年5月にいったん休院せざるを得なくなった。

その後、多方面からの励ましと要望を受け、財団内外の多数の方々の努力の甲斐あって、2016年4月1日には「日野原記念ピースハウス病院」と改称して再開記念式を行い、4月5日から患者さんの受け入れを開始することができた。それから1年が経ち、活動の結果を数値で示すことができるようになり、感慨深いものがある。

ホスピス教育研究所（松島たつ子所長）、訪問看護ステーション中井（田中美江子所長）、そしてボランティアの会（志村靖雄コーディネーター）が、ピースハウスを再開したいという強い意志を持ち続けて、中井地区で活動を続けてきたことが再開の礎であった。また、再開に当たっては公益財団法人地域医療振興協会の援助を仰ぎ、事務長と常勤・非常勤医師の派遣を受けた。独り立ちできるまでの伴走をしていただき、感謝に堪えない。最近は、ありがたいことに週末や祝日などの日当直には、横浜市立大学病院や聖路加国際病院、北里大学病院の緩和ケア関係

医師の援助が得られるようになっている。

必要最小限の「スリムな」人員体制での緩和ケア提供を続けているが、これは日本の一般的な形ともいえる。限られた人材で、どこでも、ごく普通の知識や技術、薬などを利用して、標準的なケアを提供することは不可能ではないということであろう。

1 | 診療活動

2016年4月から2017年3月までの1年間に男性94名、女性97名、合計191名の方々の世話をしてきた。そのうち166名の方を年度内に看取った。平均年齢は74歳、平均在院日数は約28日であった。

悪性腫瘍の原発部位としては肺がんが最も多く約20%であったが、食道から直腸に至るまでの消化管と肝胆膵を合わせた消化器系は約42%に及んだ。

患者住所は、湘南西部と県西部が合わせて約86%を占めている。これは、この地域の緩和ケアニーズが高く、当院の活動再開が待ち望まれていたことを示す値であると考えている。

報告／西立野研二（日野原記念ピースハウス病院院長）

入院状況（2016.4.1～2017.3.31）

入院患者数（名）		延入院患者数（名）	平均年齢
男性	94	95	74歳（入院時）
女性	97	103	
合計	191	198	

原発部位（重複あり）

部位	件	部位	件	転帰	
肺	39	腎・尿管	6	死亡	166
胃	18	脳	2	転院	1
膵	19	盲腸	5	在宅	7
肝・胆道	9	膀胱	3	在院	17
直腸	10	胸腺	1	合計	191
結腸	15	リンパ	1	平均在院日数	
咽喉頭	13	膣	1	28.4日	
食道	5	悪性中皮腫	1		
前立腺	9	後腹膜腫瘍	1		
子宮	9	陰茎	1		
乳	13	原発不明	2		
卵巣	9	合計	192		

患者住所

湘南西部			県西部			その他		
秦野市	28(名)	14.7(%)	小田原市	33(名)	17.3(%)	県内その他	20(名)	10.5(%)
平塚市	36	18.8	足柄上郡	19	10.0	神奈川県合計	185	96.9
中郡	30	15.7	南足柄市	10	5.2	東京都	4	2.1
伊勢原市	6	3.1	足柄下郡	3	1.6	その他	2	1.0
小計	100	52.4	小計	65	34.0	合計	191	

2 | 看護部の活動

1) 看護部が大切にしていること

「ピースハウスはやすらぎの家である。ここで時をともにする人は皆それぞれの生き方を尊重する」という当院の理念に基づき、ケアを提供する専門職として、ピースハウス病院で出会うすべての方をかけがえのない人として尊重する。

「伝え合う・学び合う・支え合う・認め合う・喜び合う」をスローガンに、患者・家族の皆様だけではなく、一緒に働くみんな、すべての人にやさしい看護を目指している。

また、再開以来、スムーズな入院対応を心がけ、一人でも多くの方にケアを届けられるように工夫している。

2) 患者と家族のニーズに応えるための、チームケアの中での看護師の役割

生命力の消耗を最小限にし、患者・家族に備わっている持てる力を十分に引き出すこと。苦痛症状を緩和し、心地よく日常生活が送れるように支援すること。具体的には、呼吸・食事・排泄・休息・睡眠と活動・身体の清潔・体温の維持・適切に衣類を着けるなどを、個々のニーズを尊重して生活の営みを整えることである。

ホスピス緩和ケアに携わることは、「患者・家族の自由度を拡げる挑戦」であり、「どうしてほしいか、どうなりたいか」をいちばん知っている療養生活支援のプロとして、「その方の生活の処方箋」が描ける存在でありたいとスタッフ一同頑張っている。

3) 看護部スタッフ

看護師長1名、副看護師長1名、看護主任1名、看護師14名(内非常勤1名)、看護補助者4名(内非常勤1名)。

病院再開にあたり、急性期病院、療養型病院、緩和ケア病棟、クリニック、訪問看護、老人福祉施設等の経験を有する看護師で構成している。また、看護スタッフには、保健師(3名)、緩和ケア認定看護師(2名)、がん性疼痛看護認定看護師(3名)、介護支援専門員有資格者、看護教員養成課程修了者、フェルディ式医療マニュアルリンパドレナージ複合的理学療法修了者、アロマセラピーアドバイザー有資格者が所属しており、その多彩な強みを活かし、超高齢社会に合うホスピス緩和ケアを創造している。

4) 看護提供方式

●PNS[®] (Partnership Nursing System)

パートナーシップ・ナーシング・システムを土台に、ペアナーシング制をとっており、日々のケアにおいては、ペアナースが「対等関係」のもと、「協調・協働」していき、互いの特性や能力を活かし、その日の患者のニーズに応じた看護を提供している。さらに、継続性を重視し、担当看護師制を導入している。

5) 看護部年間目標

- (1) 新生日野原記念ピースハウス病院の看護体制の構築を図る
- (2) 看護の質を保証し、安全・安心な看護を提供する

6) 係活動内容

【業務係】

- (1) 業務マニュアルの見直し
- (2) 看護補助者業務(早出・遅出)の見直し
- (3) 入院担当業務について検討
- (4) 与薬マニュアルの見直し
- (5) 麻薬の内服時間の検討
- (6) 持続皮下注射・レスキュードーズ自己管理の安全使用についてマニュアル作成
- (7) 申し送り・ウォーキングカンファレンス方法の見直し

【記録係】

- (1) ケアファイルの運用・内容の検討
- (2) ケア・処置一覧表の検討
- (3) フォーカスチャータリング記録定着に向けての学習会及び記録見本作成

【物品係】

- (1) 衛生材料の需要と供給バランスを検討し定数化を図った
- (2) 物品購入ルールを明文化し、事務部と連携を図った
- (3) 使用頻度の高い衛生材料などは安価で安全な物へ変更した
- (4) 当院看護部の看護備品管理体制とLPC本部との情報共有を行い明文化が図れた

【ボランティア係】

- (1) ボランティアとの協働するための申し送り方法や情報共有方法の統一化を図った
- (2) アドバンス講座で共に学び合う機会を持たた(がん終末期の患者の対応について)

【摂食嚥下係】

- (1) 口腔ケアの学習会の実施
- (2) 口腔ケアアセスメントシートの改訂

【褥瘡ケア係】

- (1) 褥瘡経過評価表の改訂
- (2) 今年度の新規発生褥瘡の分析と課題の明確化

【緩和ケア係】

- (1) 疼痛アセスメント用紙の改訂
- (2) 疼痛アセスメント及び疼痛の理解に関する定期的な学習会を実施
- (3) 臨死期のケア・グリーフケアに繋がるエンゼルケアのあり方の学習会

【リンパ浮腫係】

- (1) スキンケア技術の向上と保湿剤・洗浄剤の統一化を図った

【ビリーブメント係】

- (1) ホスピスサマリー用紙の改訂
- (2) エンゼルケア学習会及びエンゼルメイク道具の整備
- (3) ビリーブメントカード送付開始への啓発と準備

7) 2016年度の活動評価及び今後の課題

- (1) 看護提供方式パートナーシップ・ナーシング・システムのメリットを期待しペアナーシング制をとってきた。次年度も各スタッフの経験を活かし、患者ニーズに柔軟に対応でき、スタッフ同士も互いの経験を尊重できる看護体制の醸成を図っていききたい。

再開後、日々が問題解決の連続であったが、198名の患者・家族へ看護を提供できたことはスタッフの尽力の成果である。多くの方との出会いを通し、たくさんの学びや気づきが得られたことを大切に、次年度の看護に活かしていきたい。

- (2) インシデントレベル3以上に該当するアクシデント発生は0件であった。転倒・転落に関するインシデントが43件/年であったため、アセスメントの強化、ベッドの低床化、予防具の検討、薬物療法との関連性などの分析を行い、さらなる安全な療養環境の提供が課題である。

また、患者・家族の意向が尊重される緩和ケアとして、看護者側の理想の追求にならないための看護ケアの意思統一や、患者・家族・遺族などの満足度調査などが課題である。

報告／桐ヶ谷政美（日野原記念ピースハウス病院看護師長）

3 | ボランティア活動

日野原記念ピースハウス病院は2016年4月1日より活動を再開した。休院中の1年間、病院の再開に備えて建物、庭園など施設の保全管理に関わりつつ、併設されているホスピス教育研究所、訪問看護ステーション中井の活動支援を続けてきたピースハウスボランティアの会は、4月19日に31名の参加者を得て総会をもち、新役員を選出し従来のホスピスボランティアの活動に復帰すべく体制を整えた。

2016年度に再開に向けて継続登録をしたピースハウスボランティアは72名、前年4月1日対比で20%の減少となったため活動の見直しを行った結果、環境整備活動を一部縮小したほか、活動全体を簡素化した。

1) 活動内容の変更

ボランティア数の減少に伴い曜日別の活動人員にばらつきが生じるとともにボランティアの高齢化が進んだため、研究所エリアの清掃、室内環境整備、食器洗浄など作業部分の活動をやめる一方、介護用品の作成、看護補助など患者ケアに関わる部分の活動に重点を移した。またティータイムサービスもその内容を簡素化し、最少人数でも毎日実施できるような体制をとった。毎月行っていた季節の行事も、暦の上の行事を中心にを行い、お花見、作品展、焼き芋、クリスマス会等、看護部の負担が大きい行事は取り止めた。同様な理由でこの1年は、しのぶ会、ビリーブメントカードの発送なども見送ったため、その手伝い作業もなかった。

2) 特技ボランティアの活動

美容、アロマセラピー、マッサージなどは従来通り行っているが、休退会者が出てお休みの日が増えた。運転ボランティアは現在、土曜日に2名が月2回関わっており、中井町のシルバー人材センターへの依存が高まっている。芝刈り、庭園整備などの外部環境整備に関わる活動は男性ボランティア3名が毎週火曜日に関わっており安定している。

3) ボランティアの会の活動

曜日担当による任期1年の三役制度が、2015年度（休院時）は有志による実力三役に切り替わったが、再開後のこの1年も新実力三役に委ねられた。2016年度は、総会1回、役員会7回を開催し、会の運営に当たった。

この1年の会の活動で特筆すべきものは2件ある。一つは、病院再開に際して、送迎用の軽自動車を病院に寄贈したことである。これでシャトルバス1台と等価交換した乗用車と併せて2台の車両で日常業務を円滑に行うことができた。もう一つは、今後もボランティア活動の安定的自立を維持するために、年会費1,000円（2016年度は任意、2017年度は必須）を徴収することを決定したことである。休院中は、ボランティアの会は自主的に会の費用で全員ボランティア活動保険に加入し活動を継続した。寄付に依存しない活動への第一歩を踏み出したといえよう。

4) ボランティア活動資金収支

ボランティアの会は、2015年度（休院時）から、ホスピスサポートチームから譲り受けたフレンズショップ会計の繰越金1,842,747円をボランティア会計に繰り入れ一本化した。その結果、2016年度の収入は、前年度繰越金325万円、寄付金40万円、バザー6万円、ショップ売り上げ17万円であった。支出はティータイム食材費36万円、活動諸経費13万円、自動車寄付40万円で、2017年度への繰越金は306万円となっている。

5) アドバンスト講座への参加

アドバンスト講座は今年度3回開催した。テーマと参加者は下表の通りである。

6) 見学・交流

2016年度は、ボランティア活動再スタートへの取り組みに忙しく、他施設の見学や他施設からの見学受け入れもなかった。

恒例の中井町最大のお祭り「美緑フェスティバル」は10月16日(日)中井町中央公園で行われ、日野原記念ピースハウス病院再開を地域に周知させるとともに地域連携を深めるために訪問看護ステーション中井と共に参加した。

日本病院ボランティア協会の総会（10月）にはボランティアコーディネーター、関東地区病院ボランティアの会研修会には副会長が参加した。

7) ピースハウスボランティア養成講座

例年春秋2回開催しているが、2016年度の春期養成講座は病院再開直後で準備が整わず見送った。そのため、秋期講座は1カ月繰り上げて9月開講を計画したが、応募者が予定人数に達しなかったため再び開催を見送り、応募者3名を面接の上採用し、2017年度の養成講座を受講してもらうこととした。

8) 高校生の夏期ボランティア体験実習指導

2016年度の高校生夏期ボランティア体験実習は、7月25日(月)から8月10日(水)まで15日間実施した。参加者は、麻布学園麻布高校から2名、神奈川県立秦野曾屋高校から6名、神奈川県立伊志田高校から1名の計9名であった。

9) アートプログラム

アートプログラムは、日曜、祝祭日、年末年始、ボランティアアドバンスト講座開催の日、財団のボランティア関連行事のある日を除き毎日、原則として午後1時半から3時に実施してきた。アートプログラムの内容は、押し花(月)、絵と書(火)、フラワーアレンジメント(水)、ちょこっと手作り(木)、歌う会(金)、折り紙(土)、いなご会《俳句・川柳》(月1回)であった。

開催回数は272回、参加者は延べ1,673名、1回平均6.2名、そのうち患者・家族の参加者は819名、1回平均3.0名であった。アートプログラムは単調になりがちなホスピス生活に潤いをもたせ、介護者にもホッとした一時を過ごしてもらう目的があり、語らいの場でもあるので参加者の多寡にかかわらず定期的に常時開催している。

表 ボランティアアドバンスト講座

開催日	内 容	講 師	参加者(名)
7月19日(火)	・ピースハウス病院の目指すものとボランティアへの期待 ～お話と意見交換～ ・グループワーク「これからのボランティア活動」	院 長 西立野研二	34
11月15日(火)	・感染予防対策について ・ボランティアとナースの連携を深めるためには	看護部 赤丸智子 看護部 臼井珠美・内田真由美	29
1月7日(火)	・感染症について：結核を中心に ・ピースハウスにおける食事の役割を考える	副院長 濱田俊之 栄養部 平野真澄・宇賀玲美・伊藤博明	26



再開された日野原記念ピースハウス病院では、またボランティアによる心のこもったサービスがいろいろと提供されるようになった



10) ティータイムサービス

アートプログラム同様、ボランティア活動日には午後3時から4時にティーラウンジで欠かさず行ってきた。前後30分はその準備が必要であり、またティーラウンジに来られない患者・家族にはお部屋に伺って注文を聞いてお持ちするので、再開時、登録ボランティアの少ない曜日の実施が最も懸念された活動であったが、23年前の開院時、イギリスのホスピスから学んだ「一片のクッキーと一杯の紅茶」の原点に戻り、菓子は市販品を提供するなどの簡素化のもとで1年間継続してきた。ここにきて可能な曜日から手作り菓子の提供を復活する動きが出てきたことは喜ばしい。

11) 2017年度に向けて

2017年4月1日現在、ピースハウスボランティアの登

録者数は66名（内男性11名）で、昨年4月1日対比で9%減少した。その構成内容は次の通りである。

平均年齢は64.7歳（最高86歳、最低42歳）、年齢構成は80代5名、70代16名、60代27名、50代11名、40代7名となっている。県内在住者が58名（88%）を占め、その約70%が秦野、平塚、二宮、大磯、小田原など15km以内に居住している。

活動期間を見ると、5年以上のベテランが半数以上の68%を占め、今後も活動の中心的な役割を果たすものと期待される。

2016年度のピースハウスボランティアの総活動時間は14,590時間、休院前の2015年度比-6,657時間、31.3%減となった。

報告/志村 靖雄（ボランティアコーディネーター）

ピースハウスホスピス教育研究所

所在地：神奈川県足柄上郡中井町井ノ口1000-1

ホスピス教育研究所の主な活動は、1) ケアに従事する専門職・ボランティアを対象とする講座・セミナーの開催、2) ホスピス国際ワークショップの開催、3) ケアの実際を臨床の場で体験する研修生の受け入れ、4) 各種研究会の開催、5) ホスピス・緩和ケアに関する一般への啓発・普及活動、6) 機関紙の発行、7) 国内外のホスピス緩和ケア関係者との情報交換などである。

また、「日本ホスピス緩和ケア協会」事務局としての業務も行っている。

1 | 活動の全体像

1) 講座・セミナーの開催

緩和ケアの基本を学ぶ「緩和ケア講座」は、これまでは数日間の継続プログラムとして開催してきたが、今年度は1～2カ月の間を空けて、また、より実践的なテーマを取り上げて開催することとした。

第1回目の講座では、がん患者の食をテーマとして、がん専門病院の管理栄養士から、がんの病期による食の問題とその支援を具体的に学ぶことができた。第2回目は、がん看護専門看護師によるリンパ浮腫の理論とケアの実際を学び、第3回目は、3名の皮膚・排泄ケア認定看護師を講師として招聘し、がん患者のスキンケア（褥瘡ケア・ストマケア・がん性創傷ケア）について、専門的な介入、ケアの最新情報を学ぶ機会となった。

ホスピスセミナーとしては、年度の最初のプログラムとして、ケアに従事するスタッフのストレスとそのケアについて、演習を取り入れたセミナーを開催した。終末期にある患者と家族の揺れ動く心に寄り添い、多くの死に直面するケアの現場で働くことは大きなストレスであり、自己の心身への気づきとセルフマネジメントについての学びは、自己の課題に直結する内容として高い評価を得た。年度後期には、家族ケア、在宅ケア、認知症のある高齢がん患者へのケアなど、それぞれの分野の第一線で働く講師を招聘し、専門的な学びの場を持つことができた。

2) ホスピス国際ワークショップの開催

第24回を迎えたホスピス国際ワークショップは、ギリシアと香港から講師を招聘し、「喪失と悲嘆—悲嘆ケアの

専門家と共に考える—」をテーマに開催した。

悲嘆のケアについてはこれまでも取り上げてきたが、今回初めて、「子どもの悲嘆」に目を向けることとした。重篤な病に罹患した子ども自身、また、大切な人を亡くした子どもに目を向け、発達段階にある子どもが体験する喪失と悲嘆について理解し、ケアの実際を学ぶ場を持つことができた。近年、わが国でも小児緩和ケアの必要性が述べられるようになったが、臨床現場では喪失を体験している子どもへの対応に苦慮していることが多く、経験豊富な講師からの具体的なアドバイスは非常に有益で、参加者からも臨床に役立つ学びとなったとの声が多く届いた。第2日目は、ケアを提供する医療者の悲嘆に目を向けるプログラムで、ケア提供者自身のケアの重要性に気づき、演習を通して癒された方も多く、さらに学びを深めたいという方が多かった。

3) 研修生の受け入れ

日野原記念ピースハウス病院の活動再開により、ボランティアコーディネーターが受け入れ窓口となる夏期の高校生ホスピス体験実習を再開した。ボランティアと行動を共にしながら、ホスピスにおけるチームケアの一員として活動することを通して人の死と向き合い、生きることの意味を考える機会となり、意義深い体験となっている様子が実習レポートから推察される。

なお、今年度は、病院の活動再開1年目ということで、医療専門職のための本格的な研修受け入れは実施していない。

4) 研究会の開催

高齢者ケアについて学ぶ研究会の第1回目では、薬剤師から話題提供をしていただき、高齢者の薬剤管理の問題について考えた。参加者の多くは在宅ケアに従事しており、高齢者の薬の使い方や自己管理の工夫など、日常遭遇する問題についての意見交換は有意義な時間になったと思われる。

第2・3回目では、認知症のある高齢者のケアについて考えることとし、高齢者の特徴、また認知症のある方の行動特性や心の様子を理解してケアに臨むことの重要性を再確認することができた。また、本研究会は、地域の医療福祉関係者の連携協力に向けた顔の見える関係作

りにも繋がっている。

5) ホスピス緩和ケアの啓発・普及活動

一般への緩和ケア啓発普及活動として病院見学とケアの実際を紹介する「オープンハウス」を開催した。2日間で80名の申し込みがあり、現在療養中の方や療養中の方を支えておられる家族メンバー、すでに大切な方を看取った方、医療者など、様々な立場の方が参加された。緩和ケアについてのそれぞれの期待や関心を知ることができ、色々な立場の方と共に緩和ケアを考える大事さを知る貴重な時間となった。こうしたプログラムは地域の方々と直接触れ合う機会となり、緩和ケアを広げ、地域全体のケアの質の向上に繋がっていくと考える。プログラムを継続することの重要性を再確認した。

6) 地域連携

教育の面から地域の医療福祉関係者との緩和ケアのネットワーク構築を目指す活動を再開した。

前期は、大学病院において、がんの治療期から患者・家族に関わる緩和ケアチームと、主に終末期ケアを担当するホスピスのケアチームが一堂に会し、具体的な事例をもとに検討した。地域で暮らす人々に継続した緩和ケアを提供するために、会の継続が期待されている。

後期には、地域のがん診療連携拠点病院からがん相談支援センターのソーシャルワーカー、緩和ケアチーム専従の緩和ケア認定看護師、また、地域の中核病院から地域連携室看護師をシンポジストとして招聘し、「緩和ケアシンポジウム」を企画した。日頃、患者さんの入院支援などを通して電話でのやり取りをしている相談員が一堂に集まり、それぞれの施設におけるケアの実際について紹介し、課題について検討した。約80名の参加者は、病院、在宅、施設など、様々な場でもがん患者とその家族のケアに関わっている方々で、活発な意見交換が行われた。

7) アジア太平洋ホスピス緩和ケアネットワーク

(Asia Pacific Hospice Palliative Care Network : APHN)

APHN は、1995年3月、(財)ライフ・プランニング・センターの日野原重明理事長が、アジア太平洋地域のホスピス緩和ケア関係者に呼びかけ、互いの知識や経験を分かち合い、この地域におけるホスピス緩和ケアの発展を目指して、連絡会議を開催したことがスタートであった。

その背景には、アジアで緩和ケアに関心を持つ人々が、欧米に出かけなくても、この地域で学びの機会を持てるように、また、アジアの文化を尊重した緩和ケアを育てていこうという願いがあった。

第1回の会議には、シンガポール、インドネシア、マレーシア、香港、台湾、オーストラリア、ニュージーランド、日本の8カ国の代表者が集まった。会議を重ねるごとに参加国が増え、シンガポールに事務局が置かれ、法人化の準備が進められた。2001年3月、公的な団体として登記され、柏木哲夫医師(現淀川キリスト教病院理事長)が初代会長に就任した。

現在、APHNには30を超す国と地域から、団体・個人合わせて1,500余の会員が登録され、各国から参加者が集う2年ごとのカンファレンスの開催、ホームページやニューズレターによる情報共有、また、モルヒネ使用に関する協働研究なども行われている。

教育支援はもっとも重要な活動で、特に初代事務局長の Rosalie Shaw 医師(現在オーストラリア在住、緩和ケア専門医)は、緩和ケアの発展途上にある国や地域に向き、その土地の患者さんと直接向き合い、現地のスタッフをベッドサイドで指導してきた。この教授法が引き継がれ、シンガポールの Cynthia Goh 現 APHN 会長を中心に、緩和ケアの経験豊かな医師や看護師など専門職がチームで、モンゴル、ミャンマー、スリランカ、バングラディッシュなどに出かけ、その国の文化や医療体制を尊重しつつ、教育、啓発・普及活動を展開している。

今回、APHN より緩和ケアの発展が望まれるミャンマー、バングラディッシュ、スリランカの緩和ケアの現状とケアを充実させる意義をドキュメンタリーとしてまとめた映画を作製したので日本でも上映をしてほしいという連絡が入った。アジアの現状を日本の関係者に紹介することは、アジア地域との交流の機会となり、また、日本の関係者が国際的な視野を持つことは日本の緩和ケアの発展にも意義があると考え、日本ホスピス緩和ケア協会と協力し、日本語翻訳版を制作し、緩和ケア関連団体に配布して、上映を依頼した。今後、日本各地で上映され、アジアの現状への理解が深まるとともに、緩和ケアの意義を再考する機会となると考える。

2 | 活動の実際

1) 講座・セミナーの開催

講 座 名	期 日	日数	講 師 (所属)	参加者数
ホスピス緩和ケア講座 1) がんと共に歩む患者・家族への支援 —患者・家族の直面する課題と緩和ケアチームの働き— 2) がん患者の食事に関する支援 —治療期から終末期まで—	2016年7月	1	松岡みちる 小田原市立病院緩和ケア認定看護師 稲野 利美 静岡県立静岡がんセンター 栄養室室長	25
ホスピス緩和ケア講座 がん患者とリンパ浮腫 —リンパ浮腫の理解とケアの実際—	2016年9月	1	奥 朋子 千葉大学付属病院看護師長 がん看護専門看護師	38
ホスピス緩和ケア講座 皮膚・排泄ケア認定看護師に学ぶ —がん患者のスキンケア—	2016年10月	1	舛田 佳子 神奈川県立がんセンター 皮膚・排泄ケア認定看護師 他2名	38
ホスピスセミナー 終末期患者のケアは大変!? —困難とやりがいのある現場— 1) ケアの現場で直面すること 2) 終末期のケア—なぜ困難を感じるのだろうか— 3) 死をみつめることでみえるもの —私のエンディングノート— 4) 仕事を続ける力 5) 困難を乗り越える	2016年6月	1	松島たつ子 ピースハウスホスピス教育研究所所長 齋藤 亮子 元 弘前医療福祉大学保健学部看護学科 教授	66
ホスピスセミナー がん患者の家族のケア —揺れ動く家族の思いを受けとめ、支援する—	2016年9月	1	田村 里子 一般社団法人 WITH 医療福祉実践研究所 理事	20
ホスピスセミナー 在宅緩和ケア —住み慣れた地域で暮らし、旅立つ—	2016年11月	1	奥野 滋子 湘南中央病院 在宅診療部長	45
ホスピスセミナー 認知症のある高齢がん患者への緩和ケア —精神症状の理解とケアの実際—	2016年12月	1	小川 朝生 国立がん研究センター東病院 精神腫瘍科 科長	49
ホスピスセミナー 緩和ケアにおける倫理的課題	2017年3月		日塔 裕子 横浜医療センター相談支援センターがん看護専門看護師	31
ボランティアアドバンス講座	2016年7月 ～2017年1月	3	西立野研二 日野原記念ピースハウス病院院長 他10名	延89

2) 第23回ホスピス国際ワークショップの開催

開催日：2017年2月25日(土)・26日(日)

開催場所：ピースハウスホスピス教育研究所

テーマ：喪失と悲嘆

—悲嘆ケアの専門家とともに考える—

講師：

① Prof. Danai Papadatou

国立アテネ大学健康科学看護学部 臨床心理学教授

② Dr. Amy Yin Man Chow

香港大学福祉学助教授

③木澤 義之

神戸大学大学院医学研究科先端緩和と医療学特命教授

内 容：

● 第1日目

・大切な人を亡くした子どもとその家族への支援
—子どもが体験する喪失と悲嘆—



国際ワークショップのAmy Yin Man Chow 講師(左)とDanai Papadatou 講師(右), および木澤義之講師



- ・生命を脅かす疾患に直面している子どもへの支援
—病とともに生きる子どもたち—
- ・危機状況にある子どもへのケアの実際—重篤な病
とともにある時, 大切な人を亡くす時—

● 第2日目

- ・緩和ケアに従事する専門職の苦悩
—ケアする人の喪失と悲嘆—
- ・個人の知識・技術・価値観を超えて
—多職種で一緒に働く—
- ・緩和ケアにおけるチームの力
—レジリエンスの視点—
- ・ケアと私—自己への気づきとセルフケア—

参加者：78名

3) 研修生の受け入れ

- ①ホスピス体験実習(計9名) 麻布学園麻布高校(2)・伊志田高校(1)・秦野曾屋高校(6)
- ⑤笹川記念保健協力財団日本財団ホスピスナース研修会(45名)

4) 研究会の開催

- ① Study Day —症状マネジメントを学ぶ—
- 期間：2016年9月～2017年2月(6回)

テーマ：

- 1) フォーカスチャータリングについて学ぶ
- 2) 看護に活かす痛みの理解
 - ①がん性疼痛
- 3) 看護に活かす痛みの理解
 - ②皮膚転移・骨転移などの痛みの理解
- 4) 看護に活かす痛みの理解

- ③神経障害性疼痛の痛みの理解
- 5) 最期の時まで最善のケアを
 - ①根拠を持った臨死期のケア
 - ②グリーフケアにつながるエンゼルケア
- 6) エンゼルメイクの実際

延参加者数：54名

- ②地域緩和ケア研究会 高齢者ケア部会

期間：2016年6月～2017年2月(3回)

テーマ：

- 1) ①薬局薬剤師の在宅への関わり方
 - ②病院薬剤師の立場での地域連携
- 2) 認知症のある方をどう支援するか
- 3) 地域で暮らす人々を支える
 - 医療・福祉・介護の連携—
 - ・認知症のある患者・高齢がん患者への退院支援
 - ・地域における連携の実際と今後の取り組み
 - 日常の体験, 困りごと, 工夫など—

延参加者数：93名

5) 一般への啓発・普及活動

- ①オープンハウスの開催

期間：2016年11月・12月

対象：ホスピス緩和ケアに関心を持つ個人, 団体など
参加者：78名

- ②ピースハウス見学への対応 17件・104名

主な団体：足柄上病院, 海老名総合病院, 小田原市立病院, 北里大学病院, 小田原医師会地域連携室, 神奈川県医療ソーシャルワーカー協会, 小田原看護専門学校, 他

6) 地域連携

- ①地域緩和ケア連絡会

期日：2016年7月15日

場所：東海大学医学部付属病院

テーマ：大学病院緩和ケアチームとホスピスケアチームの連携—事例を通して考える—

参加者：10名

- ②緩和ケアシンポジウム

期日：2017年3月11日

場所：ホスピス研究所

テーマ：がん患者・家族が遭遇する課題とその支援
—相談支援の実際と地域連携—

- 1) 緩和ケアチーム—専従看護師の立場から

松岡みちる

小田原市立病院緩和ケアチーム緩和ケア認定看護師

2) がん相談支援センターソーシャルワーカーの立場から

伊勢 啓一

東海大学医学部付属病院 がん相談支援センターソーシャルワーカー

3) 地域中核病院 地域連携一看護師の立場から

中村 由紀

神奈川県立足柄上病院地域連携室主任看護師

佐藤 和枝

平塚市民病院退院支援・医療相談室看護師

参加者：75名

7) 図書・文献整備と研究所会員制度（図書貸出など）

- ・定期購読雑誌 10誌（洋雑誌4誌・和雑誌6誌）
- ・教育研究所会員数21名（医師6名，看護師9名，理学療法士1名，ソーシャルワーカー1名，ケアマネジャー1名，介護士1名，医療ラーク1名，他1名）

8) 機関誌発行

ピースハウス活動報告（ふれんず Issue No.22）2,000部

3 | 学会等参加活動

1) 学会参加

- ・日本緩和医療薬学会（2016. 6. 4-5 浜松市）：吉田博史
- ・日本在宅医学会（2016. 7. 16-17 東京都）：山本典子，田中美江子
- ・日本摂食・嚥下リハビリテーション学会（2016. 9. 23-24 新潟市）：竹内悦子，宇賀玲実
- ・日本死の臨床研究会年次大会（2016. 10. 8-9 札幌市）：赤丸智子，蒔田あゆみ，坂本恵，平野真澄，松島たつ子
- ・日本ホスピス・在宅ケア研究会（2017. 2. 4-5 久留米市）：松島たつ子，山崎和子
- ・日本がん看護学会学術集会（2017. 2. 4-5 高知市）：桐ヶ谷政美，石黒恵美

2) 研修参加

- ・ホスピス・緩和ケアボランティア研修会（2016. 7. 21 土浦市）：志村靖雄

- ・NPO 法人日本ホスピス緩和ケア協会年次大会（2016. 7. 17-18 東京都）：吉田博史，桐ヶ谷政美
- ・日本病院ボランティア協会総会（2016. 10. 26 大阪市）：志村靖雄
- ・ELNEC-J コアカリキュラム（2016. 10. 23, 10. 30 伊勢原市）：永田浩子，白井珠美，小松知子
- ・日総研セミナー（2016. 2. 5 東京都）：宮本始緒

4

「日本ホスピス緩和ケア協会」事務局として

協会の正会員は、2016年3月現在、緩和ケア病棟302施設、緩和ケアチーム43施設（他に緩和ケア病棟として登録しているチーム49施設）、一般病院40施設、診療所等57施設から構成されている。

事業としては、①ホスピス緩和ケアの啓発・普及活動、②ケア従事者への教育、③ケアの質の確保と向上に関する調査・研究、④ケアに関する情報提供・情報交換、⑤国内外の関連団体との連絡、連携の以上5分野となっている。

具体的には、世界ホスピス緩和ケアデーに合わせた「ホスピス緩和ケア週間」への取り組み、看護師・ソーシャルワーカー・緩和ケア病棟管理者を対象とした教育プログラム、会員施設の施設概要や利用状況調査、年次大会の開催、支部活動の推進、ニューズレターの発行、日本緩和ケア協会との意見交換会の開催、また、厚生労働省への緩和ケアに関する提言などを行っている。今年度も多岐にわたる協会の業務を事務局として推進した。

新たな事業として、「緩和ケア病棟における質向上の取り組みに関する認証制度」がスタートした。本制度は、①施設概要調査・利用状況調査に参加し、ホスピス・緩和ケア病棟の現状を社会に公開する姿勢、次に、②自施設評価共有プログラムに参加し、ホスピス・緩和ケア病棟で働くスタッフ自らケアの向上に取り組む姿勢、さらに③第三者評価や遺族調査を受ける謙虚な姿勢の以上3つの面から評価するものである。2016年11月、正会員に登録している緩和ケア病棟319施設のうち、開設から1年を経過した308施設を対象に認証申請を受け付けたところ167施設から申請があり、161施設が質向上への取り組みが評価され認証された。緩和ケアが様々な形で広く提供されるようになり、量的な広がりとともに、ケアの質の維持・向上がますます重要な課題となっている。

報告／松島たつ子（ピースハウスホスピス教育研究所所長）

訪問看護ステーション中井

所在地：神奈川県足柄上郡中井町井ノ口1000-1

2016年4月で、18年目に突入した。2016年度は事務員の退職があり、訪問看護ステーションは看護師だけでまわっていたわけではないことを実感した。また休止していたピースハウス病院が新たなメンバーで再スタートし、割合としては少ないものの、自分たちの強みを生かすことができた。

以下に2016年度の統計及び活動について報告する。

1 | 訪問看護について

1) 利用者像

(1) 全体像

2016年度の実利用者82名（昨年比+6名）、男性45%、女性55%の比率で、年齢は30歳代から100歳代まで、中央値は81.5歳（昨年比±0歳）であった。利用者のADL（日常生活動作）や介護量を示す介護度の平均は、要介護3と昨年度と変わりはない。

利用者の家族構成は地域柄か2世帯、3世帯家族が多く、介護者がいないということはほとんどいない。主疾患については末期も含めた悪性新生物が27%、うち末期の方は全体の16%だった。

訪問看護の実利用者の保険割合は、28%が医療保険、72%が介護保険であり、訪問回数では26%が医療保険、74%が介護保険となっている。

主治医については、総合病院が4割、在宅療養支援診療所・一般開業医が3割という結果だった。

利用者の訪問看護利用月（82名の利用者が何ヵ月訪問看護を利用したか）の中央値は全体で8ヵ月、介護保険利用者は11ヵ月、がんターミナルは2ヵ月だった。

(2) 新規利用者像と訪問看護終了利用者像

今年度の新規利用者は37名（昨年比+14名）、終了者は31名（昨年比±0名）だった。新規利用者は42%ががんの方で、そのほとんどががん末期と診断された方だった。第一報が誰から入ったか、つまり依頼経路はケアマネジャー・家族・病院関係者からほとんどだった。

訪問看護終了理由では自宅での看取りとその他の理由（施設入所、不変）が35%で、ピースハウス病院を含めた病院に入院された方は29%だった。自宅で亡くなられた11名のうち、がん末期の方は8名、非がんの方が3名だった。

終了者の疾患はがんの方は42%、非がんが58%であった。

2) ケア内容

訪問看護内容は多岐にわたっているが、特に清潔・排泄ケア、ご本人への精神的支援、ご家族への支援が多くなっている。また訪問中にケアマネジャーや医師を含めた多職種連携も多く、電話報告やサービス利用ノート（連絡帳等）の記載などで行っている。

3) 振り返り

当該事業所は在宅ホスピスケアに力を入れているのが特徴であるが、以前に比べるとわずかながら外来での治療を継続しつつ、現在の体調や今後を見据え、訪問看護を利用される方が増えてきている。しかしながら外来での治療効果が得られなくなったとき、突然病名に「末期」が付いてしまうこともある。以前はこの段階で訪問看護を開始する方が多かったため、ご本人やご家族との関係構築がなかなかできないまま終了することが多かったが、最近の関係性が長くなった分、治療の段階から治療に関することや、今後の療養についての相談ができるようになってきている。

また医療機関やケアマネジャーに営業をかけ、新規の利用者を紹介してもらっても、言われるがまま開始したケースはすぐ終了してしまうのが目立ってきている。初回訪問した際の訪問看護の必要性の説明をしてはいるものの、その前段階のケアマネジャーへの理解度・認知度がまだ低いこともあり、来年度は関係性を築きながら、理解をあげていきたい。

2 | 居宅介護支援について

1) 利用者像

(1) 全体像

2016年度の実利用者56名（昨年比+9名）、40歳代から90歳代までで、中央値は80歳だった。全体の利用者の疾患はがんの方が18名で、そのうちがんターミナルの方は12名だった。利用者の介護度の平均は要介護3で、昨年度より軽度の方が増えている。利用者の居宅介護支援利用月（56名の利用者が何ヵ月支援をしたか）の中央値は8ヵ月（昨

年比-3カ月)だった。利用者の疾患はがんが3割、非がんが7割という割合だった。

(2) 新規利用者像と終了利用者像

新規利用者28名(昨年比+11名)、終了者20名(昨年比+1名)の共に5割ががんの方だった。終了者の理由としては、入院された方が3割、自宅で亡くなられた方が4割だった。また終了者の居宅介護支援利用月の中央値は2カ月だった。

2) 振り返り

今年度も居宅介護支援は非がんの利用者割合が多く、さらに新規依頼も多かったので、利用者が2割増えた。これまで2名体制で対応していたが、居宅介護支援のみの依頼も増えてきたこともあり、思い切って3名体制とした。訪問看護業務との兼務でもあるため、居宅介護支援部門内の体制と訪問看護部門との調整も必要だったが、スタッフ全員の理解と協力により、業務にあたることができた。

地域で活動する中で、利用者の病状など身体的問題が大きければ大きいほど、「看護師がケアマネジャーでよかった」と感じてくださる様子がうかがえる。また医療機関からも安心していただけているようで、依頼も続いている。

このような小さな信頼をひとつずつ積み重ね、「安心して任せられる事業所」を目指していきたい。

3 | 研修・地域貢献活動等の実績

1) 研修参加

(1) 研修受け入れ

- ・神奈川県看護協会訪問看護見学体験研修

(2) 研修・学会参加, 事例発表

- ・28年度中井町地域ケア会議にて困難ケースとして事例発表
- ・神奈川県看護協会訪問看護見学体験研修にて講義
- ・日本緩和医療学会, 日本ホスピス・在宅ケア研究会, 日本在宅医療学会学術集会, 足柄上医師会研修会などに参加
- ・ホスピス緩和ケア講座にて講義

2) 地域貢献活動

高齢者ケア部会(名称「よろしくネット」)の執行部事業所として、地域のサービス事業所にご協力いただきながら

ら、ホスピス教育研究所とともに部会の企画運営をし、地域の顔の見える関係づくりに力を注いだ。今年度もケアカフェ形式をとらず、講義をしていただき、その後参加者と話す時間を設けるという形式をとった。「皆で話ができるのがいい」という意見もいただいております。地域のニーズに合わせて内容や方式を検討していきたい。

また神奈川県看護協会よりこれから訪問看護ステーションで働きたいと考えている看護職を対象とした「訪問看護見学体験研修」の事例紹介の講義をさせていただいた。利用者から学ばせていただきたいろいろなことを伝達することで、これから訪問をやってみようという興味につながり、訪問看護が安定して受けられる、ひいては地域で安心して過ごすことができる環境につながればと思う。

3) 内部研修活動「月1勉強会」

これまでも外部研修に参加した後に、伝達講習という形で行っていた。これ以外という形で、毎月あるテーマを決めて資料を参考に学習をし、マニュアル作成につながり、事業所としての意識向上につなげるために「月1勉強会」を開催した。マニュアルの作成・見直しだけでなく、事故報告書から事故の傾向や対応策を検討するなど実践につながることも検討することができた。また「法令順守」や「倫理」「利用者のプライバシーの保護の取り組み」など、本来常に意識しながら業務に当たるべき内容についても振り返り学ぶことができ、次年度も継続していく予定である。

4 | 次年度への展望

2016年4月からピースハウス病院が再開し、また少しずつピースハウス病院の患者の支援を行うことができた。利用者にとって、医療の面で安心してお願いすることができる場所があるというのは、在宅で療養をする上ですごく大きいことである。そういう意味で「何かあったらピースハウスに入院しましょう」と伝えることができるというのは、私たちにとっても大きいと実感・再確認できた1年だった。

利用者にとってがんであろうとなかろうと、できれば家で過ごしたいという思いは大きく変わらない。その方たちの、そして「心配だけど、できるだけ家で見てあげたい」というご家族の思いに寄り添いながら、自分たちができる限りのケアを提供していきたい。

報告/田中美江子(訪問看護ステーション中井所長)

会 員

1 | 健康教育サービスセンター会員

健康教育サービスセンターの会員構成を表と図に示した。

健康教育サービスセンターの会員は、財団設立当初から1989年までに入会された会員がほぼ半数を占めている。このように長期にわたって支援して下さる方々のためにもサービスの質を落とすことなく活動していかねばならない。新入会員をどのように確保していくかが大きな課題となっている。

表 会員職種別内訳

会 員		男	女	合計
一 般		36	197	233
専門職	医師	6	0	6
	看護師	0	67	67
	その他	5	11	16
学 生		1	1	2
男女別合計		48	276	324

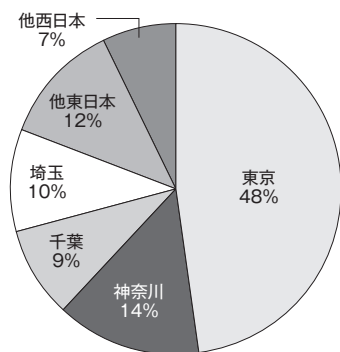


図1 健康教育サービスセンター会員地域別分布

2 | 健康教育サービスセンター団体会員 (2017年3月31日現在)

団体A会員 合計2団体

聖路加看護大学
御茶の水歯科

団体B会員 合計2団体

フランススコ ヴィラ
東京地下鉄株式会社

3 | 「新老人の会」会員

「新老人の会」会員構成

1) 全国支部・本部, 平均年齢, 会員数 (Noは設立順)

No.	支部名	男性	女性	全体	会員数
1	福岡支部	75.3	73.8	74.4	262
2	広島支部	76.1	73.8	74.7	235
3	兵庫支部	79.6	76.9	78.0	226
4	京都支部	74.4	73.6	73.9	152
5	大阪支部	73.2	72.7	72.9	217
6	東海支部	78.2	75.4	76.5	197
7	信州支部	71.6	71.6	71.6	169
8	北海道支部	77.1	75.9	76.4	146
9	宮城支部	74.2	71.2	72.4	124
10	山梨支部	77.3	75.1	76.2	118
11	島根支部	76.0	79.0	77.5	27
12	高知支部	71.7	70.8	71.2	193
13	鳥取支部	61.1	62.1	61.6	123
14	新潟支部	71.5	67.9	69.4	247
15	福島支部	69.6	68.2	68.8	281
16	熊本支部	77.1	76.7	76.9	254
17	静岡支部	77.8	76.9	77.2	154
18	宮崎支部	73.6	73.9	73.8	50
19	鹿児島支部	74.4	72.6	73.4	137
20	富山支部	75.9	70.4	72.8	41
21	岡山支部	76.1	74.1	74.9	163
22	三重支部	77.6	75.0	76.0	214
23	はりま支部	76.1	74.0	74.7	171
24	山口支部	75.1	74.4	74.7	184
25	神奈川支部	78.9	76.1	77.1	368
26	青森支部	78.4	73.6	76.0	102
27	群馬支部	70.9	69.5	70.0	54
28	石川支部	78.8	74.6	76.2	143
29	沖縄支部	75.0	72.4	73.6	131
30	和歌山支部	75.4	81.6	79.4	212
31	千葉支部	75.4	73.9	74.5	293
32	長崎支部	71.6	68.8	70.2	105
33	大分支部	72.8	71.2	71.8	182
34	愛媛支部	75.0	71.7	73.1	107
35	山形支部	74.4	72.4	73.4	111
36	徳島支部	68.1	67.1	67.5	140
37	佐賀支部	69.8	71.0	70.6	107
38	香川支部	72.5	67.9	69.8	49
39	富士山支部	73.6	69.3	71.1	202
40	秋田支部	65.7	65.1	65.4	84
41	滋賀支部	70.8	73.1	72.1	208
42	長野支部	75.4	70.9	72.8	136
43	栃木支部	76.1	74.7	75.4	175
44	岩手支部	75.4	71.4	73.4	82
45	福井支部	75.9	73.2	74.6	158

46	奈良支部	75.1	68.2	71.3	103
—	多摩ブランチ	75.5	74.0	74.5	229
—	本部	76.5	74.5	75.2	807
—	その他	79.4	57.0	73.0	9
	全体	74.6	73.2	73.8	8,382

2) 会員分布図

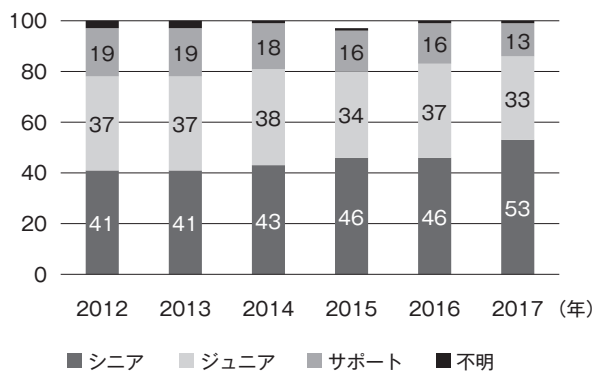


図2 年齢構成比率

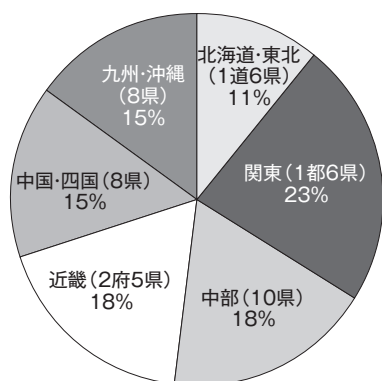


図3 地域別会員の分布 (%)

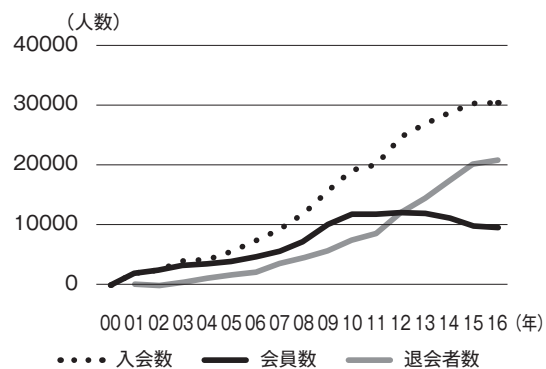


図4 会員数の変化

3) 会員の動向

本年度は支部フォーラムの開催数減少にともない新入会員数が減少し、会員数は減少傾向が続いている。また会員の高齢傾向、サポート会員の減少傾向がみられる。しかし各支部においては、中心となって活動して下さる方々の努力によって、会員数維持の努力がなされている。今後は、会員の大幅な増強は難しいが、全国組織の強みを生かして、会員減少をくいとめていきたい。

4 | 財団維持会員 (個人維持会員, 団体維持会員)

● 個人維持会員 51名

● 団体維持会員 5社

ティーペック(株)

公益財団法人 野村生涯教育センター

(株)TKB

(株)イーフォー

医療法人財団慈生会 野村病院

役員・評議員

2017年4月1日現在（五十音順）

理事長	日野原 重 明	非常勤	聖路加国際大学名誉理事長， 聖路加国際病院名誉院長
常務理事	朝 子 芳 松	常 勤	ライフ・プランニング・センター事務局長
理 事	石清水 由紀子	常 勤	「新老人の会」事務局長
同	久 代 登志男	常 勤	日野原記念クリニック所長， 日本大学医学部客員教授
同	佐 藤 淳 子	常 勤	日野原記念クリニック副所長
同	平 野 真 澄	常 勤	健康教育サービスセンター所長
同	福 井 みどり	常 勤	健康教育サービスセンター副所長
同	松 島 たつ子	常 勤	ピースハウスホスピス教育研究所所長
監 事	立 石 哲	非常勤	前ライフ・プランニング・センター常務理事
同	寺 田 秀 夫	非常勤	聖路加国際病院内科顧問（血液学）， 昭和大学名誉教授
評 議 員	岩 崎 榮	非常勤	特定非営利活動法人卒後臨床研修評価機構専務理事
同	紀伊國 献 三	非常勤	公益財団法人笹川記念保健協力財団会長
同	行 天 良 雄	非常勤	医事評論家
同	土 肥 豊	非常勤	日野原記念クリニック前所長， 埼玉医科大学名誉教授
同	道 場 信 孝	非常勤	ライフ・プランニング・センター顧問
同	平 山 峻	非常勤	聖路加国際病院形成外科顧問， 東京メモリアルクリニック名誉院長

財 団 報 告

ライフ・プランニング・センター本部 2017年3月31日現在

7 理事会・評議員会報告

1) 第11回理事会・第11回評議員会

(平成28年6月16日開催)

- 報告事項：平成28年4月よりピースハウス病院を再開するとともに日野原記念ピースハウス病院へ名称変更したことの報告があり承認された。

- 第1号議案 平成27年度事業報告の件（評議員会：報告事項）

「平成27年度事業報告書」に基づき、財団の各部門の活動報告について各部門長より報告がなされ承認された。

- 第2号議案 平成27年度計算書類及び財産目録承認の件（評議員会：第1号議案）

「平成27年度決算報告書」に基づき、以下の報告がなされ承認された。

(1) 収支の状況

- ①全体の収支は、405万円の黒字。
- ②日野原記念クリニックの収支は、8,675万円の黒字。
- ③ピースハウスの収支は、4,878万円の赤字。
- ④訪問看護ステーション中井の収支は、741万円の赤字。
- ⑤本部・健康教育サービスセンター・ホスピス教育研究所の収支は、2,455万円の赤字。
- ⑥「新老人の会」の収支は、194万円の赤字。
- ⑦次期繰越収支差額は、前年度からの繰越1億4,591万円を加えた1億4,997万円。

(2) 平成27年度決算報告書

正味財産増減計算書では、当期一般正味財産額は770万円の増加であり、期末の正味財産残高は6億8,106万2,070円である。

(3) 資産・負債の状況

- ①平成28年3月31日現在の資産合計額は8億7,171万円、負債合計額は1億9,065万円、差引正味財産額は6億8,106万円である。
- ②平成28年3月末現在のリース残高は6,247万円で、前年同月比1,681万円の減少。

なお、平成27年度決算において公認会計士による外部監査が実施されたことが報告された。

- 第3号議案 平成28年度収支予算の修正承認の件（評

議員会：第2号議案）

日本財団の助成金確定による修正と期初予算案作成後の諸要因の変化を織り込んだ修正がなされ、収入は11億3,403万円に対し、支出は10億9,503万円で、3,900万円の黒字予算。正味財産増減計算書ベースでは1,330万円の増加となる予算の修正案が提示され承認された。

- 第4号議案 内閣府宛公益目的支出計画実施報告書等の提出承認の件（評議員会：第3号議案）

平成27年度正味財産増減計算書にある当期一般正味財産増加額770万2,036円は、公益目的支出計画対象事業の赤字8,082万1,056円と、その他事業の8,852万3,092円の黒字に分けられる。また平成27年度事業年度末の公益目的財産額は3億4,122万7,904円となる。以上に基づき内閣府宛報告するとの説明があり、承認された。

2) 第12回理事会・第12回評議員会

(平成28年10月19日開催)

- 報告事項：平成28年度事業中間報告、同収支報告があり承認された。

- 第1号議案 平成29年度事業計画並びに収支予算案承認の件（評議員会：第1号議案）

資料に基づき、平成29年度の事業計画が承認され、また平成29年度収支予算規模は11億2,713万円で、収支では4,334万円の黒字、正味財産増減計算書ベースでは3,144万円の一般正味財産増加となる収支予算案が承認された。

- 第2号議案 日本財団に対する平成28年度助成金追加交付申請及び平成29年度助成金交付申請承認の件（評議員会：報告事項）

平成28年度の助成金追加交付申請として日野原記念ピースハウス病院建物の屋上防水改修工事費961万2,000円の80%である768万9,600円を申請する。

平成29年度の助成事業助成金について平成28年度と同様に「ホスピス緩和ケアの研究と人材の育成」事業として960万円を申請する。また基盤整備助成金については平成28年度と同額の5,550万円を申請したい旨の説明があり、承認された。

2 | 寄 附

本年度も財団各部門の運営支援のために多くの個人、団体からのご支援をいただきました。

受領部門	金 額
本部・公益部門	10,000円
日野原記念クリニック	50,000円
日野原記念ピースハウス病院 「新老人の会」	18,060,998円 4,505,640円
合 計	22,626,638円

3 | ピースハウス友の会

「ピースハウス友の会」は独立型ホスピス「ピースハウス病院」の運営を支援していただくために設立された組織で、会員の方々から年1回会費の形で寄付を継続していただいている。しかし2015年度は業務を休止したため、寄付活動も中断した形になった。

日野原記念ピースハウス病院として再開した2016年度は98件、1,820万円のご支援をいただいた。内訳はさくら会員（1万円）76件、ばら会員（3万円）12件、はなみずき会員（5万円）6件、かとおれあ会員（10万円以上）4件の計98件となっている。これを休院前の2014年度と比較すると、金額で-1,540万円（54%）、件数で-53件（65%）となった。

日野原記念ピースハウス病院は、平成28年4月より名称を新たにして再開いたしました。病院休止中は皆様方に大変ご迷惑をおかけいたしました。新生の日野原記念ピースハウス病院に対し、引き続きご支援と励ましをお願いいたします。

報告／朝子 芳松（ライフ・プランニング・センター事務局長）

4 | ボランティアグループの活動

LPCのボランティア活動は、昨年度と同様、①健康教育サービスセンターに属するオフィスボランティア、血圧測定ボランティア、模擬患者ボランティア、新老人サポートボランティア、②日野原記念クリニックを活動拠点とする三田クリニックボランティア、それに③日野原記念ピースハウス病院（ホスピス）を活動拠点とするピースハウスボランティアの6部門に分かれて展開している。財団の活動は多岐にわたって展開しているため日常的には部門間のボランティアの交流はない。そのため、財団

の理念を共有する目的で幾つかの行事が定例的に行われている。

1) ボランティア登録者数（2017年4月1日現在）

総数 138名（女性114名、男性24名）

内訳

●日野原記念クリニックボランティア	15名
●健康教育サービスセンター	
オフィスボランティア	20名
血圧測定ボランティア	14名
模擬患者ボランティア	35名
新老人サポートボランティア	2名
●日野原記念ピースハウス病院ボランティア	66名

*複数部門で活動しているボランティアがいるため合計と一致しない。

ボランティア総数は前年より5名減少しており、全部門とも高齢化が進んでおり、引き続き若返りは共通の課題となっている。

2) 年間活動時間（2016年4月1日～2017年3月31日）

総計 22,965時間（前年比 +8,535）

内訳

●日野原記念クリニックボランティア	3,285時間（-300）
●健康教育サービスセンター	
オフィスボランティア	665時間（-412）
血圧測定ボランティア	49時間（+29）
模擬患者ボランティア	4,190時間（-83）
新老人サポートボランティア	186時間（+78）
●日野原記念ピースハウス病院ボランティア	14,590時間（+9,223）

前年度と比較して全体で8,535時間増加したが、これはピースハウス病院が「日野原記念ピースハウス病院」として再開し、本来のボランティア活動が復活したことが主な原因である。日野原記念クリニックおよび健康教育サービスセンターの活動時間が減少したのは活動人員減と高齢化によるものであり、特にオフィスボランティアは機関紙『教育医療』と『新老人の会会報』が統一され作業量が減少したためと思われる。

ボランティアの活動時間は自己申告に基づいて記録集計され、初回は500時間、以降1,000時間刻みで一定時間に達した者に財団から感謝状と記念品を贈っている。

3) 2016年度の主な活動記録

2016年

5月2日 第1回 LPC ボランティア連絡会議
各部門の新連絡員の顔合わせと年間活動行事に関する活動計画を協議した。

5月27日 LPC ボランティアニュース No.24発行

5月28日 財団設立43周年記念講演会（笹川記念会館ホール）

LPC ボランティアは無料招待

9月28日 第2回 LPC ボランティア連絡会議
財団諸行事の案内、各部門ボランティア担当職員による業務報告と行事予定の説明。
本年度からLPCバザーは開催しない旨の再確認。連絡員による各部門活動報告。

12月12日 LPC ボランティアクリスマス会・ボランティア表彰式

本年度も笹川記念会館4階広間で開催され、ボランティア46名、来賓11名（主としてホスピスサポート活動を永年にわたり続けているグループ）、財団職員10名余が参加した。今年度は例年5月に行われていたボランティア表彰式を本席で行うこととしたため3部構成とし、第1部クリスマス礼拝、第2部LPCボランティア表彰式（詳細後述）、第3部懇親会とした。第1部は、ピースハウスにチャプレンが不在のため、日野原理事長にクリスマスの祈りとメッセージをお願いし、礼拝終了後、昨年度同様、日野原理事長105歳誕生祝いのケーキを用意して参加者一同で長寿を祝福した。時節柄今年度もプレゼント交換は行わなかった。会は理事長の長寿

と日野原記念ピースハウス病院の再開祝賀ムードのうちに終了した。

2017年

1月1日 LPC ボランティアニュース No.25発行

3月6日 LPC ボランティア研修会・LPC ボランティア連絡会議

健康教育サービスセンターのある千代田区一番町の進興ビル会議室において前年度と同様連絡会議と研修会を合同開催した。詳細は「ヘルスボランティアの育成と活動」の項で報告した。

4) ボランティア表彰式

日時 2016年12月12日(月) 12:30~12:50

会場 笹川記念会館 LPC ボランティアクリスマス会席上

内容

①2015年度はピースハウス病院が休院したために表彰者は12名にとどまった。表彰式では日野原理事長から代表者（18,000時間達成者の中嶋久喜子さん）に感謝状と記念品が手渡され、受賞者を代表して中嶋久喜子さんからお礼の挨拶を受けた。

②表彰時間数と人数は、500時間4名、1,000時間1名、2,000時間2名、3,000時間1名、4,000時間1名、6,000時間1名、7,000時間1名、18,000時間1名の合計12名で、部門別では健康教育サービスセンター4名、日野原記念クリニック5名、日野原記念ピースハウス病院3名であった。うち男性受賞者は1名であった。出席者は表彰対象者12名中10名であった。

報告/志村 靖雄（ボランティアコーディネーター）

一般財団法人ライフ・プランニング・センター
年報 2016年度（平成28年度 2016.4-2017.3）・No.6（通巻44）

一般財団法人 ライフ・プランニング・センター
理事長 日野原重明

〒108-0073 東京都港区三田 3-12-12
笹川記念会館11階
電話 (03) 3454-5068(代) FAX (03) 3455-1035
URL:<http://www.lpc.or.jp>

2017年 6 月発行 (株)イーフォー

一般財団法人 ライフ・プランニング・センター

〒108-0073 東京都港区三田3-12-12 笹川記念会館11階
電話 (03)3454-5068 FAX (03)3455-1035

■日野原記念クリニック（聖路加国際病院連携施設）

〒108-0073 東京都港区三田3-12-12 笹川記念会館11階 (03)3454-5068 FAX (03)3455-1035

■健康教育サービスセンター

〒102-0082 東京都千代田区一番町29-2 一番町進興ビル1階 (03)3265-1907 FAX (03)3265-1909

■「新老人の会」事業部

〒102-0082 東京都千代田区一番町29-2 一番町進興ビル1階 (03)3265-1907 FAX (03)3265-1909

■臨床心理・ファミリー相談室

〒102-0082 東京都千代田区一番町29-2 一番町進興ビル1階 (03)3265-1907 FAX (03)3265-1909

■日野原記念ピースハウス病院（ホスピス）

〒259-0151 神奈川県足柄上郡中井町井ノ口1000-1 (0465)81-8900 FAX (0465)81-5525

■ピースハウスホスピス教育研究所

〒259-0151 神奈川県足柄上郡中井町井ノ口1000-1 (0465)81-8904 FAX (0465)81-5521

日本ホスピス緩和ケア協会事務局 (0465)80-1381 FAX (0465)80-1382

■訪問看護ステーション中井

〒259-0151 神奈川県足柄上郡中井町井ノ口1000-1 (0465)80-3980 FAX (0465)80-3979